

抑々海船ハ多クハ數人之レテ共有スルヲ要ス是ヲ以テ前項ニ於テ論  
 シタル元則チ適用スルルハ海船ニ就テハ大ニ害アリ又海船ノ所有權  
 チシテ利ヲ得ルノ方法ハ多クアラサルヲ以テ此元則ニ不正ニ至ル  
 ナクシテ違背スルヲ得可シ夫レ海船ハ運送ヲナス爲メ之ヲ獲ル  
 アリ若シ數人此目的ヲ以テ共ニ海船ヲ獲タルルハ以テ其數人間ニ完  
 全タル會社契約ノ已ニ成立シタルモノト思量ス可シ則チ單ニ共通ノ  
 ミニ非サルナリ余輩ハ此場合ヲ説クヲ要セス而シテ此場合ノ外ニハ  
 海船ヲ賃貸シテ其賃料ヲ取ルタメ之ヲ獲ルノ場合アルノミ果シテ此  
 目的ニテ海船ヲ買得シタル時ハ其海船ノ共有者ハ互ニ此目的ヲ達ス  
 ル爲メ必要ノ事ヲ盡スノ義務ヲ德義上ニ於テ負ヒ其何人ト雖モ海船  
 チ賃貸スルヲ拒ムヲ以テ正當ノ利益トスル者ナリ又説ク一定セサル  
 ルハ少數ノ者ハ多數ノ議ニ從フ可キハ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ

多數ノ者ハ爲ス可キヲ能ク爲サズトスルモ何モ爲サ、ルハ尙ホ却  
 テ各人ノ爲メ最モ害アレハナリ○是レ第二百二十條第一項ノ定メア  
 ルノ理由タリ

第二百二十條第一項 海船ノ諸所有者ノ共全ノ利益ニ關シタル總テ  
 ノ事ニ付テハ多數ノ議ニ從フ可シ

千六百八十一年王令第二編第八卷第五條比較○既ニ余輩ノ説明シタ  
 ル理由アルニ依リ海船ノ所有者ノ一全ハ其物件共通ヲ生セシメタル所  
 ノ契約又ハ準契約ニ依テ多數ノ議ニ從フヲ承諾シタルモノトス而  
 シテ法律ハ特ニ契約ヲ以テ定メルルルノ場合ヲ規定ス故ニ海船ヲ獲  
 ルノ契約又ハ其物件共通ヲ生セシムル所ノ遺囑者或ハ贈與者ノ存意  
 ニ於テ其共通者間ノ關係ヲ法律ノ定ムル所ヨリ異ニシテ規定スル  
 可シ得可シ



第二百二十條第一項ノ定規ヲ適用スルニハ先ツ海船ノ諸所有者ニ問ヒ其說ヲ聽カサル可カラズ多數ヲ組織スルニ充分ノ數名ノ說ヲ聽クノミヲ以テ足レリトセス何トナレハ其說ヲ聽カサル者ノ與フル所ノ理由却テ其多數ノ說ヲ變スルコトナシト云フコト能ハサレハナリ

(第一千七十二號) 會社ニ在テハ亦多數ノ說ニ從フヲ以テ元則トス前項ノ規則ニ依ルキハ海船ヲ共有スル場合ト會社ト相似タルカ如シ(論題) 然レハ海船ヲ共有スル場合ハ會社タル乎何レノ場合ヲ問ハス概シテ之ヲ共分會社タリトナシタリ余輩ヲ以テスルキハ其說非ナリ何トナレハ余輩ハ一モ會社ノ性質ナキモノトスレハナリ但シ之レニ多數ノ說ニ從フ可シトノ規則ヲ適用シ又其結果ニ從フハ特別ノ理由アリテ然ルナリ是ヲ以テ直ニ會社ト云フヲ得ス(以上第五百五十三號參看) 請フ其會社ニ非サルコトヲ說カン○夫レ海船ノ共有ハ最モ屢契約ナ

クシテ生スルコトアリ○又其契約ニ依リ生スルキト雖モ新結果ヲ生セシムルヲ目的トスルニ非ス一箇ノ所有者カ海船ヲ使用シテ利ヲ得ルト全一ノ方法ニテ共全物件海船ヲ使用シテ利ヲ得ルナリ○又其海船ヲ共有スルコト付テハ明許或ハ默許ニテ定リタル期限ナシ○又其共有者間ニ之レヲ共有スルニ互ニ義務ナシ是ニ因テ其各人ハ他ノ許諾ナク自由ニ自己ノ持部分ヲ賣ルコト得可ク又其一人死去スルトモ其海船共有ノコトハ其相續人ト共ニ保續ス可シ

然レモ右概言スル所ノ論定ハ大ナル例外ヲ受クルコトアリ其論定ハ海船ノ共有者親カラ海船ヲ艦裝シテ其全部又ハ一部分ヲ他人ニ賃貸スルキハ正適ナフス何トナレハ右ノ如ク海船ヲ艦裝スルハ運送ノ業即チ商業タルハナリ夫レ商業タル故ニ巨額ノ資本ヲ前拂セシ又人力ヲ互ニ供與シ又ハ資本ヲ互ニ供出スルナリ唯タ海船ヲ占有シテ利益ヲ



得ルノミナラス故ニ其共有ハ會社ノ總テノ性質ヲ帶有スルナリ  
 (第千七百七十三號) 會社アルトナキトテ問ハス第二百二十條第一項ノ  
 規則ハ何レノ場合ニ於テモ真正ナリ其規則ハ總テ海船ノ所有者ノ共  
 全ノ利益ニ關スル事ニ適用ス可シ之ヲ詳言セハ前ニ記シタル理由ニ  
 依リテ海船ヲ以テ利ヲ得ルコトニ付必要ナル一切ノ事ニ適用ス即チ海  
 船ノ全部ヲ賃貸スルキハ賃借主ヲ撰フコト及ヒ賃貸ヲ定ムルコト又海船  
 ノ一部ヲ賃貸スルキハ何クニ航海スルカヲ定ムルコト積入ルヘキ荷物  
 ヲ定ムルコト運賃ヲ定ルコト又船長ヲ撰ムコト其給金ノコト其罷免ノコト又乗  
 組人ヲ撰フコト又艤船ノ入費ノコト是ナリ○第二百二十條ノ定規ニ違背  
 スル場合ノ制裁ハ第二百三十三條ニ在リ此條ニ於テハ若シ二三所有  
 者艤船ノ入費ヲ出スコト拒ムキハ海船上其者ニ屬スル部分ヲ裁判官  
 ノ許可ヲ得テ書入質ト爲スコトヲ許ス

余輩ノ既ニ論シタル所ニ依ルキハ多數ノ說ニ從フノ義務ハ海船ヲ以  
 テ利益ヲ得ルノ通常ノ方法ヲ用ヒサルキハ是レナキ者トス其通常ノ  
 方法ヲ用ヒサルトハ例ヘハ海船ノ賃借主ナキニ付海船ニ積入レ運送  
 スル爲メ商品ヲ買入ルハノ場合ノ如キ是レナリ(但シ此場合ニ於テハ  
 海船ハ之ヲ其共有者ノ計算ニテ未タ運送ニ用ヒタルコトナキモノトス  
 可シ若シ之レアルキハ其間ニ會社ノ成立シタルモノトス)夫レ此場合  
 ハ海船ノ豫定ノ使用法ニ非ス通常ノ航海ノ危險損失ヲ擔當スルコトヲ  
 承諾シタル者ト雖モ商品ヲ以テ之ヲ賣買シテ射利スルノ危險損失ヲ  
 擔當セサルナリ○余輩ハ亦海船ノ所有者ノ多數海船ハ以後航海セス  
 之ヲ住所病院粉挽場等ニ使用スルコトヲ決シタルキモ上ニ論スル所ニ  
 全シトス何トナレハ是レ豫定ノ通常ノ事柄ニ非ス共通ノ目的最初ト  
 大ニ異ナレハナリ如此ノ場合ニ於テ議定一ナラサルヲ以テ其海船ヲ



賣拂ヒ其代金ヲ分配スルノ方法ニ依ラサルヲ得ス(第二百二十條第三項)  
 海船ハ之レニ保險ヲナサシムルヤ否ヤノ問題ニ付テハ衆人ハ其所有者ノ多數其少數ヲ抑壓スルヲ能ハストス蓋シ其各所有者ハ海船ニ付己レノ有スル部分ヲ保險ナサシムルヲ得可キヲ以テ海船ノ全部ヲ保險ナサシメタルト全權ニ己レノ利益ヲ保証スルヲ得ルノ故ニ敢テ其多數ノ議決ヲ以テ海船ヲ保險ナサシムルヲ要セサルヲ以テナリ  
 (第三百三十五條)但シ若シ艤裝者兼支配人アルキハ海船ヲ保險スルノ事ハ其委任ノ權内ニアルトス何トナレハ各共有者ハ其人ヲ任ジタルハ海船ヲ取扱フ一切ノ煩勞ヲ之ニ任シ親カラ之ヲ免カレントシ欲シタレハナリ余輩ハ其多數者ハ海船全部ヲ書入質トナスヲ得ル者トス何トナレハ其事タルヤ海船ヲ以テ共ニ利ヲ計ルニハ其共有者一全ノ爲メ必要ナレハナリ但シ其各共有者ハ自己ノ持部分ヲ書入質ト

スルニハ前ト抵觸スルヲナシトス  
 又一度多數ノ說ヲ以テ議決シタルキハ衆人ニ於テハ其事ニ付既得權ヲ得タルモノナルヲ以テ再度多數者ハ其議決ヲ變換スルヲ得サルモノトセザルヲ得ス

多○數○ヲ○定○ム○ル○事○

第○二○百○二○十○條○第○二○項○ 其○多○數○ハ○海○船○中○持○部○高○ノ○部○分○ニ○シ○テ○其○價○ノ○半○ヲ○超○過○シ○タル○モノ○ニ○依○リ○テ○之○ヲ○定○ム○可○シ○

(第千百七十四號) 人員多數ニシテ海船ニ入レタル利益即チ出前高最モ大ナル部分ヲ有セサルモノニ決定ノ專權ヲ與フルハ非理ナリ本條ニ依ルキハ所有者中ノ一人ニシテ海船ノ半價以上ヲ所持スル者ハ自己一名ニシテ諸事ヲ決定スルヲ得  
 最モ一般ニ地中海ノ諸港ニ於テ殊ニ海船ノ所有權ヲ二十四箇ニ分ツ



其一分ヲ「キ、ラ、ッ、ト」ト云フ而シテ其共有者ヲ「キ、ラ、テ、ー、ル」ト云フ「キ、ス、ッ、ト」ハ亦之レヲ幾箇ニ小分スルヲ得故ニ法律ノ望ム所ノ多數トハ十二「キ、ラ、ッ、ト」以上ヲ表示スル者トス○大洋ニ沿フタル諸港ニ於テハ海船ノ所有權ヲ或ハ百或ハ千ニ分ツテ屢ナリトス

〔論題〕 說、兩、端、ニ、分、レ、各、海、船、ノ、持、部、ノ、半、以、上、即、チ、十、二、「キ、ラ、ッ、ト」ヲ、有、ス、ル、場、合、ニ、在、テ、ハ、如、何、ス、可、キ、乎、

之ヲ解スルニ二說アリ○第一說ニ曰ク海船ハ必ス航海スルヲ要ス說ノ兩端ニ分レタルキト雖モ孰レカニ決セサルヲ得ス其最良ノ方法ハ海船ノ所有權ノ通常一般ノ目的ニ適スル方法ニ決スルニ在リ其目的ニ適スルノ一方ニ決スルハ即チ海船ハ必ス航海スルニ決スル是ナリト是レ亦「エ、ミ、リ、ゴ、ン」氏ノ說タリシナリト○第二說ニ曰ク海船ヲ賣拂ヒ其代金ヲ分配ス可シ(余ハ此說ヲ可トス)夫レ少數ノ者ヲシテ多數ノ

者ノ說ニ服從セシムルハ己ニ甚タ法外ノ定則タリ此定則ハ法ノ明文ナキハ諸場合ニ擴充シテ適用スルヲ得ス况ンヤ多數ノ說ニ非サル場合ニ於テチャ又場合ニ依リ時機ニ於テ航海ヲナスヲ拒ムハ最モ確乎タル理由ノアルコトアリ又法律ニ於テハ說ノ兩端ニ分レタル場合ニ因リ生ス可キ困難ヲ豫定ス故ニ第二百二十條第三項ニ於テ半數ノ者ニ海船ヲ賣拂フテ代金ヲ分配スルヲ求ムルヲ許ス是レ即立法者ノ望ム所ノ此問題ノ處分ナリ又千六百八十一年ノ王令(第二編第八卷第六條)ハ該論題ノ場合ニ於テ海船ヲ賣拂フテ其代金ヲ分配ス可キヲ命定メタリ

(第千七百七十五號) 共有海船ノ支配ハ多クハ共有者中一人ニ任ス此任ヲ受ケタルモノヲ「ア、ル、マ、ト、ー、ル、セ、ラ、ン」譯シテ艤裝者兼支配人ト云フ若シ之レアルキハ一全入費ヲ出シテ海船ヲ賃貸スルノ業ヲナスモノ



ト知ル可シ故ニ又會社アルモノト了得スヘキナリ而シテ此者ハ他ノ  
 共有者ノ名代人ニシテ其權限ハ之レニ名代ヲ任シタル契約ヲ以テ定  
 ム又所有者即チ其名代ヲ任シタル者ノ多數ノ説ニ依リ其委任ヲ罷メ  
 シムルヲ得可シ但シ其名代人タル者十二ニキラット以上ノ所有者クラ  
 サルヲ要ス若シ其所有者タルキハ常ニ多數タルヲ以テナリ又其名代  
 人タル者己レ常ニ艤裝者兼支配人タルトノ要件ヲ定メテ共有權ヲ得  
 タルヲナキヲ要シ又海船ヲ獲タル所ノ元證書又ハ其共有者間ニ成  
 立シタル會社設立書ニ於テ名代人ニ任セラレサルヲ要ス何トナレハ  
 此契約ハ固ヨリ破毀スルヲ能ハサルヲ以テ其要件ノ一タル名代契約  
 モ亦之レヲ破フルヲ得サレハナリ(民法典第千八百五十六條ニ依リ  
 テノ推理)

「アルマトール、ゼラン」ノ所爲ハ其名代ヲ任シタル者他人ニ對シ之ヲ擔

當セサルヲ得ス

(論題) 然ルニ其擔當スルノ區域如何

第一説ニ曰ク海船ニ付テハ持前高ヨリ以外ニ擔當ス可カラス夫レ第  
 二百十六條(以下第千八百八十三號)ニ於テ船長ノ所爲ニ付此規則ヲ定ム  
 「アルマトール、ゼラン」ニ就テモ亦然ラサルヲ得ス又海船ノ所有者ハ海  
 船ヲ共有スルヲ因リ生スル結果ハ通常ノ差金人ノ如ク取扱ハレル  
 ハ慣例ナリ又其海船ヲ共有スルノ有様恰モ差金會社ノ有様ト相似タ  
 リ何トナレハ一方ニハ一支配アリテ他ノ一方ニハ支配ヲセサル關係  
 者アレハナリト○第二説ニ曰ク無限ニ擔當ス可ク夫レ一般ニ名代ヲ  
 共ニ任シタル者ハ其名前ニテ其名代人ノ約定シタル義務ハ無限ニ擔  
 當スルモノトス是一○第二百十六條ハ例外ニ屬スルモノニシテ其豫  
 定スル所ノ場合外ニ及ホスヲ得ス此條ニ於テハ船長ノヲ云フニ



非スヤ然レハ此場合外ニ適用セス是二〇論者ノ引援スル所ノ慣例ハ  
 第二百十六條ノ場合外ニ及ハサルナリ是三〇支配人ト支配人ニ非サ  
 ル者トアルヲ以テ直ニ差金會社ノ姿ナリト云フヲ得ス強ヒテ云ハン  
 トスルナレハ寧ロ合名會社ノ姿ニ似タリト云フ可キナリ是四〇此ノ  
 四理由アリ以テ無限ニ責ヲ負フ可シト(前第七十九號以下參看)  
 海船ノ共有者ハ前ノ如ク其海船ニ付テノ持前高以外ニモ責ヲ負ハサ  
 ルヲ得サルノミナラス其責ヲ連帶シテ負フ可キモノトス其理由ヲ説  
 カン夫レ艦裝者兼支配人アルハ共全シテ勞働シ利ヲ營ムトアルヤ必  
 セリ余輩ノ前ニ論シタル如ク斯クシテ利ヲ營ムハ會社ヲ組織スルモ  
 ノニシテ商業トナルナリ故ニ其各共有者間ニハ商事ノ會社ヲ成立ス  
 ○若シ此會社差金會社タラサルハ合名會社タリ何トナレハ共全シ  
 テ勞働スルヲアリテ他人一般ニ之ヲ知ルルハ其會社ハ共分會社ニハ

アラサルナリ故ニ無論連帶ノヲ生スルナリ(三百六十六號參看)〇勿  
 論第二百十六條第三項ニ於テハ連帶ノヲ一モ生スルヲナキモノトス  
 然レモ其定ムル所ハ會社ノ場合ニアラス共有者タル所ノ船長ノヲノ  
 ミヲ定ムルナリ

海船ノリシタシヨノ事(リシタシヨントハ物件ノ不分割エ  
 ル者之ヲ適宜ニ分ツテ能ハス又ハ物件ヲ毀損セズシテ分  
 ツテ能ハサルキ其代價ヲ分配スル爲メ之ヲ競賣スルヲ得  
 フ云)

第二百二十條第三項 海船ノリシタシヨノハ海船ニ付總持部高ノ半  
 ヲ合有スル所有者等ノ請求ニ依リテノミ之ヲ許スヲ得可シ但シ  
 書付ニ依テ反對ノ契約アルハ此限ニアラス

(第千七百七十六號) 本項ハ民法典第八百十五條ノ定規ニ反ス第八百十  
 五條ニ依ルキハ分派ハ共有者中ノ一人ニテモ之ヲ請求スルヲ得ル







(第千七百七十七號) 千八百七十四年十二月十日ノ法令ハ其第十八條第三項ニ於テ又普通ニ反シタリ全法令ハ海船ノ分派又ハ「リシタシヨ」ノ場合ニハ民法典第八百八十三條ノ規則ヲ廢止セタリ第八百八十三條ノ規則ニ依ルキハ分派及ヒ之レト全一ノ事柄ハ「デクテ、チーフ」ノ効アルモノニシテ殊ニ物件ヲ監守セサル共有者カ其物件ノ不分割中ニ約定シタル書入質ノ權ヲ消滅ス第八百八十三條ハ物件不分割ノ常ニ有スル所ノ一時ノモノタル性質ヨリ生スル結果ナリ然ルニ此一時ノモノタル不分割ヲ以テ永久ニシテ通常ノモノト定メタルキハ第八百八十三條ノ規則ヲ存スル「」ヲ得ス殊ニ海船ニ付書入質ノ權ヲ許シタル法令ニ於テハ各共有者ヲシテ確乎トシテ變更セサル權利ヲ其書入質ノ權ヲ有スル債主ニ供與セシメテ以テ其自己ノ持部高ニ付キ人ヲシテ信ヲ置カシムルヲ要ス○法律ハ物件不分割ノ一時ノモノタル

ノ性質ヲ有スル場合即チ其不分割ノ相續又ハ夫婦財産共通ノ消散シタルヨリ生シタル場合ニ於テハ此新規則ハ適用シタルモノトナシタルハ至當タリ此等ノ場合ニ在テハ第八百八十三條ノ規則ハ決シテ之ヲ適用スルモ不都合ナシ反テ其規則ハ普通法ニテ與フル所ノ一切ノ利益ヲ與フヘシ乃チ殊ニ相續人間ニ錯雜ナル要債權ヲ互ニ行フ「」ヲ省クナリ

## 第二章 船長雇入ノ契約

(第千七百七十八號) 政府ヨリノ免許ヲ得タル船長ナクシテ海船ヲ航海セシムルハ禁止サレタリ以前ハ此船長ヲ大洋ニ於テハ「ハート」ト稱シ地中海ニ於テハ「パトロント」ト稱シタリ○船長トナルニ付テノ要件ハ左ノ如シ

### 第一 佛國人タル「」



第二 少クモ二十四歳タルヲ

第三 六十月間航海ニ従事シタルヲ但シ其中十二月間ハ政府ノ  
船艦ニ乗リテ航海シタルヲ

第四 試験ヲ受ケタルヲ

此試験ニ二等アリ一ハ遠路航海ノ船長ノ免狀ヲ與フルモノナリ此免  
狀ヲ得タルモノハ如何ナル航船ニテモ之ヲ指揮スルヲ得ニハ沿海  
航海ノ船長ノ免狀ヲ與フルモノナリ之ヲ得タルモノハ沿海地方ヲ航  
海スルヲ得ルノミニテ航海ノ區域ノ少ナルモノナリ(第三百七十七條  
參看)○千八百二十七年十一月二十五日ノ王令ノ頒布以前ニ在リテハ  
沿海ノ航海ヲニニ區別セサルヲ得サリシナリ大沿海船小沿海船是ナ  
リ○千八百六十六年總規則書第二百四條○千八百五十四年六月十四  
日法令○千八百五十七年一月二十六日ノ勅令參看○千八百六十三年

十月二十二日勅令比較)

免許ヲ得タル船長中ニテ我カ雇入レントスル船長ヲ撰擇スルハ海船  
ノ所有者ノ權内ニ屬スルモノトス若シ其所有者數人アルキハ前ノ撰  
擇ノ一ハ其多數ニ屬ス(第二百二十條第一項參看)アルマトール、セラソ  
(艤裝者兼支配人)アルノ場合ニハ前ノ撰任ノ一ハ其委任權限ノ區域内  
ニ包含スルモノトス又海船ヲ艤裝スルヲ其全部ノ賃借主ノ意見ニ  
任シタルキハ其海船ノ賃借主船長ヲ撰任スルヲ以テ普通ノ例ナリト  
ス以上記ス所ノ船長ヲ撰任スル所ノ諸人ハ之ヲ「アル、マトール、」譯シテ  
艤船者又ハ艤裝者ト總稱ス此語ハ以下余輩ノ用フルヲ屢ニシテ且多  
シトス

(第千七百七十九號) 船長雇入ノ契約ハ全ク勞力ハ賃貸借契約ナリ然レ  
ル其契約ハ委任契約ト混全ス而シテ其委任契約ハ普通法上ノ總理委



任契約又ハ黙諾委任契約ヨリ其區域最モ廣キモノトス即チ船長ハ海船又ハ航海ニ關シ自己ノ所爲又ハ自己ノナシタル契約ニ依リテ少ナクモ海船ノ價額ニ充ツルマテハ其所有者チシテ責チ負擔セシムルナリ(以下第二百十六條參看)又二三ノ場合ニ於テハ或ハ運借チナスニ付キ海船チ引當トシ(第二百三十四條)或ハ海船チ賣却シテ(第二百三十七條)其所有權チ自由ニ處分スルヲ得又船長ハ艙裝者ノ著大ノ財產チ任セラレタルノミナラス乗組人及ヒ船客ノ生命チ任セラレタルモノニシテ其職分ハ全ク信用上ヨリ成立スル職分ナリ故ニ法律ニ於テ其任チ罷免スルヲ容易ナラシメサル可カラス即チ艙裝者些少ノ不信チ抱クキト雖モ其艙裝者チシテ直ニ其船長チ代ヘルノ權チ有セシメサル可カラス是レ第二百十八條ノ理ナリ

第二百十八條 海船ノ所有者ハ船長ニ暇チ與フルヲ得可シ

別○段○契○約○書○ヲ○サ○ル○キ○ハ○償○チ○爲○ス○ニ○及○ハ○ス

此第一項ノ定規ハ前ニ示シタル理由ニ依ルキハ公安ニ關スルモノナリトス而テ立法者カ其定規ヲ以テ緊要ノモノナリトナシタルカ故ニ其第二項ニ於テ船長ニ償金チ求ムルノ權チ與ヘスシテ之チ拒絕シタルナリ是故ニ黙許又ハ明許ノ契約タルヲ論セス如何ナル契約ニテモ船長チ廢罷スルノ權チ剝奪スルヲ得ス是故ニ又船長ノ姓名チ海船賃貸借書中ニ記載スルモ其船長チ代換スルヲ付故障チ陳スルノ權チ其賃借主ニ付與セサルナリ○前ト同一ノ權利又海船ノ所有者チ兼チサル艙裝者ニシテ船長チ任シタルモノニ屬ス可シ

(第千八百十號) 余輩ノ前ニ言シ如ク商法典船長ニ償金チ要求スルノ權チ與ヘサルハ其罷免チ妨ケサル爲メナリ(ローレン氏ハ獨リ船長ニ其船長ハ償金チ要求スルノ權アリトス(第六百一十一丁及ヒ以下)○以下第千二百三十一號參看)是レ勞力ノ賃貸借ノ通



常ノ規則ニ反シ又水夫ノ付定ナル規則ニ反ス(第二百七十條)水夫ハ其解雇ノ正當ノ理由ナキハ償金ヲ要求スルノ權アリトス○然レモ船長ニ關スル此規則ハ公安ニ關スルモノトセス何トナレハ船長ニ償金ヲ拂フ可シトスルモ敢テ其罷免ヲ妨ケルコトナシ且又タ艙裝者ニ於テ確乎タル妨害トナラサルナリ是故ニ第二百十八條ハ償金ノ付契約書アルハ船長ハ償金ヲ要求スルヲ得可シトス(第二項)余輩ハ償金ヲ拂フニ付契約書アルヲ要スルモノトシ其雇入契約ヲ書面ニテ認メタル場合ヲ豫定シタルモノニアラストシテ此第二項ヲ解釋シタリ何トナレハ其雇入ノ契約ヲ書付テ以テ證スルト否トハ償金ヲ要求スルノ權利ノ有無ヲ定ムルニハ關係ナキコトナレハナリ且若シ第二項ヲ余輩ノ如ク解セサルハ第一項ノ元則ハ無トナルナリ何トナレハ假令ヒ乗組人簿ニ於テ證明スルニモセヨ船長雇入ノ契約ハ

何レノ時ニテモ書付テ以テ證明スレハナリ  
 第二項ノ船長ニ拒絕スル所ノモノハ暇ヲ與フルコトニ付テノ償金ナリ即チ航海中自ラ勞役シテ得可キ所ノモノト解雇ノ爲メ更ニ雇口ヲ見出スニ至ルマテ受ケタル所ノ損失トニ付テノ償金ナリ是レ第二百十八條ノ文字ノ自然ノ意義ナリ○然レモ此ノ如ク解スルハ本條ノ意義ト精神トノ外ニ出ルモノトス若シ例ヘハ船長歸途船ニ乗ルノ入費又ハ艙裝ノ港ニ歸ルノ入費又ハ其艙裝ニ付テノ給料ノ如ク其自ラ費シタル入費ノ償還ヲモ船長ニ拒絕スルハ實ニ不正ナリ此勞役ノ付ハ通常ハ別段ニ其報トシテ給料ヲ拂ハス是レハ航海ニ付キ約シタル給料ノ中ニ包含スルモノトス然レモ若シ船長ニ此航海ヲナスコトヲ拒ムハ船長ノ此航海ヲナサン爲メ勞役シテ費シタル時間ニ關シテ相當ノ謝料ヲ拂ハサルヲ得サルナリ若シ船長航海中暇ヲ與ヘラレタルハ



其暇ヲ與ヘタル時マテノ給料ノ外ニ歸路ノ入費ヲ受クルノ權アリト  
 ス又罵詈譏謗ノ處置ヲ以テ船長ニ暇ヲ與ヘタルキハ船長ハ其罵詈譏  
 謗ニ付テ償ヲ要ムルノ權アリトス○第二百十八條第二項ノ規則ハ船長  
 ニ其身上ニ關スル理由ヨリシテ暇ヲ與ヘタルキノミニ適用シテ其雇  
 入ノ契約海船ノ差押又ハ航海ノ差留等ノ如キ外部ノ原由ニ依リテ解  
 除シタル場合ニハ適用セサルナリ(以下第千二百三十一號參看ス可シ  
 (第千百八十一號)アルマトールハ船長ヲ隨意ニ罷メシムルヲ得可  
 シト雖モ船長ハ航海中自由ニ其職ヲ辭スルヲ得ス反テ其職務ハ緊  
 要ニシテ航海ヲ終ルマテ其職ヲ辭スルヲ得ス即チ第二百十八條ヲ  
 設クルノ理由ハ其船長ノ職務ノ緊要タルニアリ其職務緊要タリ故ニ  
 第二百三十八條ノ定規アリトス  
 第二百三十八條 或航海ノ爲メ雇入レラレタル船長ハ其航海ヲ終ル

可○キ○義○務○ア○リ○ト○ス○若○シ○之○ヲ○終○ヘ○サ○ル○キ○ハ○海○船○ノ○所○有○者○及○ヒ○海○船  
 賃○借○主○ニ○對○シ○テ○總○テ○ノ○費○用○及○ヒ○損○失○ヲ○償○フ○可○キ○モ○ト○ス

是レ其深意ニ付テ觀ルキハ民法典第二十七條第二項ノ適施タルニ過  
 キス○船長如何シテモ航海ヲ引續キナスヲ能ハサルノ事情例ヘハ病  
 氣ニテ其任ヲ盡スヲ能ハサルアリ此時ニ於テハ艤裝者ハ出帆前ニ其  
 船長ヲ換代セサルヲ得ス又若シ出帆後航海中ニテ前ノ如キアルキ  
 ハ第二等船長其任ヲ行フノ格ニ合フタルキハ代リテ其職ヲ執ル可シ  
 若シ合格ナクシテ其職ヲ執ルヲ能ハサルキハ佛國ニ於テハ其代人ハ  
 コソミセール、デ、ク、ラ、ス(海上區ノ官吏)之レヲ任命シ外國ニ於テハ佛  
 國ノ領事之レヲ任命ス

(第千百八十二號)第二百十九條 若シ暇ヲ與ヘラレタル船長海船ノ  
 共有者ナルキハ其共有權ヲ拋棄スルヲ得且其共有權ニ當リタル所



ノ資本ノ返還ヲ請求スルヲ得可シ  
其資本ノ高ハ協議上定メタル鑑定人又ハ職權ヲ以テ命セラレタル鑑定人之ヲ定ム可シ

船長ハ海船ノ指揮ヲ司トルヲ目的トスルノミコテ其海船ノ共有者トナルコトアリ是レ他ノ共有者ヲシテ己レノ持部ヲ強ヒテ買ハシムルヲ得ルノ理由ナリ○若シ其船長海船ノ半以上ノ所有者タルキハ決シテ暇ヲ與ヘラレルコトアルコトナシ何トナレハ常ニ自ラ少數ヲ制スルコト得可ケレハナリ但シ甚タ重大ノ原因アリテ其船長ヲ罷ム可キハ裁判所ニ出訴シ其裁定ヲ受クルコト得可シ○其船長ノ持部ノ買入代金ハ總テノ共有者之ヲ拂フ可シ何トナレハ其事ニ付テハ第二百二十條ノ一船ノ元則ニ從ヒ多數者モ亦其多數ノ説ニ從ハサルヲ得サレハナリ

第三章 船長ノ所爲ニ付他人ニ對スル海船ノ所有者ノ義務

第二百十六條第一項(千八百四十一年六月十四日ノ法令左ノ如ク改正ス) 總テ海船ノ所有者ハ船長ノ總テノ所爲ニ付民事上其責ニ任ス可クシテ其海船又ハ其航海ノ事ニ關係スルコトニ付船長ノ約定シタル諸契約ヲ擔當ス可シ

(第千百八十三號) 海船ノ所有主ハ船長ハ約定シタル契約ヲ名代即チ委任契約ノ元則ニ依リ擔當ス可キモノトス(民法典第千九百九十八條) 又其所有者船長ノ所爲即チ民法典第千三百八十四條ニ依リ船長ノナシタル民事ノ犯罪又ハ準犯罪ニ付キ責ヲ負フ可シ而シテ其責ヲ負フハ民事上ニ付之ヲ負フノミ決シテ船長ノ犯シタル重罪輕罪及ヒ違則ニ付刑事上ニ付テ訴ヲ受クルコトナカル可シ但シ其所有者自ラ其全首犯人又ハ從犯人タルキハ格別ナリトス○若シ海船ノ共有者數人アルキ



ハ第二百十六條第二項ノ證スル如ク前ニ云フ所ノ諸義務ニ付相互ニ連帶シテ責ヲ負フコトナシ但シ其所有者ノ數人共全シテ艦裝ヲナシ其間ニ會社ノ成立シタルト見ル可キ場合ノ時ハ余輩ノ考案ニテハ連帶シテ責ヲ負フモノトス

前ノ如ク所有者ノ責ヲ負フコトハ「海船又ハ航海ニ關スルコト」ノミニ適施スルモノトス之ヲ詳言セハ其所有者ハ船長ノ海船ヲ指揮スルノ職務ヲ行フ時ニ於テナシタル諸契約諸事件ニ付テノミ其責ニ任スルモノトス此ノ如ク其責任ヲ制限スルコトハ委任契約ノ諸元則即チ第一千三百八十四條ノ元則ニ因テ生ス故ニ船長海船ノ所有者ニ秘シテ制禁物ヲ輸出又ハ輸入シタルコトアレバ其所有者ハ決シテ其責ニ任セサル可シ但シ船長(其所有者ノ誤謬ナラン)前ノ如キ惡事ヲ爲ス爲メ海船ヲ貸賃借シタルコトナキヲ要ス何トナレハ若シ之レアルキハ其所有者ハ

船長ト全一視セラレサルヲ得ス

(第一千八百八十四號) 船長ノ代理契約ト海船ノ所有者ノ民事上ノ責任トノ甚ク緊要ナル性質ハ其區域ヲ全ク慣習ニ依リテ之ヲ定ム可キモノニシテ關係者ノ約束ヲ以テ之ヲ制限スルコト能ハサル是ナリ他人ニ對シテハ船長ハ何レノ場合ヲ問ハス法律上ノ代理契約ノ區域外ニ出テサル限りハ法律上ノ所有者ノ代理者タリ夫レ其他人ハ斯ノ如ク確定シタル其代理契約區域ニ付キ信ヲ置キ船長ノ諸事取組ムコトヲ得ルヲ要ス而シテ海船ノ所有者猥リニ其代理ノ區域ヲ狹少ニスルコトアリテ其他人其爲メ不意ニ妨害サルコトナカル可キヲ要ス其代理ノ區域ノ狹少ニナリタルキハ他人ノ知ルコト能ハサルコトナリ前ノ如クスルハ是レ航海スルコトヲ得セシムルコトニ付又船長カ何レノ地方ニテモ其要スル所ノ勞働者ト資本トヲ得ルコトヲ容易ナラシムルコトニ付又船内ニ在ル



所ノ商品ヲ論セスシテ其乗組人ノ生命海船ニ必要ノ修理ヲ加ヘサル  
 カ爲メ害セラレ、トナキニ付テハ必スナカル可カラサルトス是故  
 ニ如何ナル明白ナル契約ヲ以テスルト雖モ第二百三十四條ノ要件ニ  
 從フテ運借チナスコト船長ニ禁スルコトヲ得ストス  
 前項ノ理合ニ依リ海船ノ所有者ハ其海船ニ乗組人ヲ乗セス又船長ヲ  
 モ雇入レス虚船ニシテ之ヲ他人ニ貸與ヘタルモ雖モ又其船長ノ雇  
 入ハ他人ノ撰擇ニアラサルモ雖モ第二百十六條第一項ノ責任ヲ負  
 フ可シ(以上第千七百七十八號參看)何トナレハ斯ノ如キ情狀ヲ知ルヲ要  
 セサレハナリ而シテ其所有者ハ「アルマトール」ニ對シテ要債權ヲ行フ  
 コトヲ得可シ「アルマトール」ハ亦船長ニ名代ヲ任シタルノ故ニ依リ他人  
 ヨリ訴テ受クルコトアル可シ然レモ其所有者ハ船長ノ干涉スルコトナク  
 シテ唯海船ノ賃借主自ラ「アルマトール」ノ職ヲ兼行シテ約定シタル契

約ハ之ヲ擔當スルコト及ハサルモノトス

又前項ノ理合ニ依リ海船ノ所有者ハ船長カ己レヲ代理セシムルコトヲ  
 禁セラレタルモ雖モ之ヲナシタルモ其代理者トナリタルモノ、  
 所爲ニ付第二百十六條ニ從ヒ責ヲ負ハサルヲ得ス且又難澁ナル場所  
 ヲ航行スル爲メ船長ノ任シタル水先案内者ノ所爲ニ於ケルモ亦タ全  
 シトス何トナレハ海船ノ所有者ハ豫メ必要ノ場合ニ於テハ水先案内  
 者ヲ任用スルコトヲ承諾シタリト推測セサルヲ得サレハナリ

第二百十六條第一項ノ規則ハ海船ノ所有者ノ名代人トシテ事ヲ取扱  
 フ所ノ船長ノ任シタル(事ヲ爲ス爲メ)乗組人ノ所爲ニモ猶ホ及ホス可  
 キモノトス(民法典第千九百九十八條及ヒ第千三百八十四條ノ折衷)且  
 又船客ノ所爲ニシテ船長ノ權力ヲ以テ防禦スルコトヲ得可キ區域内ニ  
 アルモノニモ及ホサルヲ得ストス



(第千八百八十五號) 船長ハ已レノナシタル民事犯罪又ハ民事準犯罪ニ付自ラ責ヲ負ハサルヲ得ス(ベネチア)氏第二百八十二號第二百九十六號然レモ航海ノ利益ノ爲メナシタル契約ニ付キ責ヲ負フニ及ハス何トナレハ名代人ハ自ラ責ヲ負フナク名代ヲ任シタル者ニ責ヲ負ハセハナリ且ツ船長ハ船長タルノ分限ヲ以テ他人ト契約ヲナスルハ自己ノ計算ニアラス又自己ノ名前ヲ以テセズ唯職裝者ノ計算ノ爲メ其契約ヲナスコトハ其他人ニ知レ得ルコトナレハナリ勿論最モ精密ニ云フ所ハ此場合ニ於テハ商業ヲナスヲ以テ船長ヲコンメシヨシキル譯シテ商業媒介人ト云ハサルヲ得ス然レモ第九十二條第二項ノ定ムル所ノ第二種ノ商業媒介人ナリ而シテ此媒介人ニハ民法ノ委任契約ノ諸規則ヲ適用セサルヲ得ス(以上第五百十號及ヒ以下又第千二百四十二號)○羅馬法ニ依ルキハ船長ハ總テノ委任者ノ如ク自己ノ名前ニテ

契約ヲ爲セシナリ(ドイツ)第一編第十七項ニキセルンタシヨト、アノシヨ子「訴權執行」然レモ實際ニ行ハル、所ハ中古ニ至テ變更シタリ而シテ船長自ラ責ヲ負ハサルノ規則ハ第十七世紀ニ於テ全歐洲ノ普通ノ習慣トナリタリ船長若シ委任權限ヲ犯スコトアルキハ自ラ其責ニ任セサルヲ得ス

(第千八百八十六號) 海船ノ所有者ハ第二百十六條第二項ノ定ムル所ノ甚々強大ノ權力ヲ有ス

第二百十六條第二項 海船ノ所有者ハ何レノ場合ニテモ海船及ヒ其賃貸料ノ拋棄ニ依リテ以上ノ諸義務ヲ免カルコトヲ得可シ

諸學士ハ船長ノ所爲ニ依リ海船ノ所有主ノ陸上ニアル所ノ財産ニ責ヲ負ハシムルコト能ハストノ語ヲ以テ本條ノ規則ノ意ヲ述フルコト屢アリ然レモ此規則ハ普通法ノ原則ニ反ス其原則ニテハ負債主ノ總テノ



財産ハ其總テノ負債ノ引當品タルモノトス(民法典第二千九十三條)又此規則ハ負債主ノ財産ノ一部ヲ讓與シタルニ歸ス此規則ニ依ルキハ船長ト契約スル所ノ債主ハ身上ニ義務ヲ負ヒ無限ニ責ヲ負フ可キ義務者ヲ有セサル可シ本ト此規則ハ船長カ少クモ海船ノ幾部ノ所有者ニシテ恰モ差金會社ノ支配人ノ如ク看做サレタル時代ノ慣習ニ依リテ法律トナリタリ而シテ此規則ハ船長ニ名代委任ノ規則ヲ適施シ船長ハ自ラ責ニ任スルヲナシタルニ至リシ後モ猶ホ之ヲ其船長ニ適施シタリ

此規則ハ數多ノ國殊ニ英國ニ於テ之ヲ排除シ決シテ許行セス然レモ佛國及ヒ其他ノ數多ノ國ニテハ「アルマトール」ハ此規則ヲ以テ一般ニ保證トナル可キ財産ヲ多ク有セサル船長ニ與ヘサルヲ得サル所ノ強大ナル權力ニ對シ已レテ保護スルニ欠ク可カラサルモノトセリ又千

八百四十一年ノ諮詢ニ於テ荷主及ヒ其他船長ト常ニ契約ヲナス所ノ者ハ此規則ノ改正ヲ希望シタルモノナキヲ證認セリ抑モ此規則ノ今日ノ如ク其區域ノ擴充シタルハ一千八百四十一年ニ在リトス初メ商法典ニテハ船長ノ所爲ニ付テノ海船ノ所有者ノ責任ノミヲ定メタリキ是ニ於テ此責任ヲ船長ノナシタル契約ヨリ生スル義務ニモ施及ス可キ乎ノ疑問ヲ來シタリ而シテ大審院ニテハ其定規ハ元ト法外ナルモノヲ以テ其區域ヲ狹少シテ以テ其契約ノ場合ニ推及シテ適施スルヲ能ハサルモノトセリ是ニ於テ海船ノ所有者大ニ困難ヲ受クルヲ以テ其不當ヲ鳴ラシタリ故ニ千八百四十一年六月十四日ノ法令ニテ改正ヲ加ヘ現今第二百十六條ノ法文ノ如クシテ以テ其意ヲ満足セシメタリ○此ニ注意ヲ要ス可キヲアリ即チ通常ノ債主ト雖モ猶ホ海船上ニ追跡權ヲ有スルハ此規則ノアルカ爲メ其償トシテ



之レアルナリ(第九十二條第二項)是ニ因テ之ヲ觀ルルキハ義務ヲ負フ者ハ獨ニ海船ノミナリト云フ可シ是レ海船ヲ以テ猶ホ一層人ト相似タルモノトスルノ一証ナリ

(第千八百七十七號) 此規則アリ故ニ船長ハ航海中金ヲ借ラントスルキハ運借ヨリ他ノ策ナキトス何トナレハ金ヲ貸サントスル者ハ船長ニ信ヲ置キ其身上ニ保證ヲ得ルヲ能ハサルヲ以テ海船ノ保證ヲ請求シ且損失ノ危険アルヲ以テ其代リニ甚タ高キ海上ノ利益ヲ取収スヘケレハナリ是レ「アルマートル」ニ於テ不利トナルナリ若シ「アルマートル」其貸主ニ對シテ自ラ身上ニ義務ヲ負フ時ハ是ノ如キ「アラサルナリ」斯ノ如ク艤裝者自ラ貸主ニ義務ヲ負フハ今日ハ電信ノアルニ依リテ履行フヲ得可キナリ夫レ「アルマートル」カ船長ノ契約ヲナシタルキニ例ヘハ水夫ノ住地ニ於テ其水夫ヲ雇入レタル契約ニ付自ラ義務

ヲ負フニモセヨ又其契約ノ時ニ義務ヲ負ハサルモ其後例ヘハ船長ノ其艤裝者ニ向テ振出シタル爲替手形ヲ承諾シ又ハ運借ノ手形ヲ手署シテ身上ニ義務ヲ負フニモセヨ其艤裝者ハ自己ノ陸上ノ財産ヲ以テ其義務ヲ辨償セサルヲ得ス

(第千八百八十八號) 第二百十六條第二項ノ規則ハ法外ノモノナルヲ以テ法律ノ明文外ニ及ホスト能ハス其規則ニ於テ海船及ヒ其航海ニ關スル事件即チ船長ノ通常ノ委任契約ニ包含スル處ノ事件ニ付テノミ定ム故ニ其以外ノ「」ニ適用セス(以上第千八百八十四號參看)故ニ此規則ハ船長ニ最モ區域ノ廣キ委任ヲ與ヘタル場合例ヘハ其海船ノ所有者カ自ラ船中ニ積入レタル荷物ノ支配ノ「」ニ適施セサル可シ又船長ノ遠方ニ於テ爲ストニ任セラレタル商事上ノ事件ニモ適施セサル可シ本條ノ精神ハ其法文ニ於ケルヨリ猶ホ此等ノ場合ヲ含マサルナリ



(附言) 海船ヲ拋棄スルノ權ハ之ヲ海船ノ港又ハ河口ニ入ルノ際沙上等ニ乗揚ケタル爲メニ入費ヲ要スル場合ニ適用サレルトハ大ニ希望スル者多シ此場合ニ於テ海船取片付ヲ官府ヨリ命ス且又其權ハ之ヲ其事ノ爲メ港ノ工事ニ毀損ヲ來タシ爲メニ修覆ノ入費ヲ要スル場合ニモ適用サレルトハ亦大ニ希望スル者多シ(クールシール氏著海上商法及ヒ大道路ノリニ付テノ行政裁判例ト題スル小冊及ヒ内國航海及ヒ大道路ノリニ付テノ行政裁判例ト題スル小冊ヲ參看ス可シ最初ノ小冊ハ千八百七十年巴里ニ於テ刊行シ後ノ小冊ハ又千八百七十年巴里ニ於テ刊行シタルモノナリ)○海上商法ノ法令案ノ數多ノモノハ右論說ニ依リテ起草シタルモノ多シ

然レモ船長ノ所爲ノ中ニハ其任撰シタル乗組人ノ所爲ヲモ含マシメ

サルヲ得ス(第二百三十三條船長ハ乗組人ニ對シ之ヲ支配スル權力ヲ有スルノ故ヲ以テ其所爲ニ付テハ自ラ責ヲ負ハサルヲ得ス第二百十六條第二項ハ其乗組人ノ所爲ニ付テモ亦適施ス可シ)

第二百十六條第二項ニ定メタル海船拋棄ノ權ハ「アルマトール、ゼラン即チ艤裝者兼支配人ノ爲シタル諸事ニ就テ其海船ノ諸共有者ニ之ヲ與フル」ヲ得ス艤裝者兼支配人ノ「ハ」第二百十六條第二項ノ法文中ニ決シテ含まサルモノトス(以上第千百七十五號參看)

艤裝者ニ付テ海船ノ所有者ニアラサルモノハ余輩ノ前ニ解説スル所ノ權ヲ決シテ行フヲ得ストス何ナレハ海船ヲ拋棄スルト能ハサレハナリ或ハ海船ヲ賃貸シタルキハ其船賃ヲ拋棄スルト得可シト雖モ是レ此賃料ニテハ其債主ノ權利ヲ消滅スルニ足ラサルナリ(第千百八十九號) 海船ノ所有者ニ付テハ其所有者ハ船長ノ船長ヲナ



シ爲メニ契約ヲ取結ヒタルキハ其航海ニ付テノ船賃貸料ト海船トヲ  
 拋棄シテ以テ自ラ其契約ニ付テノ義務ヲ免ルヲ得但シ其拋棄ス可  
 キ海船ノ賃貸料ハ純益賃貸料即チ諸入費ヲ引去リタル殘餘ノモノタ  
 ラサルヲ得ス○若シ其海船ノ賃貸料ヲ未タ積荷主ノ拂ハサルキ又ハ  
 海船己ニ之ヲ受取リタルキハ海船ノ所有者ハ其積荷主又ハ船長ニ對  
 シテ有スル債主權ヲ拋棄スルヲ以テ足レリトス若シ其所有者積荷主  
 タルキハ他ノ船ニ拂フ所ノ賃借料ヲ拋棄セサルヲ得ス然レモ其所有  
 ニ屬スル荷物ヲ拋棄スルノ義務ナシトス  
 前ノ所有者ハ假令ヒ其海船滅盡シタルキト雖モ之ヲ拋棄スルヲ得  
 是レ本條ノ法文ニ因テ生スル所ナリ其法文ニ於テハ其區別ヲナサ、  
 ルナリ又是レ本條ノ精神ニ因テ生スル所ナリ其精神ハ其債主ノ抵償  
 ノ權ヲ海船ト其賃貸料ノミニ及フトシ其以外ニ出テサルモノトス

(論題) 若シ海船保險サレタルキハ其所有者ハ其保險ノ價額ヲ拋棄セ  
 サルヲ得サル乎、

其所有者ハ其保險ノ價額ヲ拋棄スルヲ要セストシ此論題ヲ否決スル  
 一ハ千八百四十一年ノ法令ノ編纂錄ニ於テ明言ヲ以テ認定サレタル  
 一トス而シテ其理由ヲ陳シテ曰ク此場合ニ在テハ保險料ハ其所有者  
 ノ陸上ノ財産ヲ以テ己ニ拂ハレタルヲ以テ其保險料ヲ代表スル所ノ保  
 險價額ハ船長ト約束ヲ取結ヒタル債主ノ訴權ノ及フ所ノ外ニ置キ之  
 レヲ避ケシメサルヲ得スト然レモ此規則ハ保險ノ根本タル所ノ元則  
 ナ破ルモノトス何トナレハ其海船ノ所有者ハ其海船ノ消失シタルニ  
 依テ儲利ヲ得レハナリ何ヲ以テ利ヲ得タルトスル乎即チ其所有者ハ  
 負債ノ引當トナリタル海船ノ代リニ其自由ニ處分シ得ル所ノ金高ヲ  
 収ムレハナリ○但シ其書入質ヲ有スル諸債主ハ保險ノ償金ヲ得ルノ



權利ヲ其所有者ニ代リテ己レノ有スルナリ(千八百七十四年十二月十日法令第十七條)

海船ノ拋棄ハ保險者ニ向テナス「デレスマン」(委棄又ハ拋棄)ト全時コナ  
スヲ得可シ(第三百六十九條及ヒ以下)何トナレハ「デレスマン」ハ保險  
者ニ海船ノ義務ノ付着シタル儘ニテ其所有權ヲ移セハナリ故ニ保險  
者ト海船ノ所有者ノ拋棄ヲナスコトニ付キ決シテ小言ヲ述フルコトヲ得  
ス而シテ「デレスマン」ハ亦決シテ其債主ヲ害スルコトナシ

(第千百九十號) 第二百十六條第三項 然レハ拋棄ヲ爲スノ權力ハ全  
時ニ船長及ヒ海船ノ所有者又ハ共有者タルモノニ與ヘラレサル可  
シ若レ船長其共有者タルキハ海船及ヒ其航海ニ關スルコトニ付取結  
ヒタル契約ニ付テハ只其分前高ニ準シテ責ヲ負フ可シ

海船ノ所有者タル船長ハ其ナシタル契約ニ付テハ身上ニ責ヲ負ハサ

ルヲ得ス然レハ所有者ト船長トノ分限ヲ兼有セサルキハ船長ノ分限  
ニ付テモ所有者ノ分限ニ付テモ身上ニ責ヲ負フコトナシトス其兼有ス  
ルキニハ所有者トシテ責ヲ負フモノト云フ可シ何トナレハ本條ハ契  
約ニ付テノ一身上ノ責任ノ區域ヲ海外ニ付テノ所有權ノ分前ヲ以テ  
量定スレハナリ夫レ斯ノ如ク責ヲ負ハシムル所以ハ他ノ所有者ノ如  
ク他人ノ專斷ニ依リ己レニ害ヲ蒙リタルコトヲ愁訴スルコトヲ得ス其船  
長ハ海船ノ所有者カ船長ノナシタル諸契約ヲ後ニ認メタルト全一ノ  
有様ニアルモノトス○其犯罪ニ關シテハ一般船長ノ如ク全ク自ラ之  
ヲ擔當セサルヲ得ス(第千八十七號參看)

第二百十七條ハ敵船捕奪ノ爲メ艦裝シタル海船ノ場合ヲ定メタルナ  
リ千八百五十六年四月十六日ノ條約以來本條ヲ適施シタルコトナシ此  
約條ニ於テ此條約ヲ承諾シタルノ諸國ニ於テハ敵船捕奪ヲ廢シタリ



而シテ佛國ハ之ヲ承諾シタルノ一國ナリ

第四卷 船長ノ事

(第千九百九十一號) 立法者ハ前卷ニ於テ船長雇入ノ契約及ヒ船長ニ暇ヲ與フノ權力(第二章參看)且船長ノ所爲ニ付海船ノ所有者ノ責任ヲ負フノ區域ヲ定メタリ(第三章參看)立法者本卷ニ定ムル所ノ事ヲ余輩ハ三項ニ分ツ可シ○第一船長ノ其代理委任者ニ對スル責任ノ一般ノ元則○第二船長ノ權利○第三船長ノ義務是レナリ

注意ス可キノ一事アリ即チ商事私法ノ外ニ船長ハ警察官吏(千八百五十二年三月廿四日ノ勅令第三條第五條第九十七條)トシテ又身分證書ハ官吏(民法典第五十九條第六十條第六十一條第八十六條第八十七條)トシテ又遺言證書ニ就テハ「*チヒ、シエ、ミ、ニ、ステリ、エ、ル*」即チ公ケノ官吏トシテ(民法典第九百八十八條)公ケノ職務ヲ有スルヲ知ラザル

可カラヌ

第一章 船長ノ其代理委任者ニ對スル責任ノ一般ノ元則

(第千九百九十二號) 船長ハ固ヨリ「*アルマトール*」ノ代理者ニシテ其權力ノ甚タ重大ナルモノナリ(又船長ハ「*アルマトール*」ノ名前ニテ訴訟ヲ以テ訴訟セスト云フ元則)又船長ハ積荷ノ運送ニ關スル總テ「*ノ*」ニ付テ荷主ノ代理者ナリ此事ニ付テハ殆ト運送人ニ於ケルカ如シ

此二箇ノ職務ニ付テ船長ノ責任ノ區域ハ第二百二十一條ニ於テ定ム  
第二百二十一條 總テ海船又ハ其他ノ船舶ヲ指揮スル任ヲ受ケタル船長又ハ「*メ、ト、ル*」又ハ「*パ、ト、ロ、ン*」ハ其職務ヲ行フニ於テ輕少ノ過失ト雖モ其過失ノ責ニ任ス可シ

本條ニ定ムル所ハ即チ普通法ノ適施ナリ即チ民法典第千三百三十七條及第千九百九十二條ノ適施ナリ夫レ船長ハ給料ヲ受クル所ノ代理者



ナリ故ニ其責任ハ甚マ之レヲ重クスルヲ要ス是レ亦船長ノ有スル重大ナル權力ト其委任セラレタル事ノ緊要ナルトニ因テ生ス可シ然レ

其責任ヲ重クシタルハ普通法ノ規則外ニ出デザルナリ  
第二十三條 船長ノ責任ハ抗拒スヘカラザル方ノ障礙ノ証アル上  
ニ非ラサレハ終ラザル可シ

陸上遞送ノコトニ就テハ第九十七條第九十八條第百三條第百四條ヲ比較ス可シ抗拒ス可カラザル力ノ爲メ如何トモナスコト能ハザルノ証ハ船長之ヲ立ルモノトス(右ノ諸條及ヒ民法典第千百四十七條第千四百四十八條第千三百二條第千三百五條第千八百七條第千八百八條〇、アロゼー氏第七百五十七〇、ドマンジャ氏第四冊第二百二丁)

余輩ハ此ニ於テ荷主ニ對スル船長ノ責任ヲ論ゼス(第二百二十二條第  
二百二十九條)是レハ荷主ニ對スル船長ノ義務ノ原因トナル船賃貸借

契約ノ所ニ於テ論述ス可シ(第六卷)之レヲ論述スルニ余輩ハ船長ハ荷主ニ對シテハ荷物ヲ受取リタルニ依リ且運送ノ契約ヲ執行スルニ當リナシタル過失ニ付テノミ責任ヲ負フ可キモノタルコトヲ論定セン(第千九十三號)法律ニ於テハ或ル特別ノ點ニ付船長ノ義務ヲ確明ニスルヲ必要トセリ依テ第二百二十七條ノ如ク定メタリ

第二十七條 船長ハ港又ハハーパー(河ノ)又ハ河出入ノ時必ス海  
船中ニ自カラ居ル可シ

斯ノ如キ場合多クハ船長已レノ住所ノ近方ニ在ルヲ以テ或ハ陸地ヲ辭スニ大ニ遲滞シ或ハ之レニ赴クニ大ニ急速ナルコトアリ是レ立法者ノ恐レタル所ナリ且斯ノ如キ場合ニハ船長自カラ以爲ラク海船中ニ水先案内者アルヲ以テ憂慮スルニ足ラストシ速カニ上陸シ又乗船スルニ遅々タルコトナシト云ベカラザルナリ然レハ陸地ノ近方及ヒ常ニ



屢々往來スル場所ヲ航行スルハ特ニ危險アルナリ故ニ海長ノ最モ注意ヲ要スル所ナリ成程海船中ニ水先案内者アリテ獨リ海船ヲ指揮スルノ權ヲ有スルガ故ニ船長ハ無用ニ似ヨリ然レモ其レガ爲メ船長ノ勤務無用ニ屬スルニ非ラス勿論船長ハ水先案内者ノ命令ニ違反スル命令ヲ下スト能ハスト雖モ水先案内者ノ命令ヲ神速敏捷ニ執行セシメ又乗組人ヲシテ其命令ニ服從セシメ又航行ノ障害トナルモノナキヲ自カラ注意シ又若シ之レアルモ水先案内者ニ通知シ又自己ノ不注意過失ノナキ様ニナス爲メ自カラ船内ヨアルヲ要ス可シ

第二百二十七條ノ定規ニ違反シタルモ罰ハ第二百二十八條ニアリ(第千二百十二條參看)即チ其場合ニ於テハ船長ハ海船及ヒ積荷ニ利害ヲ有スル諸人ニ對シテ責任ヲ負ハサルヲ得ス之ヲ他言ヲ以テ云ヘハ船長ハ己レハ過失ナキノヲ証スルヲ得スト又其場合ニ於テハ海

船ノ運轉ニ依リテ他人ニ損害ヲ生セシメタルモ船長ハ民法典第千三百八十二條ニ依リテ其他人ニ對シテ責任ヲ負ハサル可カラス(第千九十四號) (論題) 船長ハ商人タル乎

或ハ說ヲ爲シ船長ハ商人ナリトナシタリ其說ニ曰ク船長ハ常ニ第六百三十三條ニ叙記シタル諸事件ヲ通常ナスヲ以テナリト又曰ク商船ノ用ノ爲メ雇入レラル、ヲ以テ已レノ職業トスレハナリト(第六百三十三條末項)然レモ余輩ハ其說ヲ可トセス船長ハ商人ニ非ラストス請フ其理由ヲ說カン○夫レ船長ハ毎日第六百三十三條ニ列記スル所ノ海上ノ種々ノ契約ヲナスナリ然レモ船長ハ已レノ名前ヲ以テセズ又自己ノ爲メ之レヲナスニ非ラス自カラ義務ヲ負ハズシテ唯海船ノ所有者ニ責任ヲ負ハシム是レ通常ノ「コンミッション」即チ商業世話人ト大ニ異ナリ(以上第千八百八十五號參看)○勿論其代理契約ノ限界ヲ犯



シタルキハ自カラ責ヲ負フイアリ、雖是レ非常ノ事ニシテ通常ノ事ニアラサルナリ○船長已レノ勞力ヲ貸貸シテ自カラ負フ所ノ義務ニ就テハ此義務ヲ負フヲ以テ其通常ノ業ヲ成スモノトスルヲ得ス此勞力貸貸ノ契約ハ或ハ多クモ一ケ年ニ三四度改爲スルヲ得可シト雖是屢々之レヲナサス又毎年之ヲナサハルナリ是レ可成ク已レノ地位ヲ確定不動ニスルヲ欲スレハナリ其利ヲ得ルハ此等ノ契約ヲ以テスルニ非ラズ貸貸シタル勞力ヲ以テスルナリ故ニ其職業ハ勞力ヲ貸貸シタル者ニ對シテ勞働スルヲ以テ成リ決シテ其契約ヲナスヲ以テ成ラサルナリ○其船長ノ義務ハ航船ノ附從タルヲ以テ商業タリトス故ニ(第四十八)余輩ノ已ニ論述セシ如ク從タルノ理ニ依リテノミ商業タル事件ハ例トヒ通常之レヲナスト雖是其爲メ商人タルノ分限ヲ與ヘサルナリ(第五十五號參看)○是ニ因テ之レヲ觀ルキハ船長ハ決メ商

人ニ非ラサルナリ故ニ余輩ハ船長ハ自己ノ計算ノ爲メ商業簿冊ヲ有シ又婚姻ノ契約ヲ公告スル義務ナク又破産ヲ言渡サル、ナク又其手記シタル切手、ハ商業ノ爲メ作爲セラレタルモノト推測セラレザルモノトス

然レ是裁判管轄ニ付テハ余輩ハ船長ト「アルマトール」トノ間ノ爭ハ商事裁判所ニ於テ裁判ス可キモノトス何トナレハ船長ハ自カラ雇ハレテ商業ヲ行ハサルモ商業タル一事件ヲナセバナリ(第六百三十三條末項)且船長ハ第六百三十四條第一項内ニ入ルモノトス何トナレハ船長ハ航海ノコトニ付テハ總理名代ノ任ヲ受タルヲ以テ其「アルマトール」ニ對シテハ恰モ商人ノ手代ノ位置ニ居ルト同一ナレバナリ

## 第二章 船長ノ權利

(第千九百九十五號) 余輩第千九百九十二號ニ於テ陳シタル如ク船長ノ積



荷主ニ對スル權利及ヒ義務ハ第六卷ニ至テ之ヲ論ズ可シ

乗組人ヲ組織スルコト

第二百二十三條

船舶ノ乗組人ヲ組織シ及ヒ水夫又ハ其他ノ乗組人ヲ擇ビテ之ヲ雇入レルコトハ船長ニ屬ス可シ但シ船長海船ノ所有者ノ居住ノ場所ニ在ルキハ其所有者ト協議ノ上此事ヲナス可シ船長ノ委任サレタル代理契約ハ乗組人ヲ擇ブノ權ヲ包含ス固ヨリ此權ハ船長ニ屬ス可キナリ何トナレハ之ヲ擇ブニハ特別ノ智識アルヲ要スレハナリ此事ニ付テハ海船ノ所有者ノ居住地ヨリ遠隔ノ地ニ於テハ專權ヲ有ス若シ船長其所有者ノ住居ノ場所ニ在リテハ海船ノ在留スル碇泊スル港内ニ必ラズシモ住所外ニ出デザルナリ土地ニ居スル氏ハ之ニ反對ノ説ヲ持ス○海船ノ所有者ハ其港内ニ在リニ相談スルヲ要セズ己レノ專斷ヲ行フコトヲ得

其所有者ト相談シテ事ヲナスヲ要ス是レ海船ノ所有者カ自カラ撰擇チナノ之レヲ船長ニ命スルコトヲ得ルト云フニ非ラス唯其所有者ハ己レノ意ニ適ハサル水夫ヲ除クノ權アルノミ要スルニ「ウエト」ノ權即チ故障ヲ述ブルノ權アルノミ若シ海船ノ所有者其場所ニ商業世話人又ハ通信者ヲ有スルキハ船長ハ此人ト共議セサルヲ得ス即チ是レ商法典編纂錄ニ記ス所ナリ又是レ第二百三十二條ト大ニ類似スル所ナリ其條ニ於テ代理者ト所有者ト同一ノ利ニ置クナリ○船長此義務ヲ犯シタルキノ罰ハ船長ノ其所有者ニ對シテ責ヲ負フニアリ然レモ決シテ其ナシタルコト水夫ニ對シテ無効トナラス雇入ハ猶ホ保存ス可シ關係者ハ乗組人ヲ撰任スルニ付全ク自由ナリトス但シ乗組人ノ四分一以上外國人ノ水夫ヲ募召スルコトヲ得ストス  
乗組人ノ員數ニ付テハ船長ハ充分ニ乗組人ヲ備フルヲ要ス而シテ其



不足ナルキハ爲ニ責ヲ負フ可シ  
 乘組人雇入ノ要件且殊ニ其給料定メノトニ付テハ船長ハ全ク之ヲ拂  
 フ所ノ海船ノ所有者ノ存意ニ從ハサルヲ得ス「ベク」リ「ド」マン「シヤ」  
 主張ス即チ船長水夫ヲ雇入ルニ於テ其給料ハ之ヲ自カラ專定スル  
 得タル所ニアラザレバ自カラ其撰任ヲ專爲ス可カラズ且是故ニ其約定  
 シタル所ノ給料ハ其水夫之撰任ノ所有者ニ對シテ要スルノ如クリト  
 得但シ其海船ノ所有者ハ船長ニ對シテ要スルノ如クリト  
 スト是レナリ然レモ余輩ノ撰任ニ對シテ要スルノ如クリト  
 長ハ水夫ヲ撰任スルノ專權ヲ有セザルナリ且論者ノ陳シタル如クリト  
 證スルヲ要スル自由ヲ尊敬セザルナリ且論者ノ陳シタル如クリト  
 負ハシムレバ自カラ若シ船長ノ撰任ニ對シテ要スルノ如クリト  
 スル所ノ乗組人ヲ求メザルキハ所有者ヨリ定メタル條件ニテ確信  
 船舶指揮ノ任ヲ辭セサルヲ得ス

○總テ乘組人雇入又ハ其給料ニ關スル契約ハ海上登記局ノ官吏ニ之  
 レヲ通知ス可キモノニシテ其官吏カ之レヲ乘組人簿ニ寫込ミタルキ  
 ニ非ラザレハ確定セスト雖モ其契約ヲ定メ又其給料ヲ定ムルニ付テ  
 ハ其官吏ヨリ海船ノ所有者及ヒ船長ニ充分ノ自由ヲ與フルヲ要ス

積荷監督者即チ「シ」ニ「ユ」ブレ「カ」ル「ギ」ニ「チ」擇フノ權ハ荷主ニ屬ス可シ何ト

ナレハ積荷監督者ハ全ク荷主ノミニノ名代人タレバナリ  
 船長ノ乗組人ニ對シ有スル權威ノト

（第千九百九十六號）乘組人又ハ船客取締上ノ規則ヲ犯シ又ハ重罪輕罪  
 ヲ犯シタルキハ船長ハ千八百五十二年三月二十四日ノ法令ニ於テ定  
 メタル法式ニ從ヒ其犯則ヲ懲罰シ又ハ其犯罪ヲ證明スルノ權力ヲ有  
 ス（千八百六十六年總規則書第二百十條參看ス可シ）

海船ノ機裝及ヒ其貸借ノト

第二百三十二條 船長ハ海船ノ所有者又ハ其代理人ノ居住ノ地ニ於  
 テハ別段其許可ナク船ヲ修覆セシメ又ハ帆布綱具及其他船舶ノ爲  
 ノ諸品ヲ買入レ又ハ其ノ爲メ船身ニ付金高ヲ借入レ又ハ海船ヲ賃  
 貸スルトヲ得ズ



(第千九百九十七號) 本條及對觀ノ解釋ニ依ルキハ本條ニ記ス所ノ事件  
 ハ一般船長ノ總理委任契約中ニ包含スルモノニシテ海船ノ所有者又  
 ハ其代理人ノ居住ノ地外ニ於テハ船長其事件ヲ自由ニナスヲ得可  
 シトス但シ第二百三十四條ニ記ス所ハ格別ナリトス○此船長ノ委任  
 契約ハ海船ノ所有者之レヲ制限スルヲ得可シ例トヘハ其所有者船  
 長ノ到着ノ港ニ於テ爲シ得可キ海船貸賃契約ノ條件ヲ示定シ得可キ  
 ガ如シ然レモ此制限ハ艦裝者即チ海船ノ所有者ト船長トノ間ニ於テ  
 ハ互ニ依從ズ可キモノニシテ之レニ違フキハ船長ハ艦裝者ニ對シテ  
 責ヲ負ハザルヲ得ス然レモ其制限ハ他人ナル貸借主ニ對シテハ少シ  
 モ効ナキモノトス以上第千八百八十四號參看此他人ナル貸借主ハ第二  
 百十六條ニ準據シテ船長ノナシタル契約ノ執行ヲ其所有者ニ對スル  
 モ求ムルヲ得可シ

前ニ反シテ海船ノ所有者又ハ其代理人ノ居住ノ地ニ於テハ船長ハ其  
 前段ノ許可ナク第二百三十二條ニ記ス所ノ事件ヲナストモ有効ニア  
 ラストス(千六百八十一年王令第二編第一章第十七條比較ス可シ)夫レ  
 海船ノ所有者在リテ自カラ約諾ヲ爲シ得ル場合ニ船長ノ委任契約ノ  
 區域ヲ擴充スルヲ要セザレバナリ

(論題) 海船ノ所有者又ハ其代理人居住ハセザレモ其土地ニ在ルキハ  
 船長如何ナス可キ乎

此場合ニ於テ船長其所有者又ハ其代理人ノ許可ヲ得ルヲ要スト云フ  
 ヲ得可シ是レ其所有者又ハ代理人ト船長ノ關係上ニ於テハ至當ナリ  
 若シ船長是等ノ者ノ許可ナク契約シタルモ自カラ其責ニ任セザル  
 ヲ得ザルナリ然レモ外人即チ他人ニ對シテ船長此等ノ者ノ承諾ヲ受  
 クルヲ要ストナスヲ得ズ何トナレバ他人ハ其海船ノ所有者又ハ其



代理人ノ其土地ニ現ニ在居スルヲ知ルヲ要セス且其者等ノ居住ハ此ニアラザルヲ知ルヲ以テ船長ノ法律上ノ委任契約ノ一般ナルヲ頼ミテ安然船長ト契約スルハ當然ノナレバナリ○又前ニ述ヘシ理由ニ準據シ他人ガ海船ノ所有者ノ其土地ニ代理者ヲ有スルヲ通知セラレタルハ格別ナリトス

船長ニ艤裝ノ爲メ運借スルヲ禁止シタルハ之レヲ推及シテ今日ニ在テハ海船ノ書入質ニモ適施ス可キハ明ナリ何トナレバ其書入質ハ亦重大ノ事件タレバナリ是レ千八百七十四年ノ立法者ハ第二百三十三條ヲ改正シテ第二百三十二條ヲ改正スルヲ遺忘シタルヲ抱ハラサルナリ且第二百三十二條ノ法文ニハ之レヲ極論スルハ運賃借ノ如ク海船ノ書入質ヲモ包含セシムルヲ得可シ

海船ノ賃貸ノ禁止ハ其全部ノ賃貸ノミニ適施ス是レ一般ニ認メ一致

スル所ナリ夫レ何用ノ爲メ某地ニ航行スルヲ決定シタルハ其爲メ海船ノ幾部ヲ賃貸スルハ通常支配ノ事務ニ關スルモノニシテ船長ニ之レヲナスヲ拒ムヲ得サルナリ

(第千九百九十八號) 第二百三十三條ノ罰(サンクシヨソ)ハ艤送ノ爲メノ入費及ヒ借入ニ付テハ海船ノ所有者ニ對シ其土地ニ於テ其所有者ノ承諾ナク船長ノ約定シタル諸契約ノ無効トナルニ在リ但シ其所有者其諸契約ニ付已レニ利益ヲ得タルハ他人ハ其所有者ニ對シ事務管理(ゼシヨソ、ダフエール)ヨリ生スル訴權ヲ有ス可シ(民法典第千三百七十五條)○ベダリード氏第四百三十一○海船ノ賃貸ニ於ケル亦然リ即チ其所有者ニ對シテ無効ナリ而シテ其賃借主ハ其無効ヲ申立ツルヲ得ストス何トナレハ其賃借主ハ船長ノ委任ノ權限ヲ犯シテ已レテシテ無効ノ害ヲ受ケシムルヲ知ルヲ得且知ラサルヲ得ザルニ之



レヲ知リテ契約シタレハナリ

(第一千九十九號) 第二百三十三條 (千八百七十四年十二月十日法令)

第二十八條ニ於テ左ノ如ク改ム)

若シ船舶其所有者ノ承諾ニテ貸貸サレテ其所有者中ノ者其職送ノ爲メ必要ナル入費ヲ賠償スルヲ拒ムキハ船長ハ此場合ニ於テハ其拒者ニ其出前ヲ供ス可キノ催促ヲ爲シタルヨリ二十四時ノ後裁判官ノ許可ヲ受ケテ其拒者ノ計算ノ爲メ海船中其持部高ヲ以テ書入質トナシテ金ヲ借入ルハ得可シ

是レ其海船ノ所有者海船ヲ貸貸スルヲ承諾シタルノ結果ニシテ且少數ノ者ノ多數者ノ説ニ從フノ義務アルモ之ヲ反クノ罰ナリ(第二十條第一項)

(論題) 然レモ若シ總テハ海船ハ所有者又ハ多數者其海船ハ貸貸契約

ヲ執行スルヲ拒ムト付全意シタルキハ船長ハ其總テハ所有者ニ對シテ第二百三十三條ニ於テ與ヘタル權力ヲ行フコトヲ得ル乎

第一説ニ於テハ之レヲ得ルトス其説ニ曰ク船長ハ海船貸貸契約ニ依リ其所有者ト共ニ義務ヲ負フ者タルヲ以テ此ノ契約ノ執行サレルコト付テハ自カラ利害アリトス故ニ第二百三十三條ノ下ヲ申立ルコトヲ得可シ良シヤ其如何ヲ論セザルモ亦荷主ノ名代人タルヲ以テ荷主ノ名前ニテ訴テナスコトヲ得可シト○第二説ニ於テハ之ヲ得サルモノトス(余輩ハ此説ヲ取ルナリ)其説ニ曰ク船長ハ海船ノ貸貸契約ニ依リ自カラ義務ヲ負フコトナシ(以上第千八百八十五號及ヒ以下第千二百四十二號參看)船長ハ荷物ノ引渡シテ受ケタルキニ非ラザレバ其荷主ノ名代人トナラズ然ルニ論題ノ場合ニ於テハ其名代ヲ船長ニ委任シタル者此ノ荷物ヲ受取ルコトヲ拒ミタルナリ○且又第二百三十三條ハ荷主ノ



爲メ設ケタル條ニ非ラズ故ニ荷主ハ之レヲ援引シテ申述スルヲ得  
ス唯タ荷主ハ專チ爲スノ義務ヲ援引申述スルヲ得可キノミニシテ  
此義務ハ之レヲサミルキハ損害ノ償ヲ拂フニ依リ終ルナリ(民法典  
第一千四百二十二條)○第二百三十三條ハ二三所有者ノミガ入費ノ割前チ  
出スヲ拒ミタル場合ヲ定ムルノミナリ是ノ數理由アリ故ニ船長ハ  
之ヲナスヲ得ザルモノトスト

又以上ノ論定ニ依リテ左ノ如ク論決セザルヲ得ス即チ海船ノ所有者  
ノ多數ノ者ハ他人代理者ヲ以テ少數ノ者ニ對シテ全一ノ權利ヲ行フ  
ヲ得可シ

商法典ハ此理由ニ依リ少數ノ者ノ海船ニ付テ有スル持部高チ以テ運  
借リスルヲ船長ニ許シタリ之レニ反シテ千八百七十四年十二月十  
日ノ法令第二十八條ハ船長ニ其少數ノ者ノ持部高チ書入質トスルヲ

ヲ許ス夫レ出帆以前ノ運賃ハ海船上ニ特權ヲ與ヘサルヲ以テ(同法令  
第二十七條ニ依リ第九十一條第九項ヲ廢ス)其少數ノ者ノ持部高チ  
引當トナス法方今後ハ書入質トスルニ在ルナリ

然レモ船長又ハ海船ノ所有者ノ多數者ハ金ヲ借入ル、ヲ能ハサルト  
モ出前高チ出スヲ拒ム者ノ財産ヲ差押アルノ權ヲ有セサルナリ此  
權ヲ有セシムルハ是レ總テノ海船ノ所有者海船ヲ貸貸スルヲニ承諾  
シタル時ト雖モ法律ニ於テ其相互ノ間ニ行フヲ已ニ許シタル法外  
ノ權利ヲ濫用スルナリ法律ハ何レノ場合ニテモ其所有者ハ其相互ノ  
義務ヲ盡ササルノ故チ以テ陸上ノ財産ヲ以テ責チ負フ可キヲ定メ  
ザルナリ

航海中船舶ノ修覆及ヒラウイヌイユマンノラウイヌイユマ  
員ノ生活ニ必要ノ食  
料ヲ積入ル、ヲナリ



(第千二百號) 船長ハ航海中必要ナルキハ海船ヲ修覆シ又食料等ヲ積入ル、ノ委任ヲ受ケタルハ明ナリ之レヲ修覆シ又ハ食料ヲ積入ル、其任ヲ受ケタルノミナラス寧ロ乗組人ト海船ノ所有者ト荷主トノ利害ニ對スル本分ト云フ可キナリ何トナレハ其約定シタル航海ヲ終ルヲ要スレハナリ其爲メ船長ハ海船ノ所有者ヨリ渡シタル金高ヲ自カラ費用スルノ權アリ

然レモ其金高不足ニシテ意外ノ事ノ生シタルキハ海船ヲ修覆シ又ハ食料等ヲ備フル爲メ船長金ヲ借入ルノ必要ナルコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ船長ハ海船ノ所有者ニ手形ヲ振出シテ以テ單純ノ借入ヲナスコトアリ又海船ヲ以テ運借スルコトアリ船長ハ一般ニハ第一ノ方法即チ通常貸借ニ依リテ借入ヲナザベルヲ得ス何トナレハ其所有者ハ頗ル高額ノ運借ノ利金ヲ拂フヲ要セズ且其手形ヲ承諾セザルニ於テ

ハ海船ノ損失又ハ消滅シタル場合ニ其海船及ヒ船賃ヲ拋棄シテ以テ自カラ其義務ヲ免カルコトヲ得可ケレハナリ然レモ斯ノ如ク容易ニ其所有者ハ義務ヲ免カルコトヲ得可キヲ以テ貸主ハ運賃ヲナスヲ善シトス運賃スルキハ最モ高利子ヲ受クルコトヲ得然ルガ故ニ貸主ハ屢シ船長ニ強ヒテ運借リヲ爲サシムルコトアリ若シアルマニール(船長ヲシテ運借ヲナサシメザルコトヲ欲スルキハ豫シメ船長ニ借入レヲナスヲ要スルキハ已レ自カラ貸主ニ對シテ義務ヲ負フカ否ヤノコトヲ書面又ハ電報ヲ以テ問フ可キコトヲ命シ置クコトヲ要ス

(第千二百一號) 此等ノ借入ハ海船ニ物權ヲ附セシムルヲ以テ甚ク重大事件ナリ故ニ法律ハ船長ニ之レヲナスニ付完全ノ自由ヲ與ヘス最モ苛酷ナル要件ヲ行フコトヲ命シタリ即チ左ノ如シ

第二百三十四條第一項(千八百四十一年六月十四日法令左ノ如ク改ム)



若シ航海中船舶ノ修覆又ハ食料買入ノ必要ナルキハ船長ハ之ヲ乗組人中ノ重立タル者ノ手署シタル始末書ヲ以テ証明シタル後佛國ニアリテハ商事裁判所又ハ之ヲナキキハ海安裁判官外國ニアリテハ佛國領事又ハ之ヲナキキハ土地ノ裁判官ノ許可ヲ得テ船身及ヒ龍材ヲ以テ金ヲ借入レ又ハ其証明サレタル需用ヲ要スル金高ニ充ルマテ荷物ヲ質入レ又ハ賣ルヲ得可シ

故ニ三要件アルヲ要ス○第一其必要ナルヲ○是レ第二百三十四條ノ定メタル場合ニ限ル可カラス航海ノ總テハ需要(第九十一條第七)及ヒ其他至急必要ナル場合ヲモ含ムモノトス(第九十八條)例トヘハ船舶ノ差押ヲ止ムル爲メ又ハ海船ノ航海スルヲ能ハサルヲニナリタル後荷物ノ運送ヲ終結スル爲メノ場合ノ如シ○第二其必要ナルヲ乗組人中ノ重立タル者ノ手署シタル始末書ヲ以テ証明スルヲ○第三

其土地ノ裁判官ノ許可ヲ受クルヲ是レナリ○單純ノ貸借ハ運借ノ如ク(第九十一條第七)海船上ニ特權ヲ與フルヲ以テ亦重大事件ニシテ船長全シク此三要件ヲ踐行スルニアラサレハ之ヲナスヲ許サス千八百七十四年ノ法ニ從ヒ海船ノ書入質ヲ爲スモ亦全シトス何レノ場合ヲ問ハス船長ハ第二百三十三條ニ記ス所ノ必需ニ付海船又ハ船具ヲ賣ルノ權ナシ(王令ハ船具ヲ賣ルヲ許シタリ然レモ編纂ヲ明證ス○ベズリ)何トナレハ若シ之レアリトスルキハ運送ヲ便ニセス反テ直ニ之レヲナスヲ能ハサルニ至ラシムレハナリ(第二百三十七條)

然レモ第一項ノ終リニ於テ船長ニ前ニ示シタル要件ニ從フキハ必要ノ高ニ充ツル迄積入レタル荷物ヲ質トシ又ハ必要ノ高ニ充ツル迄之レヲ賣ルヲ許ス又此商品ヲ以テ運借スルヲ得ルハ論ヲ俟タザル



ナリ蓋シ海船ヲ修覆シ及ヒ食料等ヲ備付スルハ荷物ノ利害ニ關スル  
 事ナルヲ以テ必要ノ場合ニ於テ其荷物ヲ處分シ得ルトセリ但シ償  
 金ヲ後ニ拂ハザルヲ得ス余輩ハ後ニ(第二百九十八條ヲ説ク時荷主ニ  
 對シ此規則ノ限界如何ヲ論ズ可シ茲ニハ海船ノ所有者ノ點ニ就テ論  
 セン前ニ記ス所ノ費用ヲナシ爲メニ利スル所ノモノハ海船ノ所有者  
 ナリ是レ常則ナリ何トナレハ修覆セタル海船ハ其所有者ニ屬スレハ  
 ナリ又買入レタル食料ハ之レヲ海船ノ貸貸ニ依リ供給スルノ義務ア  
 ルモノハ海船ノ所有者ナリ何トナレハ約定シタル航海ヲ遂ケルニ付  
 必要タル一切ノ事ヲナスノ義務アレハナリ是故ニ其所有者ハ商品即  
 チ荷物所有者ニ償ヲ拂フヲ要ス(第二百三十四條第二項以下第千二百  
 五十一號參看)又商品ノ所有者ハ其商品ヲ船卸シテ以テ之レヲ賣リ又  
 質トスルノ危険ヲ受クルヲ拒ムコトヲ得可シ(第二百三十四條第三項第

千二百五十四號參看)

(第千二百二號) 第二百三十四條ニ於テ船長ニ命ゼタル義務ヲ犯スノ

罰ハ第二百三十六條ニ在リ

第二百三十六條 船長必要ノ事ヲシテ船身又海船ノ食料又ハ艙裝

ヲ以テ金ヲ借入レ若シクハ荷物又ハ食料ヲ質入レ若シクハ賣リ若  
 シクハ其海上損失ノ計算ニ又ハ虛構ノ費用ニ使用シタルキハ艙裝  
 ニ對シ責任ヲ負ヒ且其金ヲ返還シ又其物件ヲ辨償スルノ義務ヲ自  
 カラ負フ可シ但シ刑事ノ訴アルキハ其訴ト相觸ルハナシ

若シ第二百三十四條ノ手續ヲ規則通りニ履行シタルキハ海船ノ所有  
 者又ハ商品ノ所有者ハ契約ノ取消ヲ求ムル爲メ其必要ノコトナキヲ  
 申立ツルコトヲ得ス若シ然ラズトスルキハ他人ハ頼ム所一モナク且裁  
 判官ノ干涉スルハ其他人ヲ保護スルノ目的タレハナリ○是故ニ其所



有者ハ船長ニ對シテ其過失又ハ詐偽ニ依リ損害ヲ受ケタルトキハ要償ノ訴權ヲ有スルノミ且其船長ヲシテ其借リタル金圓又ハ賣リタル物件ノ代價ヲ強ヒテ返償セシムルノ權アルノミ但シ他人ニ對シテハ其返償ヲ自カラ負擔シ又其他人ヲシテ海船上ノ特權ヲ行ハシメサルヲ得サルナリ

若シ前ニ反シテ第二百三十四條第一項ノ法式履行セラレザルキハ他人ハ第九十一條第七ノ特權ヲ有セサルヤ明ナリ何トナレハ第九十二條第五ニ依ルキハ此等ノ法式履行セラレサルニ於テハ其特權アラサルモノトスレハナリ○然レハ其他人ハ少ナクモ海船ノ所有者ニ對シテ對人權上ノ訴權ヲ有スルヤ曰ク其他人ハ船長ノ委任契約ニ原因シタル訴權ヲ有セス何トナレハ船長ハ第三百三十四條ニ於テ確定シタル如キ委任ノ限界ヲ明カニ犯セハナリ其他人ハ其所有者ニ對シ

テハ事務管理(ゼシヨン、ダフェール)ニ原ク所ノ訴權ヲ有シ(民法典第一千三百七十五條)且物件保存ニ原ク所ノ特權ヲ有ス(民法典第一千二百二條第三)然レモ自カラ借入ノ緊要タリシト海船賣拂ノ要用タリシトテ證セサルヲ得ス是レ其他人ニ對シテ甚タ不便スル所ナリ

海船ヲ賣拂フノ禁止

第二百三十七條 法律ニ從ヒ證明サレタル航海不能ノ場合ノ外船長ハ海船所有者ヨリ特別ノ權力ヲ得ルヲナリ海船ヲ賣拂フヲ得ス違フキハ其賣買ハ無効トス

(第一千二百三號) 船舶ヲ賣ルハ船長ノ受ケタル委任限界如何ニ廣キキト雖モ其權限以外ノトナリ故ニ其賣拂ハ他人ニ對ストモ無効ナリトス○海船ヲ修覆スルモ其詮ナキキ即チ之レヲ修覆スルノ費用之レヲ修覆シタル後其海船ノ實價ト全一ナルカ又ハ超過スルキハ之レヲ



海船ノ航海不能ト云フ○航海不能ノハ鑑定人之レヲ証明ス鑑定人  
ハ前航海者タルモノニシテ土地ノ裁判官之レヲ命ス且其航海不能ノ  
一ハ其裁判官之レヲ言渡スナリ即チ佛國ニ於テハ商事裁判所又ハ治  
安裁判官外國ニ於テハ領事又ハ副領事又ハ佛國ノ官吏又ハ此等ノ官  
吏ナキトキハ其土地ノ官府之レヲ言渡スナリ(千七百九十一年八月十  
三日勅令第三卷及ヒ前註ニ記スル)控訴院判決如此クナルノ故  
ニ其買主ニ於テハ實ニ安心シテ其海船ヲ買フ一ヲ得但シ其詐偽アル  
一ヲ証スル者アルキハ此例ニアラズ前ノ如ク言渡アリト雖モ船長之  
レヲ詐偽ヲ以テ得タルキハ其責ヲ免カザルモノトス

(第千二百四號)ノ第二百四十九條 若シ航海中船舶ノ食料缺欠スル  
アレバ船長ハ乗組人中ノ重立タル者ノ意見ヲ問フタル上特ニ食料  
ヲ所持スル者ヲシテ其全ノ用ニ充テノ爲メ之レヲ強ヒテ出サシム

ルヲ得但シ其價額ハ其所持主ニ拂フ可シ

第三章 船長ノ義務

(第千二百五號) 余輩ハ己ニ船長ノ己レニ任セラレタル權力ヲ行フノ  
區域ヲ制限シ且之レヲ確明スル所ノ義務ヲ論シタリ此章ニ於テハ船  
長ニ命セラレタル二三ノ特別義務及ヒ其踐行スヘキ法式トチ略論ス  
可シ

第一項 特別ノ義務

(第千二百六號) 第二百三十五條 船長ハ佛國ニ歸ル爲メ外國ノ港又  
ハ佛國ノ屬地ノ港ヲ出帆スル前ニ其積荷ノ模様其積入ノ荷物ノ代  
價自カラ借入レタル金高其貸主ノ姓名住所ヲ記入シ自カラ手署シ  
タル計算書ヲ海船ノ所有者又ハ其代理者ニ送付ス可シ

此ニ記スル所ハ歸路ノ航海ナリ船長ハ海船ヲ賃貸シ及ヒ其乗組人等



ヲ組織スルニ付全權ヲ有スルヲ以テ海船ノ所有者ヲシテ其海船又ハ  
荷物ノ安否ヲ知ラシムル爲メ己レノ爲シタルヲ可成速ニ其所有者  
ニ通知シ若シ其荷物ヲ其所有者ノ爲メ積入レ運送スルハ之レヲ賣  
捌クニ擔任シ約定シタル義務アルハ之ヲ盡ス爲メ資本ヲ辨用シ  
及ヒ保險ノアルハ荷物ノ保險者ニ對シテ要償ノ訴ヲナスヲ要ス斯  
ノ如キ義務ヲ船長ニ命シタルハ積入レシ荷物ヲ出帆後積換ヘルヲ  
ナサハラシムルナリ○此義務ハ若シ海船ノ所有者ガ海船中ニシユフ  
レカレギユ譯シテ荷物監督人ヲ置キタルハ船長之レヲ負フヲ要セ  
ザルナリ

○(第千二百七號) 第二百四十一條 船長ハ航海中如何ナル危難アリト  
雖モ士官及ヒ乗組人ノ重立タル者ノ意見ヲ問フヲナク其海船ヲ抛  
棄スルヲ得ス且此場合ニ於テハ船長ハ自身ト共ニ正貨及ヒ可成

積入中ノ最モ貴重ノ荷物ヲ助ケ揚ク可シ違フハ自己ノ名前ニテ  
其責ヲ負フ可シ  
若シ如斯ク海船ヨリ運出シタル物件意外ノ事變ニ依リテ消失シタ  
ルハ船長ハ其責ヲ免カレヘシ

本條ハ之レヲ解スル易シ○士官及ヒ乗組人中ノ重立タル者ノ意見ハ  
船長必ス之レヲ聽クヲ要スト雖モ必ズ其意見ニ從フヲ要セス若シ船  
長猶モ海船ヲ保守スルヲ得可シト思料スルハ船内ニアラザル可  
カラス○其意見ハ船内簿ニ記シ總テノ詳議者之レニ手署スルヲ要ス  
○但シ士官及ヒ乗組人中重立タル者ノ見込ヲ問フヲ能ハサルハ之  
レヲ問フニ及ハス且海船ヲ抛棄スルヲ必要ナルハ之レヲ抛棄  
テ後ニ船長其旨ヲ証明シテ責ヲ免カル可シ  
(第千二百八號) 第二百三十九條 荷物ヲ以テ利益ヲ共分スル約束ニ



テ航海ヲナス船長ハ自己一人ノ計算ノ爲メ決シテ商ヒチナスヲ得ス但シ反對ノ契約アルキハ此限ニアラス

第二百四十條 前條ニ於テ記載シタル定規ニ違背シタル場合ニ於テハ船長ノ自己一人ノ計算ノ爲メ積入レタル荷物ハ他ノ關係人ノ爲メニ沒收セラルル可シ

此禁止ハ積荷ヲ以テ利益ヲ共分スル約束ニテ航海スル船長ニ特別ノモノナリトズ(第二百五十一條比較)斯ノ如キ方法ヲ以テ船長ヲ雇フタルキハ積荷ハ船長ト海船ノ所有者トニ屬スルモノナリトノ思料ヲ下ササルヲ得ストス而シテ船長ハ其積荷ヨリ生スル利益ノ幾割ヲ受クルモノトス此場合ハ其所有者ト船長トノ間ニ眞ノ會社成立スルナリ故ニ民法典第千八百四十七條ヲ適用スルヲ要ス此條ニ於テハ社員ニシテ勞力ヲ資本トシテ差入レタル者ハ其勞力ヲ以テ得ル所ノ一切ノ

利益ヲ會社ニ差出スヘキモノトス是レ殊ニ船長ノ如キ者會社ノ支配人トナリタルキハ至當ナリトス且船長他ノ商品ヲ販ミズ已レノ商品ヲ先キコ賣リ又或ハ競争ヲナシテ物品ノ代價ヲ下落セシムルコトアリ是レ此ヲ防ガザルヲ得ザルナリ前ニ記ス所ノ禁止ハ同一ノ海船ニ積入レタル商品ノミコ適施ス是レ第二百四十條ニ船長ハ自己一人ノ計算ノ爲メ積入レタル商品ト記スニ依リテ生スルコトナリ若シ其禁止他ノ海船ニ積入レタル商品ニモ適用スルノ意ナレハ斯ノ如ク記セザル可キナリ然レニ船長會社ニ對シテ競争ヲナシテ社員ニ損害ヲ受ケシメタルキハ之レニ對シテ償金ヲ拂ハザルヲ得ヌ又其禁止ハ海船ノ賃貸料ヲ共分スルノ約束ニテ航海スル船長ニハ適用セザルナリ何トナレハ法文ニ於テ此事ヲ定メザレバナリ且此場合ニシテ海船ノ自己ノ爲メ商賣ヲナスモ會社ニ對シテ害ヲ及ボササルナリ其會社ハ運送ヲ



ナシテ以テ利益ヲ得ルヲ目的トシ荷物ヲ賣買スルヲ以テ利益ヲ得ルヲ目的トナサ、ルヲ以テナリ

第二項 船長ノ履行ス可キ法式

(第一千二百九號) 船内簿ヲ有スルヲ

第二百二十四條 船長ハ商事裁判所ノ裁判官ノ一名又ハ商事裁判所ノアラザル土地ニ於テ邑長又ハ其補役人每葉ニ番號ヲ附シ且略手署シタル一簿冊ヲ有ス可シ

此簿冊ニハ左件ヲ記ス可シ

航海中爲シタル諸決定  
海船ニ關スル受取高及ヒ費用高其他總テ船長ノ職分ノ事ニ關スル一切ノ事件及ヒ精算スヘキ勘定又ハ訴訟ヲ爲スノ原因トナル可キ一切ノ事件

此簿冊ハ商人ノ有ス可キ日記簿ニ當ヌルモノニシテ航海中ノ總テノ事件ニ付參考トナリ又船長ニ對スル利證又ハ不利証トナルノ用アルモノトス此簿冊ニ記入スル所ノ決定ノ多クハ船長ノ申譯ノ証トナル可シ(第二百三十九條參看)而シテ此簿冊ナキハ船長自カラ事ヲ証明シテ責ヲ免カルヲ容易ナラス此時ニ當テ自カラ報告書ヲ作ルモ自己ノ責ヲ免カル、爲メ証トナスヲ許サ、ルナリ

其他ニ船長ハ通常「リール、ド、ローク」(簿名)ト稱スル簿冊ヲ有ス此簿冊

ニハ特ニ航海事件ヲ記入スルナリ

(第一千二百十號) 出帆前海船ノ見分

第二百二十五條 船長ハ積荷ヲ受クル前ニ規則ニ於テ定メラレタル定規及ヒ法式ニ從ヒ其海船ヲ見分セム可シ  
見分ノ始未書ハ商事裁判所ノ書記局ニ納ム可シ其拔書ヲ船長ニ渡



ス可シ

此見分ハ海船ノ儘ニ航海スルニ堪ユルガヲ調査スルヲ以テ目的トス  
是レ公衆ノ利益乗組人ノ生命及ヒ船客ノ生命ニ關シ又荷主ノ利害及  
ヒアルマトールノ荷主ニ對シ後日負フ可キ責任ニ付テハ其アルマト  
ールノ利害或ハ海難ノ場合ニ保險者ニ對シ要償ノ訴ヲナスニ付テモ  
亦其利害ニ關シ實ニ要用ノモノトス

其見分ハ「チ、フ、イ、シ、エ、ウ、イ、ト、」譯シテ見分官船長ノ願ニ因テ之レヲナ  
ス可シ見分官ハ前航海者造船者船工ヨリ成ルモノトス(千七百九十一年八月十三日ノ法令第三卷第十二條第十三條第十四條千八百六十六年總規則書第百八十四條)○此見分ハ出帆前二度ナスヲ要ス一ハ艤裝前ニ之レヲナシ一ハ艤裝ノ後チニシテ積荷ヲ受ケザル前ニ之レヲナスナリ(然レモ何レノ條文ニ於テモ積荷後見分ヲナスコトヲ命ゼス「ドマ」ノ「シヤ」氏第四卷第百六丁見合ス可シ又歸航ニ付積荷ヲ受ク

ル時ニ)○是レ遠路航海ノミニ付テ要スル所ナリ沿海航ヲナス所ノ海  
命セズ)○是レ遠路航海ノミニ付テ要スル所ナリ沿海航ヲナス所ノ海  
船ニ付テハ毎一年一度見分ヲナスヲ以テ足レリトス(千七百七十九年八月十七日ノ勅令第三條)(商法典ハ他ノ規則ニ讓ルト雖モ)小船船ニ至ツ  
テハ之レヲ免スルコトアリ(千七百八十五年二月十三日規則第十條)

港内ニ商事裁判所アラザルキハ見分ノ始末書ハ裁判所ノ書記局ニ納  
ムルナリ(千八百二十六年十一月一日王令參看)

見分ヲ受ケザルキノ罰ハ民事上ノ責ヲ負フノ外ニ猶ホ二十五フラン  
ク以上三百フランク以下ノ罰金ニ處スルナリ(千八百五十二年三月二  
十四日法令第八十三條千八百六十六年ノ總規則書第百八十六條)○又  
第二百九十九條及ヒ以下第千二百六十一號參看

第千二百一十一號 船内ニ於テ有ス可キ書類

第二百二十六條 船長ハ左ノ書類ヲ船内ニ有ス可シ



海船ノ所有權ノ証書

佛國船証書

乘組人簿

積荷目録及ヒ海船貸借証書

見分ノ始末書

關稅局ノ稅銀拂濟証書又ハ其「アキタ、ゴーション」

本條中未タ此書中ニ於テ解義セザルモノハ乘組人簿ノミナリ此簿ハ航海ニ從事スル諸船舶皆之レヲ有セザルヲ得ス(千八百五十二年三月十九日法令第一條航海ノ義解ニ付テハ法令全條千八百六十六年ノ總規則書百九十一條)○遠路ノ航海ヲナス諸船舶ニ付テハ各航海ニ此簿ヲ仕換ヘ又沿海航ヲナシ或ハ小海獵ニ從事スル諸船舶ニ付テハ毎年此簿ヲ仕換ヘザルヲ得ス(千八百五十二年三月十九日法令第二條)大西洋外

邦便船ノ船内ノ乘組人簿ハ每半年ニ仕換ヘザルヲ得ス(總規則書第二百條)イヤク小船ノ名及ヒ遊散船ニハ是レヲ有スルヲ免ス(全第百九十一條)○此簿ニハ海船其海船ニ相違ナキヲ證明スル所ノモノ記載ノ外ニ乘組人ヲ構成スル總テ人員ノ姓名住所出生ノ日附及ヒ場所某ノ子タルコト人相書登記ノ海上區其簿冊及ヒ其番號免許ノ稱船内ノ身分入ノ條件ヲ記載ス(千八百六十六年總規則書第百九十一條)且其簿ニ雇船客ノ姓名等ヲ記ス(千八百五十二年三月十九日法令第四條ノ推論)○千八百六十六年總規則書第二百七十二條○船長ハ乘組人簿ヲ見閱スルノ權アル者ノ求アルキハ其簿ヲ見閱セシムルヲ要ス拒ムキハ場合ニ依リ百「フランク」以上五百「フランク」以下ノ罰金ヲ科ス(千八百五十二年三月十九日法令第三條)第二百二十六條ニ記ス所ノ書類ノ外ニ左ノ書類ヲ付加セザルヲ得ス

第一「コンゼー」○「コンゼー」トハ海船其得タル所ノ佛國船証書ヲ證



據トスルノ權アルヲ証明スル爲メ關稅局ヨリ渡シタル證書ナリ  
 即チ此證書ハ佛國ノ船証書ニ記シアル船舶ト之レヲ有スル海船  
 ト相違ナキヲ確明ニスルモノコシテ取リモ直サズ船舶ノ通交  
 免狀ナリ(千八百六十六年總規則書第百六十一條第百六十二條第  
 百六十四條○共和政第二年「ワソデミエール」(月名)二十七日ノ勅令  
 第五條第九條第二十二條○「コンゼ」ハ一ケ年間其効アリトス又  
 一年以上ノ航海ヲナス船ニ付テハ其航海中効アリトス(共和曆第  
 二年「ワソデミエール」第二十七日勅令第五條○千八百四十一年五  
 月六日法令第二十條)

第二 積荷總目錄(マニフェスト)○即チ關稅局ノ爲メニ記シタル積荷  
 ノ總目錄ナリ

第三 保健免狀(バタント、ド、サンテ)○此免狀ハ常ニ有スルニ非ラ

ス流行病ノアリト疑ハレタル地ヨリ來ルキ要スルモノナリ

第四 民主証書ニ付テノ千八百二十八年七月二日ノ指令書一通及  
 ヒ千八百五十二年三月二十四日法令一通(總規則書第百五條)

(第千二百十二號) 前規定ヲ犯スルノ罰

第二百二十八條 前四條ニ於テ命定シタル義務ニ違背シタル場合ニ  
 於テハ船長ハ航海及ヒ積荷ニ關係アル諸人ニ對シテ總テノ出來事  
 ニ付責ヲ負ハザルヲ得ズトス

(第千百十三號) 到着ノ時ノ義務

第二百四十二條 船長ハ到着ヨリ二十四時内ニ其簿冊ニ檢印ヲサ  
 シメ且其報告書ヲ出ス可シ

其報告書ニハ出帆ノ場所及ヒ其時日其帆行シタル船路其達遭シタ  
 ル危難船内ニ到來シタル毀損及ヒ其航海中ノ著ルシキ總テノ事情



ヲ○記○ス○可○

檢印ヲ受ク可キ簿冊ハ船内簿ナリ○報告書ハ佛國ニ在リテハ商事裁判官ニ之レヲ出シ外國ニ在テハ佛國領事ニ之レヲ出ス故ニ此報告書ナ一名「コンシユラー」ト云フ船長ハ此報告書ノ證據書トシテ第一ニ佛國船證書第二ニ「コンセー」第三ニ乗組人簿第四ニ「アキ、タコー、ジョン」積荷目錄及ヒ海船貸借書第五ニ船内簿ヲ納メルヲ要ス(千八百六十六年總規則書第二百三十二條)第一ト第二トノ書類ハ出帆ノ時迄納置クモノトス(共和曆第二年「ウワンデミエ」二十七日勅令第二十八條)○千八百六十六年總規則書第二百七條)○千八百三十三年十月二十九日王令第十條ハ第四百四十二條ニ於テ記載スベキ件々ニ猶ホ許多ノ事件ヲ記載ス可キヲ命シタリ(此王令參看)

二十四時ノ期限ハ錨ヲ投入シタル時ヨリ起算スルモノトス

左ニ記ス所ノ諸條ハ報告書ハ何レノ官府ニ出ス可キカ又之レヲ出スノ條件ヲ定ム

第二百四十三條 其報告書ハ商事裁判所ノ長ノ面前ニテ其書記局ニ差出ス可シ

商事裁判所ノアラザル地ニ於テハ報告書ハ其郡ノ治安裁判官ニ出ス可シ

治安裁判官其報告書ヲ受取リタルキハ遅延ナク之レヲ最近ノ商事裁判所ノ長ニ送ル可シ

其何レノ場合ニ於テモ其報告書ハ之レヲ商事裁判所ノ書記局ニ送ル可シ

第二百四十四條 若シ船長外國ノ港ニ着シタルキハ佛國ノ領事ノ所ニ至リ報告書ヲ出シ且到着ノ期日及ヒ出帆ノ期日並ニ積荷ノ摸樣



種類トシテ証スル保証状ヲ受取ル可シ

第二百四十五條

若シ航海中已ムテ得ズシテ佛國ノ港ニ立寄リタル  
トアレハ船長ハ其土地ノ商事裁判所長ニ其立寄ノ事情ヲ申述ス可  
シ

商事裁判所ノアラザル土地ニ於テハ其申述ハ其縣ノ治安裁判官ニ  
之レヲナスベシ

又已ムテ得ズシテ外國ノ港ニ立寄リタルハ其申述ハ佛國ノ領事  
又ハ之レヲナキキハ土地ノ裁判官ニナス可シ

第二百四十六條

船長兼船シテ自己一人助カリタルハ又ハ其乗組人  
ノ一部ト共ニ助リタルハ其地ノ裁判官ノ所ニ至リ又ハ之レヲナキ  
キハ其他ノ官府ニ至リテ其報告書ヲ差出シ且自己ト共ニ助リテ其  
地ニアル乗組人ヲシテ其報告書ヲ証セシメ其寫ヲ取置ク可シ

第二百四十七條

船長ノ報告書ヲ証スル爲ノ裁判官乗組人ヲ問糺シ  
又船客ヲ問糺シ得ルハ其船客ヲ問糺ス可シ但シ其他ノ証據アル  
キハ又之レヲ取糺ス可シ

証セラレザル報告書ハ裁判所ニ於テ船長ノ責ヲ免スルノ證トナラ  
ズシテ効ナキモノトス但シ難船シタル船長其報告書ヲ出シタル地  
ニ於テ一人助リタルハ此例ニアラス

事實反對ノ証ハ關係人之レヲナスコトヲ得可シ

未ダ証セラレサル報告書ハ船長之レヲ引証トナスコトヲ得ズ然レモ他  
人船長ニ對シテ之レヲ引証トナスコトヲ得但シ裁判官ハ其証トナルノ  
効力ヲ審判スル其任ナリトス若シ其他人船長ニ對シ報告書ヲ以テ証  
トセントスルハ裁判官其判定ヲ以テ之レヲ許サバハ他ノ証據ヲ  
以テ証トスルコトヲ得



此解説ハ船長決シテ報告書ヲ出サザル場合ニモ之レヲ適用セザルヲ得ズ其船長ト雖他ノ証據ヲ以テ証トナスヲ得

(第千二百十四號) 第百四十八條 危急ノ時ノ外船長其報告書ヲ出サザル前ニ積荷ヲ決シテ卸ス可カラズ違フキハ非常ノ訴ヲ受ク可シ

此規則ハ衛生上ノ處分ナリ夫レ其土地ノ官府船長ノ報告ニ依リ流行病ノ疑ヒアル土地ヨリ來リタル荷物ヲ陸揚セシメテ危害ナキヤ否ヤヲ豫メ調査スルヲ要ス此規則ヲ商法典中ニ記載シタルハ船長ノ其關係者ニ對スル責任ヲ證明スル爲メナリ若シ船長此規則ヲ犯スキハ衛生上ノ規律ニ從ヒ荷物ハ之レヲ沒収シ又ハ之レヲ消滅セシムルナリ  
○又此規則ハ關稅局ノ利益ト荷主ノ利益トヲ保護ス何レハ報告書ノ記載アル爲メ荷物ノ脱漏ヲナスヲ難カラシムレハナリ

(第千二百十五號) 附錄

出帆ノ時拘留ノ除免

第百三十一條 船中ニアル船長及ヒ乗組人又出帆ス可キ爲メ小艇ニ乗リテ本船ニ赴カントスル船長及ヒ乗組人ハ其航海ノ爲メ約定シタル負債ノ爲メニアラザレハ民事ノ負債ノ爲メニ之レヲ拘留スルヲ得ス又此終リノ場合ト雖其保証人ヲ立ル時ハ之レヲ拘留スルヲ得ズ

此條ハ總テ乗組人ニ適用ス可キモノナリキ此條ハ第百十五條ノ理由ニ依リテ自カラ解スルモノトス(以上第百六十八號參看)而シテ拘留ノ廢止ニ依リ已ニ廢セラレタリ(千八百六十七年七月二十二日法令)尤モ千八百六十七年七月二十二日ノ法令ハ犯罪ニ因リ生シタル民事ノ賠償ニ付テハ拘留ヲ廢セス然レ其賠償ノ事ハ第百三十一條ノ除免中ニ含マ)○然レ其乘組人ノ財産ハ拘留ノ廢止以前モ亦今日ニ



於テモ何レノ場合ヲ問ハス差押、ルヲ得ベシ但シ水夫ノ給料ハ此例ニ非ラス法律ハ之レヲ差押フルヲ能ハザルモノトナシタリ

第五卷 氷夫及ヒ其他乗組人ノ雇入ノリ  
（此項ハ法律上大益ナキヲ以テ余輩ハ詳説セサリ）

（第一千二百十六號） 總テ佛蘭西國民ニシテ航海ニ從事スルモノハ海上登記ヲ受クルヲ要ス其登記ハ海員簿ニ之ヲナスナリ此簿冊ハ之ヲ各類ニ分ツ即チ假登記ノ部確定登記ノ部沿航ノ船長ノ部海遠路航海ノ船長ノ部水先案内者ノ部水先案内候補者ノ部免役ノ部是レナリ  
氷夫ノ雇入ノリ

（第一千二百十七號） 第二百五十條 海船ノ船長及ヒ乗組ノ人員ノ雇入ノ諸條件ハ乗組人簿又ハ契約者ノ契約ニ於テ之ヲ證明スルモノトス

乗組人簿又ハ艤裝帳ハ航海前ニ「コンミセール、デ、ク、ラ、ス」海上區ノ官吏之レヲ作ルナリ此簿ニ記載セサル水夫ヲ海船ニ乗組セルヲ得ストス（千八百五十二年三月十九日ノ法令第十三條）水夫ノ雇入ニ關スル一切ノ契約ハ必ズ此簿冊ニ登記スルヲ要ス（千七百八十四年十月三十一日王令第十四卷第九條第十條第十一條 千八百六十六年總規則書第二百二十五條第二百二十六條其契約ハ此簿冊ニ登記スルニ依テノニ確定スルモノトス（第二百七十條第五項）若シ航海中氷夫ヲ雇入レタルキハ上陸スル最初ノ港ノ領事ヲシテ其契約ヲ乗組人簿ニ記入セシム可シ（千七百八十四年十月三十一日王令第十四卷第十三條）  
到着ノ港ニ於テハ「コンミセール、デ、ク、ラ、ス」乗組人簿ニ從テ艤裝解散帳（ロール、ド、デザルムマン）ヲ作ルナリ乗組人簿ハ着港シタル日ハ船長直ニ之ヲ「コンミセール、デ、ク、ラ、ス」ニ渡ス可キモノトス（第一千二百十三號參



看艤裝解散帳ハ氷夫ノ雇人ノ終リタルヲ及ヒ將來ハ何レニテモ雇入  
 ナ受クルノ自由ナルヲ證明ス又此時ニ「コンミセール、デ、ク、ラ、ス」ノ面  
 前ニテ其給料ヲ精算スルナリ  
 是故ニ争フ時、結、約、者、ハ、雙、方、ノ、契、約、ニ依リテ其定メタル所如何ヲ審査  
 スルヲハ稀レニシテ裁判所ニ於テ乗組人簿ニ錯誤又ハ遺漏ノ「アル  
 「ヲ許スハ容易ニハナサ、ル所ナリ然レトモ裁判所ハ先ツ乗組人簿  
 ノ未作前ニハ結約者雙方ノ契約ノ證ヲ許シ之ヲ採用スル「アリ而シ  
 テ此證ハ通常總テノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得何トナレハ法律ハ  
 律ノ王令ノ要シタル所ヲ摸シテ制定セザレハナリ其王令ニ於テ書面  
 ノ證ヲ要ストセリ(第三編第四卷第一條)但シ其王令ニ於テハ氷夫ハ自  
 ラ誓ヲナシテ之ヲ證トスル「ヲ許シ「艤裝帳ノ獨リ證トナリ得ル  
 ハ氷夫海船上ニ特權ヲ行フ「ニ付テ證トスル是レノミナリトス(第百

九十二條第四

(第千二百十八號) 船長ハ氷夫ノ乗組ミタル最終ノ海船ヨリ暇ヲ與ヘ  
 ラレタル書付ヲ調査シ其確タル「ヲ認メタル上ニ非ザレバ之ヲ雇入  
 ル、ヲ禁ズ(千七百八十四年十月三十一日王令第十四卷第六條)〇千八  
 百五十二年三月二十三日法令第七十條)又氷夫ハ暇ヲ與ヘラレズシテ  
 已レノ乗組ム所ノ海船ヲ去リ若クハ雇入ノ契約ニ違フ「ヲ得ズ若シ  
 犯スキハ違犯人(デゼルトール)トシテ取扱ハル可シ(千七百八十四年十  
 月三十一日王令第十四卷第十四條及ヒ第十八卷〇千八百五十二年三  
 月二十四日法令)

又海船ハ理由ナク氷夫ニ暇ヲ遣ス「能ハス若シ之ヲナシタル「ハ第  
 二百七十條ニ定メタル償金ヲ拂フ「要ス而シテ此償金ハ全ク自ラ擔  
 當ス可シ何トナレバ過失ヲナシタルハ船長タレハナリ又船長ハ外國



ニ於テハ沃シテ水夫ニ暇ヲ遺スヲ能ハストス  
 第二百七十條 總テ水夫適法ノ理由ナク暇ヲ得シトテ證スルキハ船  
 長ニ對シテ損害ノ償ヲ要ムルヲ得可シ  
 其償ハ若シ暇ヲ與ヘラレタルト始メラレタル航海前ニアルキハ給  
 料ノ三分一ニ定メラレタルモノトス  
 其償ハ若シ暇ヲ與ヘラレタルト航海中ニアルキハ給料ノ全額ト歸  
 路ノ入費トニ定メラレタルモノトス  
 船長ハ以上ノ何レノ場合ニ於テモ海船ノ所有者ニ對シテ其償金ノ  
 額ノ返還ヲ要ムルヲ得ス  
 若シ水夫乗組人簿ノ成就セサル前ニ暇ヲ與ヘラレタルキハ其償ヲ  
 要ムルヲ得ズトス  
 何レノ場合ニ於モ船長ハ外國ニ於テ水夫ニ暇ヲ與フヲ得ズ

本條ハ千八百五十二年三月四日ノ勅令ニ於テ公安(ナルドルプユブリ  
 ック)ニ關スルモノトナシタリ故ニ契約ヲ以テ之レニ背クヲ能ハズ○  
 本條末項ハ水夫ニ無法ニ暇ヲ與ヘタル場合ノミニ適用ス可シ假令ヒ  
 外國ニ在ルト雖モ其土地ノ佛國領事又ハ其他佛國ノ官吏ノ判定シタ  
 ル正當ノ理由アルキハ水夫ニ暇ヲ遺スヲ得可シ  
 水夫ノ給金ノト

(第二百十九號) 水夫ノ給金ハ海船上及ヒ其勞動ヲ以テ儲トナサシム  
 ル所ノ海船ノ賃貸料上ノ特權ニ依リテ擔保セラル、モノトス(第百九  
 十一條第六項)  
 第二百七十一條 海船及ヒ其賃貸料ハ水夫ノ雇賃ニ引當テラレタル  
 モノトス

余輩ハ海船上特權ノヲチ已ニ充分ニ説明シタリ(第千百二十號)○海船



賃貸料上ノ特權ハ水夫荷主ニ之ヲ海船ノ所有者ニ渡ス可カラサルヲ  
 ナ通知シテ故障ヲ述ブルニ依リテ之ヲ行フ水夫其故障ヲ述ブルコト  
 シ荷主ヲシテ拂ハシメタルキハ其賃貸料ニ付特權ヲ行フノ權ナシ若  
 シ其賃貸料既ニ己ニ荷主之ヲ拂フタルキハ水夫ハ之レニ付特權ヲ有  
 セサルナリ○水夫ノ抵價トナル所ノ海船賃貸料ハ其雇入レラレタル  
 航海ニ付テノ海船賃貸料ノミナリトス若シ海船處々ニ立寄リテ其立  
 寄リタル毎ニ荷物ヲ陸揚ケン其荷主其都度其海船賃借料即チ船賃ヲ  
 拂フタルキハ(此事ハ甚ク信ス可キコトナルヲ以テ)水夫ハ其船賃ニ付特  
 權ヲ有セサルナリ何トナレハ水夫ハ艤裝ノ港外ニ於テ拂チ受クルコ  
 トヲ得サレハナリ(以下參看)然レモ若シ此港ニ到着シタル時此船賃ノ未  
 一部ヲ拂ヒ殘リニナリタルキハ余輩ハ水夫ハ此一部ニ付特權ヲ行フ  
 コトヲ得ルトス

且水夫ノ給金ハ差押フ可ラサルモノトス但シ「コンミセール、デ、グラス」  
 ノ承諾ニ依リ水夫ニ供用シタル衣服用ノ一切ノモノ及ヒ食料雇賃ハ  
 此例ニ非ラス(千七百四十五年十一月一日王令○千八百十六年七月十  
 七日規則)此定規ノ目的ハ水夫金ヲ借入レテ前以テ已レノ給料ヲ消費  
 スルヲ防クニ在リ故ニ此定規モ亦公安ニ關スルモノニシテ契約ヲ以  
 テ之レニ違背スルコト能ハサルナリ(千八百五十二年三月四日敕令)○又  
 前ト同一ノ理由ニ依リ艤裝ノ港ヨリ他港ニ於テ水夫ニ給金ヲ拂フコ  
 トヲ禁ズ且シ「コンミセール、デ、グラス」又ハ領事ノ承諾アルトキハ格別  
 ナリトス(千七百二十八年十二月十八日勅令第六條第五條及ヒ千七百  
 三十四年一月十九日ノ布令ハ千八百五十二年三月四日ノ敕令コト公  
 安ニ關スルモノトス)若シ海船遠方ニ行テ艤裝ヲ解クキハ水夫ニ拂フ  
 可キ給金ハ藩屬地ノ海上登記所ノ官吏又ハ海軍省ノ官吏ニ之ヲ拂ヒ



渡スヲ要ス而シテ此等ノ官吏ヨリ儀裝ノ港ニ此給金ヲ送付スルナリ  
此等ノ規則ハ水夫已レノ親族ヲ顧ミズシテ給金ヲ消費スルコトヲ防  
ク爲メノミナラス海軍ノ廢弱者ノ金庫ニ積金ヲナサシムル爲ナリ

給金ノ定メ方

(第千二百二十一號) 水夫ニ拂フ可キ給金ハ其定メ方ニ四種ノ別アリ  
即チ左ノ如シ

第一 月定メ 是給金ハ雇入ノ時間ニ準スルモノナルヲ以テ其  
他勞力ノ賃貸契約ニ於テ行ハル、所ニ適シ通常一般ノ方法ナリ  
トス且假令ヒ月定メノ語ヲ用ヰルト雖モ必ス雇入レテ一ヶ月ニ  
限リ其月末ニ至リテハ必ス解約ス可シト云フニ非ラズ水夫ヲ航  
海中雇入レテ(以上第千二百十八號參看)其航海ノ時間ニ準シテ給  
金ヲ拂フヲ得可シ(第千二百五十二條第四項)

第二 航海定メ 此場合ニハ給金ヲ航海ノ繼續スル總テ時間ニ  
付豫メ見積ニテ算定スルナリ其航海ノ時間ニ増減アルモ水夫  
其損徳ヲ受ケサルヲ得ス故ニ給金ハ航海ヲ始メタル時ハ全ク水  
夫ニ之ヲ拂フ可キ者トス(以下見合及ヒ第千二百五十二條斯ノ如ク  
給金ノ契約ヲナスヲ稀ナリ夫レ給金ハ常ニ航海ノ通常一般ノ時  
間ニ準シテ算定ス故ニ其時間ノ延ヒルヲアルモ決シテ其時間ノ  
縮マルヲ至少ナリ(但シ第千二百五十二條第千二百五十四條第千二百五  
十六條參看)航海中ノ變事ハ多クハ其時間ヲ延ハスモノナリ故ニ  
不運ニ遇フハ常ニ水夫ニシテ常ニ損害ヲ蒙ラザルヲ得サルナリ

第三 利益定メ又ハ歩合定メ 是場合ニ於テハ水夫ハ航海ニ付  
テノ利益ノ割前ヲ給金トシテ受クルナリ斯ノ如キ契約ハ海船親  
方ト水夫トノ間ニ共分會社ヲ構成スルナリ是レ此契約ハ巡捕船



又ハ海獵ノ場合ノミニ行ルモノトス

第四 船賃定メ 此場合ニハ水夫ハ海船ノ收得シタル船ノ賃賃ノ割前ヲ受クルナリ是レ亦共分組合ノ姿ナリ此契約ヲ以テ雇入ヲ爲スルハ海船ノ賃賃料未定ナリト推量ス可シ若シ既定シタルナレバ水夫ニ渡ス可キ給金ヲ直ニ定メテ航海定メテ以テ雇入ルナリ是故ニ此契約ヲ以テ雇入ルハ沿海航行ノ場合ニ限ルモノトス沿岸航行ノ場合ニ於テハ立寄チナス各港ニテ荷物ヲ陸揚ケシ及ヒ其積入チナスナリ

第三及ヒ第四ノ場合ニ於テハ水夫ハ其加入スル商業ノ損徳ヲ擔當シ善惡ヲ問ハス一切ノ危険損失ヲ受ケサルヲ得ズ然レモ水夫ノ受クモ所ノ持部高ハ特權アリテ差押フヲ能ハサル給金タリトス  
航海ノ差止又ハ變更ノ場合ニ於テ水夫ノ權利

(第千二百二十一號) 水夫ノ雇入ノ各種ノ方法ニ付前已ニ論シタル諸規則ト契約ノ執行ヲ妨碍スルヲ拒抗ス可ラザルカノ場合ニ於テハ賃金ヲ拂フヲ要セズトノ規則ト比照ス可シ(民法典第千三百二條)又注意ス可キノ丁アリ即チ海船ノ所有者ノ隨意ニテ航海ヲ差止メ又ハ變更シタルキハ此所有者ハ理由ナク水夫ニ暇ヲ遣シタル場合ニ於ケル如ク苛酷ニ取扱ハレサル可シ(第百七十條以上第千二百十八號)何トナレバ航海ヲ差止メ又ハ變更スルヲハ所有者利益上止ムヲ得ズシテナストアルヲ以テ其之レヲナスハ甚タ正當ノ理由ニ原ク而シテ水夫ハ之レアルヲ豫知セザルヲ得ザレバナリ其之レアルハ海船ヲ以テ營利ヲナスノ業ニ於テ免カレザルヲナリ

出帆前航海差止ノ

(第千二百二十二號) 第一 抗拒ス可カラサルカノ場合ニ於テ



第二百五十三條 出帆前海船ノ指定ノ地ト通商ノ禁止アルキ又ハ海船政府ノ命令ニ依リテ差留メラレタルキハ水夫ハ其船舶ヲ職装ルニ付キ使用セラレタル日數ノ雇賃ノミヲ受取ル可シ

(第一千二百二十三號) 第二 隨意ノ差止ハ場合ニ於テ

第二百五十二條第一項及ヒ第二項 若シ航海海船ノ所有者又ハ船長又ハ海船ノ賃借主ノ所爲ニ依リテ出帆前ニ差止メラレタルキハ航海定メ又ハ月定メニテ雇ハレタル水夫ハ海船ノ職装ニ其者等ニ依リ使役セラレタル日數ニ準シテ拂テ受シ可シ水夫已ニ受取リタル立替金ハ償トシテ之ヲ保有ス可シ 若シ立替金未拂ハレザルトキハ水夫ハ償トシテ其約定シタル給金ノ一ヶ月分ヲ受取ル可シ

利益定メ又ハ船賃定メニテ雇入レラレタル水夫ニ就テハ其賃金ハ裁

判所之ヲ算定スルモノトス(第二百五十七條末項及ヒ以下ノ號數)

航海中航海ノ差止又ハ變更ノ

(第一千二百二十四號) 第一 利益定メ又ハ船賃定メニテ水夫ノ雇入レ

ラレタル場合ニ於テ

第二百五十七條 若シ水夫利益定メ又ハ船賃定メニテ雇ハレタルキハ抗拒ス可ラサル力ニ依リテ來タシタル航海ノ差止又ハ遅延又ハ延期ニ付其賃ヲ拂フニ及ハス又其日數ノ雇賃ヲ渡スニ及ハサルハ若シ其差止又ハ遅延又ハ延期積荷主ノ所爲ニ依リテ到來シタルキハ乘組ノ人員ハ海船ニ拂フ所ノ賃金ニ付割前ヲ受可シ 此賃金ハ海船ノ所有者ト乗組人トノ間ニ船賃ヲ分派スル割合ニテ之ヲ分派ス可シ



若シ其故障船長又ハ海船ノ所有者ノ所爲ニ依リテ到來シタルキハ船長又ハ其所有者ハ乗組人ノ受ク可キ償金ヲ拂フ可キモノトス  
 右ノ方法ニテ水夫雇入レラレタルキハ其加ハリタル事業ノ成敗損失ヲ負擔セサルヲ得ヌ何トナレハ其社員タレハナリ○最終ノ頃ノ場合ニ於テ水夫ハ償金ヲ受クルノ權アリ何トナレハ海船ノ所有者又船長ハ其水夫ノ以テ頼ミトナス所ノ利益ヲ得ルノ機運ヲ無トナスヲ得サレハナリ

法律ニ於テ水夫ニ拂フ可キ償金ノ高ヲ定メス此高ハ民法典第千百四十九條ノ普通法ニ從フテ定メラルモノトス

(第千二百二十五號) 第二 航海定メニテ水夫雇入ラレタル場合ニ於テ、

水夫ハ航海時間ノ減少シタルニ拘ラス其全ク航海ニ付テノ給金ヲ受

取ル可シ故ニ其水夫ニハ別段償金ヲ拂フヲ要セザルナリ

第二百五十二條第三項 若シ其差止メ初メタル航海後ニ到來スルナレバ航海定メニテ雇入レラレタル水夫ハ其約束ノ文面ニ從ヒ全ク拂ヲ受ク可シ

第二百五十四條第四項 航海定メニテ雇入レラレタル水夫ノ雇賃ハ其雇入契約ノ文面ニ從テ拂ハレル可シ

第二百五十六條 若シ海船ノ荷卸海船賃借契約ニ於テ指定サレタル場所ヨリ最モ近キ場所ニ於テ故ラニナサレタルナレバ其水夫ニ減額ヲナス可ラス

故ラニ航海ノ期日ヲ引延シタル場合ニ於テハ水夫ニハ其時日ニ準シテ雇賃ヲ増加ス可シ即チ左ノ如シ  
 第二百五十五條 若シ航海引延サレタルキハ航海定メニテ雇入レラ



レタル水夫ノ雇賃ハ其引延ノ割合ニテ増加サル、可シ

水夫ハ航海ノ引延シタル時ト雖其航海ヲ引續イテ爲スヲ拒ムヲ  
チ得ス是レ本條ニ因テ生シ又第千二百十八號ニ於テ引キタル諸法文  
ニ因テ生スルナリ

（第千二百二十六號）第三 月定メ、ニテ水夫雇入レラレタル場合ニ於  
テ、

第百五十二條第四項 月定メニテ雇入レラレタル水夫ハ其使用シ  
タル時間ニ付其約定ノ雇賃ヲ受ク可シ又其他ニ償トシテ其雇入レ  
ラレタル航海ノ見積リ時日ノ殘餘ノ時日ニ付テノ其給料ノ半額ヲ  
受ク可シ

第百五十四條 若シ通商ノ禁止又ハ海船ノ差押航海中到來シタル  
ナレバ

其禁止ノ場合ニ於テハ水夫ハ其使用シタル時間ニ準シテ拂テ受ク  
可シ

其差押ノ場合ニ於テハ月定メニテ雇入レラレタル水夫ノ雇賃ハ其  
差押ノ時間中其半額ヲ拂フモノトス

海船ノ差押ノ場合ニ於テハ其水夫ハ海船上ニテ引續テ其用務ヲ爲ス  
可キモノトス然レ此場合ニハ別段爲ス可キノ用務ナシ故ニ其給料  
ヲ半額ニ減少スルナリ

難船ノ場合ニ於テ水夫ノ給料ノ消滅スル

（第千二百二十七號）第百五十八條 掠奪又ハ破壊又ハ難船ノ場合  
ニ於テ海船及ヒ荷物全ク消盡シタル時ハ水夫ハ雇賃ヲ得ント求ム  
ルヲ得ズ其水夫ハ雇賃ノ中前拂ヲ受ケタルモノハ返還スルノ義  
務ナントス



此規則ハ水夫ノ給金ハ船賃ヲ以テ拂フモノト看做ス。ト水夫ヲシテ物件ノ救揚ニ盡力セシムルコトニ基クモノトス。然レモ此規則ハ許多ノ國ニ於テ之ヲ捨テ採ラザルナリ。夫レ海船ノ所有者ハ保險ヲ以テ常ニ損失ノ價ヲ受クルニ水夫獨リ勤勞ヲ盡シテ其報酬ヲ受クルト能ハザルハ條理ニ反スルノ甚シキモノナリ。又水夫ヲシテ救揚ニ盡力セシムルニ其慈悲ノ心ト已レテ保存スルノ心トヲ以テ足レリトス。是一般認ムル所ナリ。是故ニ海上法律ノ改正ノ諸案ヲ立ツルハミナ此規則ヲ廢ス可キコトヲ唱道ス。○商法典ノ行ハル、時ニ於テモ第二百五十八條ハ以前ノ航海ニ付既得シタル給金ニハ適用セザルト照々タリ。○歸路ニ於テ難船シタル場合ニハ往路ノ水夫ノ給料ハ消失セザルモノトス。夫レ法律ハ甚ダ苛酷ナルヲ以テ之レヲ制限シテ解釋セザルヲ得ス。且其海船

ノ所有者ハ往路ノ航海ノ船賃ハ之レヲ收受ス。故ニ此規則ノ理由ノ一又クルナリ。以下記ス所ノ諸條ハ第二百五十八條ノ元則ヲ規定シテ之ヲ寬ニス。

第二百五十九條 若シ海船ノ或部分救揚ケラレタルトキハ月定メ又ハ航海定メニテ雇入レラレタル水夫ハ其救揚ケタル海船ノ破殘物ヲ以テ已ニ拂期ノ至リタル雇賃ヲ受ク可シ。

若シ其破殘物充分ナラザルハ救揚ケタルモノ荷物ノミナルキハ船賃ヲ以テ其給金ノ不足ノ高ノ拂ヲ受ク可シ。

第二百六十條 船賃定メテ雇入レラレタル水夫ハ船長ノ受領シタル船賃ハ割合ニテ其船賃ヲ以テ單ニ其雇賃ノ拂ヲ受ク可シ。

第二百六十一條 水夫ノ如何ナル方法ニテ雇入レラレタルトキハ其水夫ハ難船シタル破殘物及ヒ物件ヲ救揚クルニ於テ使用シタル



時日ニ付テ拂テ受クベシ  
殺戮セラレ又ハ捕奪セラレ又ハ創傷セラレ又ハ疾病ノ水夫ノ  
諸權利

(第一千二百二十八號) 第一千二百六十二條 水夫若シ航海中疾病ニ罹リ又ハ海船ノ用ニテ創傷ヲ受ケタルキハ其給料ヲ受ケ且海船ノ入費ニテ賄養セラレテ療治セラレ可シ

法律ニ於テハ其給金ヲ拂フニ付テハ時間ノ制限ヲ設ケザルヲ以テ水夫ハ一航海ニ付初ヨリ艤裝ヲ解クノ港ニ歸ル迄ノ給金ヲ受ク可シ何トナレバ水夫ニハ航海中暇ヲ遣スヲ得ザレバナリ(第一千二百十八號 參看)本條ハ水夫ノ給金ノ定メ方ノ如何ニ關セス適用ス

第一千二百六十三條 水夫若シ敵又ハ海賊ト戰撃シテ創傷ヲ受ケタルキハ海船ト積荷トノ入費ニテ賄養サレテ療治セラレ、可シ

第一千二百六十四條 若シ水夫許可ナク海船ヲ出テ陸ニ於テ創傷ヲ受ケタルキハ其賄養ト療治ノ入費ハ其負擔ニ屬ス可シ又船長ニ依リ暇ヲ遣ハサレルトアル可シ  
此場合ニ於テハ其雇賃ハ其使用ヲ受ケタル時日ニ準シテ仕拂フモノトス

第一千二百六十五條 航海中水夫ノ死去ノ場合ニ於テハ若シ其水夫月定メニテ雇入セラレタルキハ其死去ノ日マデノ雇賃ハ其相續ニ拂フ可キモノトス  
若シ水夫航海定メニテ雇入セラレタルキ往路ニ於テ又ハ到着ノ港ニ於テ死去スルナレバ其雇賃ノ半額ヲ受ク可シ  
若シ其水夫歸途ニ於テ死去スルキハ其雇賃ノ全額ヲ受ク可シ  
若シ水夫利益定メ又ハ船賃定メニテ雇入セラレタルキ其航海ヲ始



テ○死○去○シ○タル○ナ○レ○バ○其○全○持○部○ヲ○受○ク○可○シ○  
海○船○ヲ○防○守○シ○テ○殺○戮○サ○レ○タル○水○夫○ノ○雇○賃○ハ○若○シ○其○海○船○安○全○ニ○着○港○  
シ○タル○キ○ハ○其○全○航○海○ニ○付○全○額○ヲ○拂○フ○モ○ト○ス○

第二百六十六條 第二百六十七條 第二百六十八條 第二百六十九條 今  
日ハ己ニ之ヲ適施スルコトナシ何トナレバ水夫ハ敵ノ爲ニ虜獲セラ  
レテ奴隷トナルコト幸ニシテアラサレハナリ

水夫本國ニ歸來スルノ權

(第千二百二十九號) 水夫己レノ過失ナクシテ艤裝ノ港ヨリ遠隔ノ地  
ニ於テ暇ヲ遣ハサレタルキハ艤裝ノ入費ヲ以テ歸國スルノ權アリ艤  
裝ノ港ニ歸ヘルノ約束ハ水夫ノ雇入レ契約ニ暗ニ合ミタルモノト看  
做シタリ是至當ノトトス且歸國ノ入費ハ給金ト同一ノ理由ニテ水夫  
ニ拂フ可キモノトス此規則ハ公安ニ關スルモノトス即チ(千八百五十

二年三月四日勅令第一條ヲ見ル可シ)此規則ハ之ヲ航海ノ隨意ノ差止  
ノ場合ニ於テ月定メ又ハ航海定メニテ雇入レラレタル水夫ノ爲メ第  
二百五十二條ノ末項ニ於テ設定シタリ即チ左ノ如シ

第二百五十二條末項 航海定メ又ハ月定メニテ雇入レラレタル水夫  
ハ其他ニ海船ノ出帆ノ場所マテ歸來スルノ入費ヲ受ク可シ但シ船  
長又ハ海船ノ賃借主又ハ海船ノ所有者又ハ支配局ノ官吏前ニ記ス  
其出帆ノ場所ニ歸ル他ノ海船上其水夫ヲシテ乗組セタルキハ此例  
ニ非ラズ

此定規ハ千八百六十年六月四日ノ勅令ニ於テ水夫ノ雇入契約ノ体式  
如何ニ關セズ總テノ場合ニ適用ス可キモノトセリ而シテ此勅令ニ於  
テ船長ノ艤裝ノ港ヲ出帆シタルヨリ得タル一切ノ船賃及ヒ海船ヲ以  
テ水夫ヲ歸國セシムルノ義務ノ引當物トナシタリ此勅令ノ法律ノ力



ナ有スルヤ否ヤノ一ニ付議論ヲ生シタリ然レモ裁判事例ニ於テ之ヲ法律ノカアルモノト認定シタリ此義務ハ抗拒ス可ラサルカノ爲メ航  
 ト蓋シ其勅令ニ於テ定ムル所ノ規則ハ單ニ舊法令ノ定規ノ説明即チ其定規ヲ認メタルモノニ過キザルナリ(第二百五十二條末項ト第二百  
 五十七條第二百六十二條第二百六十三條及ヒ第二百七十條ノ末項ト  
 ナ比照セヨ及ヒ千七百四十三年八月一日ノ王令第八條共和政第二年  
 「セルミナール五日ノ布令第七條水夫ヲ歸國セシムルハ亦海上ノ登記  
 ノコトニ付國家ノ利害ニ關スルヲ以テ其地ノ佛國ノ官吏又ハ領事速  
 カニ之ヲ爲サシム可シ但シ其入費ハ艤裝者ニ對シ其償還ヲ請求スル  
 コトヲ得(政府ハ此事ニ付艤裝者ニ對シテ直接ノ訴權ヲ有ス可シ大審  
 院千八百七十七年二月六日判決)「マロリス氏判決集第七十  
 七冊第一部」若シ艤裝者其入費ヲ償還スルコトヲ要セザルキハ政府ヨ  
 リ之ヲ負擔シ全ク之ヲ其艤裝者ニ負ハシメザルナリ(千八百六十年六

月四日ノ勅令ハ其元則ヲ定メ又其執行ノ細則ヲ制定ス  
 水夫自己ノ計算ノ爲メ商品ヲ積入ルハ禁止ス

(第二百三十號)第二百三十一條 船長及ヒ乗組人ハ如何ナル名義ニテ  
 海船ノ所有者ノ允許ナク且船賃ヲ拂フコトナクシテ商品ヲ自己  
 ノ計算ノ爲メ海船ニ積入ルハ得ズ但シ其雇入契約ニ於テ許可  
 ナルキハ此例ニアラズ

舊水夫ニ其給金ヲ金額ヲ以テ拂ハザリキ水夫ハ己ノ計算ノ爲メ商品  
 ナ積入ルノ權ヲ以テ其給金トナシタリ是ヲ水夫ノナルギ子ール(例習)  
 又ハ「ボルトー」(權内)ト云ヒシナリ千六百八十一年ノ王令ハ例慣ヲ廢  
 タリ商法典ニ於テハ亦其王令ノ如ク其積入ヲ禁シタリ○然レモ反對  
 ノ契約ヲ爲スヲ許ス此反對ノ契約ハ船長及ヒ乗組人ノ重立タル者  
 往々之ヲ爲ス是ヲ「ボール、ベルミ」ト云フ(ボール、ベルミトハ)  
 (允許サレタル港ノ義)古昔ノ



慣習及ヒ現今ノ慣習ニ於テモ「コントラ、ド、バコチール」ト云フモノ行ハルナリ「コントラ、ド、バコチール」トハ「ドンノウール」(商品ヲ依託)「カブルノウール」(受クルモノ)ニ其「ポールメルミー」ニ依リ無賃ニテ運送セシメテ賣拂ハヤ且其賣拂ニ付テ生スル利徳又ハ歸路ニナシタル利徳即チ最初ノ商品ノ賣代金ヲ以テ買入レタル商品ニシテ最初ノ如ク亦無賃ニテ佛國ニ來リタルモノニ付ナシタル利徳ヲ分派スル爲メ商品ヲ引渡ス所ノ契約ナリトス是真正ノ共分組合ナリ而シテ其取引事件ヲ結了シタルトキハ「ドンノウール」ハ其立替ヘタル資本ヲ受收シ又其入費ハ之レヲ出シタルモノニ之レヲ償還シテ後猶ホ殘餘ノ金額アルトキハ之レヲ約定シタル割合ニテ其雙方間ニ分派ス

第二百五十一條ノ禁止ハ氷夫其衣類ヲ入ル、爲メ携行スル行李ニハ適用セズ此行行李ニハ自由ニ諸品ヲ入ル、コトヲ得且ツ空所アルトキハ亦

商品ヲ入ル、コトヲ得可シ

第二百七十二條 氷夫ノ雇賃治療救贖ニ付テノ諸定規ハ士官及ヒ其他總テノ乗組人ニモ通用ス可シ

此條ニ付一疑問ヲ生ズ即チ第二百五十二條第二百五十四條第二百五十七條ニ於テ命定シタル償金ハ第二百十八條ニ拘ラズ(本條ニ於テ暇ヲ與ヘラレタルトキハ償金ヲ拂フヲ要セズトス)船長ニ拂フ可キモノナルカ是レナリ余輩ハ船長ニハ第二百五十二條第二百五十四條第二百五十七條ヲ適用スルヲ要スト思考ス何トナレハ第二百十八條ノ禁止ハ船長其職ニ堪ヘサルニ因リ其處分トシテ之レニ暇ヲ遣シタル場合ノミニ適用スルモノトス其法章及ヒ其理由ハ航海ノ差止ノ場合ノ如キ又海船ノ差押ノ如キ全ク他ノ原因ニ依リ且其暇ヲ遣ハスノ處分乗組人一般ニ適用ス可キ場合ニハ適用セズ(第千百八十號參看)尤此場合



ニ於テハ航海ノ差止ノ一船長ノ所爲ニ歸スベカラサルモノト思料セサルヲ得ズ何トナレハ若シ前ノ如ク思料ス可ラサルキハ船長ハ反テ償金ヲ拂ハザルヲ得ズ

第六卷「シヤルト、バルチー」海船賃借書「アフレットマン」海船賃借契約又ハ「ノリヌマン」譯同上

(第千二百三十二號) 海船賃借契約ハ此卷及ヒ以下二卷ノ説ク所ノモノナリ大洋ノ諸港ニ在リテハ其契約ヲ「アフレットマン」ト云ヒ地中海ノ諸港ニ在リテハ之ヲ「ハリスマン」ト云フ

抑々海船賃借契約トハ海船ノ所有者又ハ船長之レニ代リテ常コハ此港ヨリ彼港へ商品ヲ運送スル爲メ海船ノ全部又ハ一部ヲ賃借スル所ノ契約ナリ又其他ノ目的ニテ海船ヲ賃借スルコトヲ得例ヘハ學術上メ海船ヲ「フレター」スルコトメ航行ノ爲メ又ハ漁業ノ爲ト即チ賃借スルコトナリ ○海船所有者即チ海船ノ賃借主ヲ「フレット

ハ」ト云フ又運送ヲナサシム所ノ商人ヲ「アフレットール」ト云フ是レ即チ後ニ積荷主トナル所ノモノナリ

此契約ハ海上運送ノ擔任スルノ約束ヲ含ムト多シ純粹ノ海上運送ノ契約ハ陸上運送ノ契約ニ比ス可キモノコシテ船長ニ荷物ヲ引渡シ之ヲ船舶ニ積入レタル時即チ積荷ノ時ニ於テ完成スルモノトス其積荷ノコトヲ證スル書付ヲ「コンテスマン」即チ積荷目録ト云フ是レ陸上運送ノ場合ニ於ケル送り狀ニ相當ルモノナリ此積荷ノ時ヨリシテ海船賃借主及ヒ海船ハ自身ニテ積荷ノ監守ト運送トヲ負擔シ抗拒ス可カラサルカヨリ他ノ事項ニ依リ來タシタル積荷ノ消失及ヒ海上損失ニ付責ヲ負フナリ ○以上説キタル所ニ依ルキハ結約者ノ位地ニ於テ全ク相異ナル二個ノ段落アリ之レヲ明確ニスル爲メ區別シテ各段落ニ付講述ス可シ



商法典ニ於テ余輩ノ説カントスル所ノモノヲ第六卷第七卷及ヒ第八卷ニ分ツト雖其順序論理法ニ適セス余輩ハ論理法ニ適シタル真正ノ順序ヲ定ムル爲メ可成商法典ニ依ラスシテ第六卷ニ於テ純粹ノ海船貸借契約○第七卷ニ於テ積荷目録ト共ニ積荷ノヲ及ヒ船長ニ命シタル義務○第八卷ニ於テ海船ノ所有者ト積荷主トノ義務及ヒ將來ノ諸出來事ニ依リ其義務ノ變更ヲ講述セシ

本卷於テハ余輩ハ二箇ノ事ヲ論セン第一ニ海船貸借契約ノ體式第二ニ其契約ニ付キ生スル結約者雙方ノ義務是レナリ

第一章 海船貸借契約ノ體式

第二百七十三條第一項 船。舶。ノ。賃。借。ニ。付。テ。ノ。總。テ。ノ。契。約。ニ。シ。テ。シ。ヤ。ルト。バ。ル。チ。又。ハ。ア。レ。ット。マ。ン。又。ハ。ノ。リ。ス。マ。ン。ト。稱。ス。ル。モ。ノ。ハ。書。付。テ。以。テ。之。ヲ。認。ム。ル。ヲ。要。ス。可。シ。

(第千二百三十三號) 此定規ハ王令ニ於テ既ニ存セリ(第三編第一卷第

一條)此定規ハ海船貸借契約ノ成立ノ爲メニ非ス唯其證據ノ爲メニ証書ヲ要シタル者ト解釋ヲナサ、ルヲ得ス即チ本條ハ夫ノ王令ノ如ク百五十「フランク」以上ハ證人ノ証ヲ禁スルヲ目的トナス「ウブレン」氏ハ此事ニ關スル王令ノ條ヲ此ノ如ク解釋セシナリ又參議院ニ於テ商法典討議ノ際本條ヲ解スル亦「ウブレン」氏ノ説ニ同シ○故ニ是レ商事ノ普通法ノ例外タリ商事ニ關シテハ證人ノ證ハ常ニ之ヲ許ス(第百九條)且是レ民法典ノ普通法ヲ用ヰタルナリ(第千三百四十一條)以上ニ依ルルハ該契約ハ証人ノ証ヨリ他ノ証即チ自白、誓、往復書狀、船長ノ手署シタル勘定目録、船内簿「マニヘスト」ニ依リテ證スルヲ得(且殊ニ積荷目録ニ依リ証スルヲ得而シテ此證ヲ以テ甚ク確實ナリトス蓋シ積荷目録ハ海船貸借契約ノ第二段落ト其一部ノ執行トヲ證スルヲ以テナ



リ實際ニ於テ最モ少量ノ積荷ニ付テハ前以テ別段海船賃貸借契約書ヲ認メス積荷目錄ヲ以テ足レリトス而シテ第二百八十六條ハ海船賃貸料ハ海船賃貸借契約書又ハ積荷目錄ヲ以テ證スルヲ得可シト云フヲ以テ見レハ右ノ慣習ヲ認メタルモノ、如シシヤルト、ハルチー」トハ一ニ海船賃貸借契約ヲ證スル證書ナリ往々此語ヲ以テ其契約ヲ指言ス本條第一項ニ於ケルカ如シ是レ不可ナリ○古昔ハ海船賃貸借契約ヲ一通ノ證書ニ認メテ其紙即チ「シヤルト」(證書)ヲ半切シテ以テ各雙方ノ者之レテ有スルノ慣習ナリキ是レ「シヤルト」ハルチー」ノ語ノ起縁ナリトス而シテ其半切シタル一部ハ他ノ一部ト相照シ全ク符合スルニ非サレハ効ナシ故ニ前ノ如ク半切シテ以テ偽證書ノナキヲ豫防シタルナリ然レモ此方法ハ一害アリキ即チ爭ノ生シタル場合ニ於テ其結約者ノ一方ノ者己レノ有スル證書ノ半切紙

ヲ差出スヲ拒ミテ以テ其相手方ノ手ニ在ル證書ノ半切紙ヲ無用ニ屬セシメタリ是故ニ古昔ノ法ニ於テモ此ノ慣習ヲ廢シ本書ヲ二通ニ認ムルノ法ヲ取リタリ○現今ニ於テハ海船賃貸借契約書ハ必ス二通ニ認ム可キモノトス(民法典第千三百五十五條)何トナレハ第二百七十五條第一項ノ精神ハ證據ノ事ニ付テハ民法ノ定規ニ據ルニ在レバナリ

海船賃貸借證書ニ記載ス可キ件々

第二百七十三條第二項及ヒ以下○其證書ニハ左件ヲ記ス可シ

- 海船ノ名及ヒ噸數
- 船長ノ姓名
- 海船賃貸主ノ姓名及ヒ海船賃借主ノ姓名
- 荷積ノ場所及ヒ時日並ニ荷卸ノ場所及ヒ時日



「ノ」又「ハ」フ「レ」ト「海船賃借料」ノ代價  
海船賃借ノ全部ナルカ又ハ一部分ナルカノ「  
廷着」ノ場合ニ約定サレタル償金

（第一千二百三十四號）此記載ノ法ハ之ヲ論スレバ左ノ四項ニ關ス結約  
者雙方ノ姓名、賃貸シタル物件、賃貸契約執行ノ諸要件是レナリ  
第一結約者雙方ノ姓名○海船賃貸主ト海船賃借主トノ姓名ハ必ス記  
載ス可キモノニシテ緊要ノモノトス船長ノ姓名ヲ記スハ海船賃借主  
ニ付テノミ緊要ナリトス何トナレハ若シ其姓名ヲ知ルルハ其信任如  
何ヲ知ル「ト」得レバナリ然レモ此記載ハ海船賃借主ニ對シテハ既得  
ノ權トナリ海船ノ所有者ヲシテ第二百十八條ニ許ス特權ニシテ第二  
百七十三條ニ於テモ許ス所ノモノヲ行ハザラシム「ト」能ハザルナリ  
（第一千二百三十五號）第二賃貸シタル物件○此物件ハ即チ海船ナリ（第

一附言參看）其海船ニ付テハ其名號ト噸數トヲ記ス是レ其二者相待テ  
海船ハ其海船ニ相違ナキ「ト」示スニ足レリトス何トナレバ二個ノ海  
船ニシテ同時ニ同名號ニシテ同噸數ノモノアラザルナリ○又海船ノ  
賃貸借ハ其全部ナルカ又一部分ナルカヲ記スルヲ要ス蓋シ艤裝ノ有無  
ヲ問ハス海船ヲ全部賃貸借スル「ト」アリ又ハ其一部ヲ賃貸借スル「ト」ア  
リ又或ハ單ニ大サ幾千ノ商品即チ「メ」ートル立方積ノ商品ヲ積入ル、「ト」チ約スル「ト」  
「ト」トル四十四サンチム立方ノ噸數ノ商品ヲ積入ル、「ト」チ約スル「ト」  
アリ又目方ヲ以テ計リテ幾千ノ商品ヲ積入ル、「ト」チ約スル「ト」アリ其  
目方トハ千キログラム「ト」チ以テ一噸ナリトス即チ「ケ」ン「タ」ール「メ」トリ  
クニテ五十キログラム「ト」ナリト「フ」又船賃賃借ノ噸ト云フモノアリ是  
レハ商品ノ種類ニ依リテ異ナリ千八百六十一年八月二十五日ノ勅令  
ニ於テ之ヲ詳定ス（以上第四百七十六號參看○第二附言）



(第一附言) 此記載ハ實ニ緊要ナリトス若シ之ヲ記載セザルハ其契約ヲ以テ海船ノ貸借契約トナサ、ルナリ「バルドシユ」氏第七百九〇「ブレ」バチ「氏」第二冊第二百七十五丁〇「ベグリー」氏第六百四十八〇「アロゼ」氏第八百三十五ヲ參看ス可シ然レ凡積入ル、海船ヲ示サスシテ若干ノ荷物ヲ或港ニ運送スルヲ約束スルコトアリ是場合ニ於テハ此契約ハ海航貸借契約ニアラスシテ一種特別ノ契約ナリトス而シテ若シ荷物運送ノコトナル契約ニシテ其海船ヲ示記セザルモノハ前ノ意義ニ解釋スルコトアリ又是レノミナラズ此ノ如ク解釋セザルヲ得ストス(民法典第一千五百五十七條參看)

(第二附言) 此勅令ニ於テ海船貸借上ノ噸數ヲ詳定シタルハ一千八百六十一年七月三日ノ法令ヲ執行スル爲メナリ是レ其題目

ニ記スル所ナリ故ニ私ノ契約上ニテハ法律ノ効力ナシト雖モ人民ノ心世上ニ於テ大効力アルナリ而シテ千八百六十六年六月十三日ノ法令ヲ以テ其勅令ニ海上ノ噸ノコトニ付キナス所ノ賣買上ニテ法律ノ効力ヲ付與シタル以來ハ海船貸借上ニ於テ此効力ナシトスルヲ得ズ慣習ハ一般ニ之ヲ用ヰサルモノナシ

第一千二百三十六號 第三貸借

第二百八十六條第一項第二項第三項、海船又ハ其他海上ノ船舶ノ貸借ノ代料ヲ名ケテ「フレイ」又ハ「フレ」ト云フ

其代料ハ結約者雙方ノ契約ヲ以テ之ヲ定ム  
其代料ハ海船貸借書又ハ積荷目錄ヲ以テ之ヲ証明ス

「フレイ」ナル語ハ或ハ積荷ヲ指シテ云フコトアリ例ハ船長ハ某港ニ於テ「フレイ」ヲ得ヘト云フカ如ク



「フレ」ハ海船賃貸借書ノナキハ積荷目録ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得  
 若シ又積荷目録ノナキハ慣習ニ依リテ之ヲ定ムルナリ「フレ」ノ  
 ナ定メサルニ依リテ其契約ノ無効トハナラサルナリ（或ハ「フレ」ナシ  
 ル「アリ」是レハ荷物上海船賃貸主ノ特權ヲ避ケテ以テ積荷目録ノ取  
 引ヲ容易ニスル爲メナリ）結約者雙方ノ間ニ「フレ」ヲ拂フコトハ妨  
 ケナキトナリ（ベズリド）氏  
 第七百二十一見合ス可キ  
 第二百八十六條第四項 其代料ハ船舶ノ全部又ハ一部ニ付之ヲ定メ  
 又ハ全航海ニ付或ハ定限ノ時間ニ付之ヲ定メ又ハ噸數又ハケンタ  
 ール又ハ請負又ハ「キユエイト」ニ付定ムルヲ得其何レノ場合ニ問  
 ハス海船ノ噸數ヲ示ス可キ

「フレ」ノ定方ハ一般ニハ海船賃貸借契約ヲナスノ方法ニ依リテ異ナ  
 ルモノトス「第一海船賃貸借契約」ノ繼續時間ニ依リテ之ヲ定ム○例ハ  
 ハ海船賃貸借契約ヲ一航海又ハ月定メニテ之ヲ爲ス「アリ」此場合ニ

於テハ其賃貸借料ハ一航海ニ付幾干又ハ一ヶ月ニ付幾干ト定ム然レ  
 凡確定ノ一航海ニ付テノ船賃貸借契約ヲナスノ場合ニハ其賃貸借料  
 ハ月ニ幾干ト定ムル「アリ」又月ニ幾干トシテ船賃貸借料ヲ定メタル  
 片ハ其月ニ入ル片ハ其賃貸借料ノ全額ヲ拂フ可キモノトス月定メノ  
 船賃貸借料ヲ拂フ可キノ起算ノ期日ハ第二百七十五條ニ於テ定ム即  
 チ左ノ如シ

第二百七十五條 若シ海船ヲ月定メニテ賃貸シテ反對ノ契約ヲナ  
 ル片ハ「フレ」ハ海船ノ出帆シタル日ヨリ拂フ可キモノトス

夫レ積荷ヲ爲スニ付要スル時間ヲ「スタリ」トシテ計算外トス  
 時宜ニ依リテ之ヲ「ユレスタリ」トシテ（解後ニ）其時間ニ付償ヲ拂フ「アリ」  
 （後千二百三十八參照）又抗拒ス可カラサル力ノ爲メ出帆ヲ遅延シタル  
 ハ其損失ハ海船ノ負擔ス可キモノトス（後第千二百六十號及ヒ第二百



七十七條○第二賃貸シタル容積ノ廣狹ニ依リテ之ヲ定ム○若シ海船ニ全部又ハ一部ニ付賃貸シタルキハ其賃貸借料ハトノドシヨシニ付幾干ト定ムヲ常トス又之レヲ「ホールヘー」請負ニテ定ムルルニアリ○若シ商品ノ或分量ヲ積載スルトテ約定シタルキハ積載ス可キ分量ヲ定ムル所ノ基數ハ其賃貸借料ヲ定ムルニ付テノ基數トナル可シ故ニ例ヘハ「ハーブル」ニ於テハ海船賃貸料ヲメートル立方ノ積即チ七百キログラムノ目方(商品ノ「メートル」立方ノ平均ノ目方)ニ依リテ定ム「ボルドー」ニ於テハ「メートル」四十四センチムノ立方積即チ千「キログラム」ノ目方ニ依リテ定ム又商品ノ或分量ニ付請負ニテ其賃貸料ヲ定ムルトテ得可シ○第三「キユエイト」即チ船長或期限内ニ積荷ヲ全ク積ミタルキハ出帆スルノ約ニテ海船ヲ賃借タルキハ契約ノ未必ノ條件ニ依リテ之レヲ定ム(後第一千二百三十八號)

(第一千二百三十七號) 艙裝者ノ収ム可キ船賃貸借料ノ外ニ船長ニ積荷ニ對シ盡ス所ノ勞ニ報ユル爲メ或ハ金額ヲ拂フテ往々之レアリ之ヲ古昔ニ於テハ船長ノ「シヤッポ」帽又其「カフ」上衣又其「ヨース」衣類ノ一部又其「フベン」(酒)又其「ボードウエン」(金又ハ土ノ入物)ト云フタリ是レ猶ホ今日ニ行ハルハナリ之ヲ「ドロワ、ド、シヤッポ」ト云フ而シテ今日往々船賃貸借料ヲ一噸ニ付幾干ト定メ且「アバリー」(附言第一)ニ付百分ノ十又「シヤッポ」ニ付テハ百分ノ十ヲ受ケンコトヲ定ム○「ドロワ、ド、シヤッポ」ヲ受クル者ハ誰レナルトテ海船賃貸借契約中ニモ又船長雇入ノ契約中ニモ定メザルキハ誰レカ之ヲ受クル乎商法典ノ以前ニ於テ此疑問ニ付議論紛々ナリキ余輩ハ此税金ハ船長ニ屬ス可キモノト思考ス是レ其名ト其起録トニ依リテ然ラサルヲ得ズ或ハ曰ク艙船者此金ヲ得サルキハ海船賃借料最モ高額タル可シト之ニ答ヘテ云フ若シ船長



其金ヲ得サルトスルキハ艤船者ニ對シ最モ高額ノ給料ヲ受ケンヲ求ム可シト○今日ニ於テ往々海船賃貸借ノ外ニ百ニ付幾下ノ「ブリーマ」  
「ジュエ」ノ税金ヲ受ケンヲ求ムナリ是レ海船賃貸主ノ受ク可キモノニシテ船長ノ受ク可キモノニ非ストス

(附言第一) 此「アバリー」ノ語ハ此ニ於テハ海船が出港スル爲メ拂フ

可キ二三ノ税ニ付古昔商品ノ持主カ負フ可キ割前高ノ見圖契約ヲ指示ス余輩ハ「アバリー」ノ本義及ヒ其諸意義ハ第千二百六十九號ニ於テ解ク可シ「フレムリー」氏商法論第百九十八丁第百九十九

丁)

(第千二百三十八號) 第四海船賃貸借契約ノ執行ノ諸條件

此條件中ニ先ツ船賃貸借契約ノ繼續時間ヲ算入セザルヲ得ズ夫レ海船ハ往路又ハ復路ノ航海又ハ往復路共ノ航海又ハ諸々ノ港ニ立寄ル

ノ義務又ハ權利アルノ航海ニ付賃貸借スルヲアリ 若シ海船ヲ全部賃

航海ノ場合ヲ以テ常トス○「ア」又月定メニテ賃貸借スルヲアリ是レ常

ロセ「氏」第千八百七十八見合」ニ沿海航ニ用キル海船ノ全部又ハ彼港ト此港トノ間ニ定メタル航海

ニ用キル海船ノ全部ヲ賃貸借スル場合ニ於テ行ハル、所トス

又純粹ノ未必ノ條件ヲ以テ海船賃貸借契約ヲナスヲアリ是レ「キ」コエ

「イト」ニテ海船ヲ賃貸借スル場合行ハル、ナリ即チ斯ノ如キ場合ニ

於テハ船長ハ積荷ヲ全ク充タシ得ルキニ或荷物ヲ積入ル、トノ義務

ヲ負フナリ○此場合ニハ其未必ノ條件ヲ執行スルニ付必ス限期ヲ定

ムルヲ要ス何トナレハ結約者ハ何時ニテモ未定ニ在ルヲ能ハサレハ

ナリ若シ其雙方ノ者其期限ヲ指定セザルキハ裁判所之レニ代リテ情

狀ト慣習トニ依リ之ヲ定ムルヲアリ○慣習ニ於テハ船長ハ其義務ヲ

盡スニハ積荷ノ四分ノ三ヲ充タシ得ルヲ以テ足レリトス又積荷ヲ爲



シ且荷卸チナス場所チ契約又ハ慣習ニテ定ムルヲ要ス

(第千二百三十九號) 前項ノ他ニ又ハ契約又ハ慣習ニ定メサルヲ得サルヲアリ即チ積荷チナシ又ハ荷卸チナス時日は是レナリ

第二百七十四條 若シ海船ノ積荷又ハ荷卸ノ時日結約者雙方ノ約束ニ於テ定メラザルハ土地ノ習慣ニ依リテ規定セラル可シ

此期限ハ即チ「ス」又ハ「シウール、ド、ブ」下云フ所ノモノナリ

○此期限ハ遠路ノ航海又ハ沿海大航ニ付テハ十五日ニシテ沿海小航ニ付テハ三日ナリト云フ此期限内ニハ祭日モ含入スルモノトス○船

長ノ過失ニテ以上ノ期限外ニ時日ヲ費スルハ其増加シタル時日ヲ名ケテ「シユレスタリー」ト云フ其遅延シタル日毎ニ付テ拂フ可キ償金ノ

高ハ約束ニ依リテ確定セサルヲ得ス(第二百七十三條及ヒ民法典第千五百五十二條參看)若シ契約ニ於テ其定メナキハ習慣ニ依リ裁判所其

額ヲ規定ス(民法典第千五百五十一條比較)償金ヲ定ムルキ同時ニ「シユレスタリー」ノ時間ノ最長ノ點ヲ定ムルヲ屢々ナリ一度此期限ヲ經過スルキハ船長ハ出帆スルノ權利ヲ有シ而シテ船賃ノ全額ヲ其船長ニ拂ハザルヲ得ズ其之ヲ拂フハ積荷ノ未タ終ラサルト否トノ如何ヲ問ハサルナリ若シ船長ニシテ猶縁スルヲ承諾スルキハ之レニ拂フ可キ償金ハ前ノ基礎ヨリ他ノ基礎ニ從フテ之ヲ定ムルナリ(此場合ニ於テ「シユレスタリー」ノ外ニ其四分ノ一ヲ拂フヲ多ニ居ル)是レ之ヲ「コントル、シユレスタリー」ト云フ

附○錄

(第千二百四十號) (論題) 若シ賃借リシタル海船賣拂ハレタルキハ其買主ハ前所有者ノ爲シタル契約ヲ執行セサルヲ得サル乎他ノ言ヲ以テ云ヘバ民法典第千七百四十三條ハ海船ノ賃借契約ニ適用ス



余輩ハ適用セサルモノトシ其疑問ヲ否決ス夫レ第千七百四十三條ハ例外ニ屬スル條ニシテ家屋及ヒ土地ノ貸貸借契約ニ適用ス可キ諸規則ト題スル項目ノ中ニアリ故ニ不動産ノミニ適用スル所ノ條ニシテ「デイズト」仲買主ニ關スル所ノ法中ヨリ出デタルモノニシテ之ヲ保護スルノ一部ヲ取リクルナリ其法ニ於テハ農人ノ「ミ」ヲ定ム其理由ハ農人ヲ保護スルコアリト雖モ船舶ニハ其理由ヲ適用セス我カ立法者ノ一人タリトモ第千七百四十三條ヲ起章スルハ船舶ノ貸貸借契約ノ「ミ」ヲ考ヘタルモノナキハ甚タ明白ナル「ミ」ナリトス

## 第二章 海船貸借契約ヨリ生スル諸義務

(第千二百四十一號) 海船貸借契約ヲナシタル結約者雙方ノ直接ニシテ直ニ生スル義務ハ左ノ如シ即チ海船貸借主ニ就テハ指定シタル

航海ノ爲メ約定シタル方法ヲ以テ荷積ヲナサシムル爲メ契約ニ於テ定メタル場所ト時間ニ船舶ヲ海船貸借主ノ使用スル様ニナスノ義務アリ○海船貸借主ニ就テハ右述ヘタル契約ノ條件ニ從フテ荷積ヲナスノ義務アリ

且其結約者雙方ハ右第一ノ義務ヲ執行シタルキハ將來左ノ義務ヲ負フ可シ海船貸借主ハ船長ヲ以テ荷物ヲ監督セシメ且約定シタル航海ヲ終ラシムル「ミ」ノ義務アリ又海船貸借主ハ約定シタル期限ニ海船貸借料ヲ拂フノ義務アリトス○此第二ノ義務ハ荷積ヲナサ、ル限り取生セサルモノニシテ全ク未必ノモノナリ且此義務ハ其雙方ノ者ニ以リテハ人意ニ管スル未必ノ條件ニ關スルモノナリ何トナレバ荷積ヲ爲サズ又ハ受取ラズシテ其義務ヲ免カル「ミ」ヲ得可ケレバナリ但シ雙方ノモノ右ノ如ク其義務ヲ免カル「ミ」ヲ得可シト雖モ之ヲナス「ミ」全ク



自由ナリト云フ可カラズ何トアレバ若シ免カレントスルキハ民事上  
罰ヲ受ケサルヲ得ザレバナリ蓋シ第一ノ義務ニハ「サンクシヨン」アリ  
テ之ヲ避クルヲ得ズ此「サンクシヨン」ハ間接ニ第二ノ義務ノ「サンク  
シヨン」トナルナリ

海船賃借主ハ自己ノ積入ル可キ荷物ヲ船積スルヲ拒ムヲ得ズ若  
シ之ヲ拒ムキハ罰ヲ受ケザルヲ得サルナリ即チ

第二百八十八條第三項 然レモ若シ海船賃借主少シモ荷積ヲナサ  
シテ出帆前ニ其航海ヲ止メタルキハ其積入ル可キ積荷ノ全部ノ爲  
メ海船賃借借証書ニ於テ約サレタル海船賃借料ノ半額ヲ船長ニ償  
トシテ拂フ可シ

法律ハ右場合ニオイテ海船賃借主ノ受ク可キ償金ハ見積ヲ以テ豫定  
シタリ故ニ雙方ノ者ハ右ノ如ク義務ノ不執行ヨリ生シタル損害ハ海

船賃借料ノ半額ヨリ大ナルヲ得シテ證ニ過分ノ償金ヲ受クルヲ得ズ  
○若シ海船賃借主積入ル、ヲテ約シタル荷物ノ一部分ヲ積入レタル荷  
ハ其義務ノ「サンクシヨン」ハ約定シタル全部ノ荷物ニ付テノ海船賃借  
借料ヲ拂ハサルヲ得ザルニアリ然レモ此場合ト雖モ船長ハ海船賃借  
主ノ承諾ヲ得スシテ他ノ荷物ヲ空所ニ積入ル、ヲ得ズ若シ其承諾  
ヲ得テ積入レタルキハ海船賃借主ヨリ其受取ル所ノ海船賃借料ヲ  
海船賃借主ニ割戻サシムルヲ得ズ(第二百八十七條第二百八十八條第一  
項第二項第四項并ニ以下第八卷ヲ參看ス可シ)

又海船賃借主ハ海船賃借主ト同シク約定サレタル積荷ヲ受クルヲ得  
拒ムヲ得ズ若シ其之ヲ拒ミタルキハ契約ノ一般ノ原則ニ從ヒ(民法  
典第四百四十六條及ヒ以下)且第二百八十九條ニ從ヒ償金ヲ拂ハサル  
ヲ得ズ第二百八十九條ハ余輩ノ以下ニ於テ直ニ論スル如ク右契約ノ



一般ノ原則ヲ或特別ノ場合ニ適施ス右場合ニ於テハ初メノ如ク法律  
 ハ見積ヲ以テ償金ノ額ヲ豫定セス故ニ海船賃借主ノ受ク可キ償金ノ  
 額ハ裁判所之ヲ判定セサルヲ得ス○第二百八十九條及ヒ第二百九十  
 條ハ右一般ノ原則ヲ左ノ如キ特別ノ場合ニ適施ス即チ船長海船ノ全  
 部ヲ賃貸シ又ハ其一部分ヲ賃貸スルヲ約定シテ其容積ヲ實ヨリ大  
 ニ申述シタルトキハ其海船賃借主ハ自己ノ見込ヨリ荷物ヲ多ク積ム  
 ヲ得サルヲ以テ船長ニ對シテ償金ヲ得ルノ權アリ左ノ如シ

第二百八十九條 船長海船ノ容積ヲ實ヨリ大ニ申述シタルトキハ海船  
 賃借主ニ對シテ償金ヲ拂フ可キモノトス

第二百九十條 若シ其錯誤海船ノ噸數ノ四十分ノ一ヲ超過セザルト  
 又ハ其申述船積ノ保證狀ニ適合スルトキハ海船ノ噸數ノ申述ニ於テ  
 錯誤アリト看做サス

前條ニ云フ所ノ償金ハ海船賃貸主之ヲ負擔セサルヲ得ス海船賃貸主  
 ハ船長ノ媒介ヲ以テ海船賃借主ニ對シ其義務ヲ負フナリ且船長モ亦タ  
 償金ヲ拂フ可キモノトス何トナレバ海船ノ容積ノ高ヲ知ラス又ハ之  
 ナ實ニ過キテ陳シタルハ其過失ヲレバナリ○海船ノ賃貸借契約ハ公  
 認ノ船積ニ依リ常ニ爲スナリ而シテ其船積ハ船舶實際有スル所ノ船積  
 ヨリ常ニ少量ナリ(以上第一千百廿一號參看)實際ノ經驗ニ於テ公認ノ船  
 積ト實際ノ船積ト若干ノ差異アルカハ皆人ノ知ル所ナリ但シ船積量  
 定ノ方法ノ不備ナルヨリシテ些少ノ誤謬アルハ免カレサル所ナリ是  
 レ商法典ニ於テモ認ムル所ニシテ四十分ノ一以下ノ誤ヲ錯誤ナリト  
 看做サルハ其證ナリ然レモ若シテ錯誤四十分ノ一ヲ超過スルトキ  
 四十分ノ一以内ノ分ヲ併セテ全異算ノ高ニ付償金ヲ拂ハサルヲ得ズ  
 決シテ四十分ノ一以外ノ異算ノ高ニ付償金ヲ拂フニアラサルナリ且



若シ船長故意ヲ以テ偽陳述ヲナシタルキハ假令ヒ異算ノ高四十分ノ一ヨリ少異ナルキト雖モ船長ハ其責ニ任セサルヲ得サルナリ  
(第一千二百四十二號) (論題) 船長ハ海船賃借契約ニ於テ自身ニ義務ヲ負フ乎

若シ船長荷物ヲ船内ニ受取リタルキハ其荷物ノ監守ニ付自ラ責ヲ負フハ勿論ナリ(第二百二十二條)又積荷ヲ損害スル所ノ一切ノ事ヲ爲サハルノ義務アルハ論ヲ俟タサルナリ然レモ若シ海船ノ所有者積荷ヲ受クルコトヲ拒ミ且又約定サレタル航海ヲナスコトヲ拒ムキハ船長ハ其所有者ト共ニ海船賃借主ニ對シテ海船賃借契約ヲ執行セサルコトニ付テ責ヲ負ハサルヲ得サル乎如何○此問題ヲ解答スルニ二説アリ○  
第一説ニハ船長ハ其ニ責ヲ負フヘキモノトシ此問題ヲ可決ス其説ニ曰シ海船賃借契約ヲナシタル者ハ誰ソヤ海船ノ所有者ノ住地ヨリ

遠ク相去ルノ土地ニアリテハ船長ニアラスヤ又假令ヒ其住居ノ地ニアルキト雖モ其許可ヲ得テ海船ヲ賃借スルハ船長ナリ(第二百三十二條)故ニ船長ハ他人ノ爲メ自己ノ名ヲ以テ契約ヲ爲ス(コンミション)ナリ(即チ仲買人ノ如ク自ラ義務ヲ負フナリ)○「ボチエー」氏ソノ著書海上賃借契約論ニ於テ終始船長ヲ以テ船舶ノ主タル真正ノ賃借主トナシ「エキス、コンデユクト」ノ訴權(是レハ賃借主ノ賃借主)ヲ海船賃借主ニ與ヘ船長ニ對シテ之ヲ行フモノトナシ海船ノ所有主ニ對シテハ海船ノ賃借主ハ「エキセルミトリ」ノ訴權(是レハ賃借主ノ船長ニ代リテ賃借主ニ對シ有スル訴權)ヲ云フ)ノミナ行フコトヲ得可シトナスナリ(第四十八條及ヒ以下)且此點ニ付第四號ニ附シタル注意論ニ於テ明白ニ論辨ヲ與ヘタリ○商法典ハ「ボチエー」氏ノ前論ト同一ノ論ヲ取リタリ何トナレハ第八卷中ニ於テハ船長ヲ終始船舶ノ賃借主トシ其權利ノミナ記セハナリ若シ船長海



船賃貸借契約ニ因リテ生スル權利ヲ有スルナレハ亦タ必ス其義務ヲ負ハサルヲ得サルナリ而シテ其義務ニ付テハ第二百八十九條及ヒ第二百九十七條ニ於テ船長之ヲ負フ可キモノナルヲ明記ス○且第二百十六條第三項ニ於テ海船ノ所有者ニシテ共ニ船長ノ職ヲ執ルモノハ海船ト其賃貸料トヲ拋棄シテ約定シタル義務ヲ免カレ、ノ權アラサルモノトス然レハ是レニテ船長トシテハ自ラ義務ヲ負フヲ知ル可キナリ何トナレハ所有者トシテ何ニモ義務ヲ負ハサレハナリト(第二百十六條第一項)○第二說ニハ船長ハ共ニ義務ヲ負フヲナシトシソノ問題ヲ否決ス余輩ハ此說ヲ取ルナリ其說ニ曰ク船長ハ假令ヒ遠隔ノ地ニアリテ自己一人ニテ海船賃貸借契約ヲ取結フニモセヨ又假令ヒ海船ノ所有者ノ住地ニ於テ其許可ヲ得テソノ契約ヲナスニモセヨ契約ヲナス相手ノ者ハ船長ヲ以テ通常ノ代理人トナシ船長ハ自ラ代

理人ヲ以テ其相手ノ者ト接スルナリ其相手ノ者ハ船長ガ船長ノ分限ニテ應接ヲ爲スヲ以テ其船長自己ノ名前ニテハ海船ヲ隨意ニ處分スルノ權ナク其應接ヲナスハ他人ノ爲メコナスヲ知ルナリ故ニ其船長ニ信ヲ置キ之ヲ頼ミトナサザルナリ(以上第千百八十五號參看)○「ボチエー」氏ハ異說ヲ持スナリ反對論者ハ取テ以テ其論據トナスト雖モ是レ非ナリ氏ノ異說ヲ持スハ故アリテ然ルナリ氏ハ羅馬ノ法理即チ其毎項ニ引ク所ノ「エキセル」ノ訴權ノ原則ヲ信シ代理者ハ自ラ義務ヲ負ヒ其代理ヲ委任シタル者ヲシテ直接ニ義務ヲ負ハシメズトノ法規ヲ取り立論シタルカ然ラザレハ當時船長ハ海船ノ共有者ニシテ差金會社ノ支配人ノ如ク看做シタルノ事ヲ心ニ記シ以テ其說ヲ立テタルモノナラン(以上第千百八十六號參看)然ルニ此二箇ノ點即チ羅馬ノ法理ト當時ノ習ヒトハ今世法律學上ニ於テ全ク廢棄セラレ



之ヲ取ラサルニ至リタリ故ニ今日船長ニ代理ノ原則ニアラスシテ仲買ノ原則ヲ適用セントスルニハ法律上明文アルヲ要ス然レモ商法典中斯ノ如キノ明文ヲ見サルナリ○尤モ第八卷中ニハ殆ント各條毎ニ船長ノ權利訴權ノヲ記シアリト雖モ是レ全ク海船賃貸主ノ訴權ハ實際上常ニ船長代リテ行フヲ法律上認ムレバナリ○第二百八十九條第二百九十七條ハ第二百九十五條ノ如ク船長ニ義務ヲ負ハシム然レモソノ場合ニ於テハ船長ニ過失アレバナリ○第二百二十二條ハ船長ノ他人ニ對スル義務ノ原則ヲ明記スルノ條ナリト雖モ其託セラレタル荷物ニ付テノミ責ヲ負ハシムモノトス(王令第二編第一卷第九條ニハ託セラレタル荷物ト最モ明カニ記シアリ)故ニ船長ハ荷物ノ積入レナキ以上ハ義務ヲ負ハサルナリ○余輩ハ第二百十六條第三項ヲ説明スルキニソノ場合ニ於テ船長ハ海船ノ所有者トシテ義務ヲ負ヒ船

長ノ分限ハ只拒訴ノヲ避ケシメ其分限ナキモ拒訴ヲ受クルナリ(第千百九十號參看)第二百十六條ノ第三項ノ末段ニ於テハ海船ノ一部分ノ所有者ナルキハ其餘ノ部分ニ付テハ自ラ責ヲ負フヲナシト明記ス○且此條ヲ修正シタル千八百四十一年ノ法令ノ編纂錄ニ依ルキハ余輩ノ論旨ノ如ク明記アリ即チソノ第一項ノ原案ニ海船ノ所有者ハ船長ノ所爲及ヒソノ負フタル義務ニ付テハ民事上ノ責ヲ負フ可シトアリ司法卿「ベルミール」君ハ意見ヲ陳シテ曰ク海船ノ所有者ハ船長ノ負フタル義務ニ付テハ責ヲ負フノミナラス獨リ義務者タルナリ船長ハ宛モナキモノトナルナリト而シテ此意見ニ依リテ現今ノ法文ヲ取レリ故ニ其法文ハ其意見ヲ示スナリ

余輩ハ此論意ニ依リテ左ノ如ク論決シタリ即チ(第千百九十九號若シ海船ノ總テノ所有者海船賃貸借契約ヲ執行スルヲ拒ムト雖モ船長



ハ彼等ニ對シテツノ二三ノ抵抗ノ場合ニ第二百三十三條ノ許ス所ノ強迫ノ總テノ方法ヲ行フテ以テ彼等ヲ強テ其契約ヲ執行セシムルヲ得ズ是レナリ○又余輩ハ(第千九百九十四號)此論意ニ依リテ船長ハ商人ニアラズト論決シタリ  
但シ船長海船ノ所有者ノ爲メ自己ノ名前ヲ用キ又ハソノ保證人トナリテ仲買人トシテ他人ト契約ヲ取結ヒタル場合ハ前段ノ限ニアラス又荷物ヲ積入ル、トト其積荷目録ヲ渡スコトハ船長ノ地位ヲ全ク變更スルナリ

第七卷 積荷目録ノ事

(第千二百四十三號) 積荷ヲナシタルハソノ爲メ海船賃借契約ヨリ直ニ生シタル主タル義務消滅シ其契約ニ於テ未必ニ約定シタル諸義務生ズルナリ積荷ヲナシタルコトニ依リテ船長ニ付テ陸上運送ノ場

合ニ運送人ニ係リ存立スル所ノ義務ト同様ノ諸義務發生ス○積荷ノコトハ書面ヲ以テ證明ス之ヲ名ケテ「コンチースマン」譯シテ積荷目録ト云フナリ

第二百八十二條第二項 其四通ノ原書ニハ積荷主及ヒ船長積荷後二十四時間ニ手署ス可シ  
積荷主ハ同一ノ期限内ニ積入レタル荷物ノ税銀拂濟ノ證書ヲ船長ニ渡ス可シ

本條第一項ノ手署ハ各積荷主自己ニ關スル積荷ノ終リタルヨリ二十四時内ニ爲スモノニシテ海船全部ノ積荷ヲ終リタルヨリ二十四時内ニ爲スニアラサルナリ  
積荷目録ヲ記サバキ積荷ノコトヲ證スルニハ商法上用キル所ノ諸他ノ證據ニ依ルナリ且船内簿及ヒ「マニフェスト」解在上等ヲ用キルナリ何



トナレバ法律ハソノ證據ノコニ付テ一モ制限ヲ定メサレバナリ  
余輩ハ本卷ノ事項ヲ三箇ニ分チテ説カントス即チ第一積荷目録ノ法  
式○第二積荷目録ノ効○第三積入レタル荷物ニ關シ船長ノ義務并ニ  
權力ノ三事項是レナリ

第一章 積荷目録ノ法式

(第千二百四十四號)ノ第二百八十一條 積荷目録ニハ運送ス可キ物件  
ノ性質及ヒ分量ト種類又ハ品等トヲ記ス可シ又其目録ニハ左件ヲ  
記ス可シ

- 積荷主ノ氏名
- 品物ヲ受取ル可キ者ノ氏名及ヒ住所
- 船長ノ氏名及ヒ住所
- 海船ノ名前及ヒ噸數

出帆ノ地及ヒ指定地ノ名

又其目録ニハ海船賃貸借料ノ價額ヲ示記ス可シ

又其目録ニハ欄外ニ於テ運送ス可キ物件ノ附標ト番號トヲ記ス可シ

シ

積荷目録ハ差圖附又ハ持主又ハ記名ノ式ニ認ムルコトヲ得

積荷目録ハ多シハ其書式ヲ豫メ活版摺ニナシテ文言ヲ空白ノ所ニ填

シテ認ムルナリ

積荷目録ノ記載ノ件ハ陸上運送ノ場合ニ於テ用ヰル送狀ノ記載ノ件  
ト略ホ相同シ(第五百三十九號參看)右記載ノ件ハ海船賃貸契約書ノ記  
載ノ件ト符合ス即チ積荷目録ハソノ契約書ト一體ヲ爲スモノナリ  
余輩ハ只々左ノコトヲ讀者ニ注意セシメテ些少ノ差異ヲ示ス可シ即チ  
右記載ノ件ハ積荷目録中ニ記スコト欠ク其目録ハ無効トハナラサ



ルナリ是レ送狀ニ於テモ同様ナリ且幾部分カ不充分ナル積荷目録ト雖モ雙方ノ者ノ間ニ於テハ其證ス可キコトニ付テハ證據トナルナリ雙方ノ者ハ名前ノ語中ニハ品物ヲ受取ル可キ者ノ名前ヲ加フ可シ是レハ積荷目録ノ場合ニハ必要ナリト雖モ海船賃借契約書ノ場合ニ於テハ不要ナリ此名前ハ差圖附ノ積荷目録中ニハ記セスシテ第一ノ裏書中ノミニ之レヲ記スコトヲ得持主即チ無記名ノ積荷目録中ニハ多クハソノ名前ヲ記スコト不要トナスナリ○夫レ積荷目録ハ其性質ニ於テ他人ニ讓與スルヲ得可キモノナリ若シ積荷目録、記名ニテ認メラレタルキハ民事上ノ方法ヲ以テ讓與スルコトヲ得若シ差圖附ナルキハ裏書ヲ以テ讓與スルコトヲ得若シ無記名ナルキハ手渡ノミヲ以テ所有權ヲ他ニ移轉スルコトヲ得ルナリスノ如ク讓與ヲナシ得ルハ實ニ輕便ナルヲ以テ荷物ノ買主ヲ求ムルコト容易ナリ故ニ荷物受取主又ハ委託販

賣ノ任ヲ受ケタル者其荷物ヲ好機會ヲ得テ賣ル爲メ又ハ四方ノ諸相場等凡テ參考ノ事件ヲ求ムル爲メ荷物ヲ永ク所持シ得ルノ利アリ運送ス可キ品物ニ就テハ積荷目録ノ場合ニハ最モ明確ニ其品柄等ヲ確定スルヲ得即チ法律ハ品物ノ符標、番號、性質、分量、種類品等ヲ記ス可シトス包裝セラレ又ハ荷作セラレタル品物ニ付テハ風袋ヲ除キ其中ノ正品物ノ分量ヲ示スコ及バザルナリ若シ荷物ノ數ヲ示スルハ相違ナキニ足ルニ於テハ分量ハ存セストノコトヲ明記スルコトヲ得○品物ノ品等ニ付テハ船長ハ明記アルモノヨリ下等ノ品等ナルヤ否ヤ又ハ無實ナルヤ否ヤノコトヲ保證シ又示記スルノ義務ナシト數度判定セラレタリ實ニ理アリトス品等ノ等級ニ於ケルモ亦タ同様ナリ尤モ船長ハ品物ノ外形ニ顯ハル、所ノ大概ノ品等ヲ證明スルコトヲ得然レモ其偽詐變造ノコトハ保證セザルナリ但包裝開キテ品物ノ露出スル場合ハ此



限ニアラザルナリ船長ハ多クハ認知ナク又ハ如何ニアルトモノ語ヲ  
記シテ凡テ擔保ノ義務ヲ免カル、ナリ

(第一千二百四十五號) 第二百八十二條第一項 各積荷目錄ハ之ヲ少クモ

四通ニ記ス可シ

- 一、通ハ積荷主ハ爲メ
- 一、通ハ荷物ヲ差送ラレタル者ハ爲メ
- 一、通ハ船長ハ爲メ
- 一、通ハ船舶ノ艤裝者ハ爲メ

積荷目錄ノ一通ヲ艤裝者ニ渡ス、ハ商法典ニ於テ新定シタルナリ此  
積荷目錄ハ船長ノ所爲ヲ監督シ偽詐變造ノ積荷目錄ヲ防ギ船舶ノ遠  
隔ノ地ニアルノ時又ハ消滅シタル時訴訟ヲ起シ又ハ訟ヘラレタル時  
自ラ辨護スル爲メ艤裝者ニ於テ要スルモノトス。○積荷主ノ爲メ一通

ヲ要スルハ荷物ヲ差送ラレタル者ニ送リタル積荷目錄ノ本書ヲ取寄  
スルヲナク必要ノ場合ニ艤船者ニ對シテ出帆ノ土地ニ於テ訴訟ヲ起  
シ又ハ掛合事ヲナス時ニ用ユル爲メナリ。○船長及ヒ荷物ヲ差送ラレ  
タル者ノ爲メニ各一通ヲ要スルノ理由ハ解スルヲ容易ナリ宛モ送狀  
ノ二通ト同シキ用ヲ爲スモノナリ(第五百四號參看)余輩ハ後ニ之ヲ再  
論スルヲアル可シ

本條ニ依ルルハ四通ヨリ許多ニ作ルヲ得ルナリ其餘分ノモノハ爲  
替手形ヲ數通ニ作ルト同様ノ用ヲ爲スモノニシテ途中紛失ノ險ヲ避  
クル爲メ荷物受取主ニ運送ノ各種ノ方法ヲ以テ幾枚ヲモ送達スルヲ  
アルナリ但シ其積荷目錄賣買スルヲ得ルルキハ數人ニ賣渡ス、トナキ  
様ニ用心ヲ爲ス可シ

右ノ弊ヲ防ク爲メ各通ニ幾通認メタルヤソノ總數ヲ記スヲ以テ可ト



ス然レモ是レハ法律ノ命スル所ニアラス之ヲ記サマルモ無効トハナ  
ラザルナリ何トナレハ第二百八十一條第二百八十二條ハ民法第典千  
三百二十五條ノ命定スル如ク命定セザレバナリ而シテ立法者ハ此ノ  
所ニテハ認方ヲ定メ之レニ背クヲナキニ於テハツノ積荷目録ハ完全  
ナリトナシタリ(第二百八十三條參看ス可シ)

積荷目録ノ印税ノ事

(第千二百四十六號) 積荷目録ニハ四通ニ作ルト是レヨリ餘計ニ作ル  
トヲ問ハズソノ各通ニ五十「サンチーム」ヲ加ヘ「」ノ印税ヲ拂ハ  
ザルヲ得ズ(千八百七十二年三月三十日法令第三條)而シテ此印ハ船長  
ニ與フル所ノ積荷目録ノ本書ニ皆ナ押ス船内備フ所ノ書類ヲ點檢ス  
ル所ノ官吏違則ノ罪ヲ容易ニ證明スルヲ得可キ爲メナリ故コソノ  
本書ハ少ナクモニ「フランク」ノ印ヲ押スソノ他ノ本書ハ無賃ニテ印ヲ

押スナリ此押印ノ税ハ「テンブル、モビール」(是レハ我國ノ印紙ノ如シ)ヲ  
貼シテ以テ拂フナリ(千八百七十二年三月三十日法令第五條及ヒ千八  
百七十二年五月二十五日法令第四條)違則ノ罪ハ四人ノ各關係者ニ五  
十「フランク」ノ罰金ヲ科シテ罰スルナリ(千八百七十二年三月三十日法  
令第六條)

第二章 積荷目録ノ効果

(第千二百四十七號) 積荷目録ハ先ツ證據ノ用ヲナスナリ

第○二○百○八○十○三○條 前○ニ○定○メ○タル○法○式○ニ○認○メ○ラ○レ○タル○積○荷○目○録○ハ○積○荷  
ニ○關○係○アル○總○テ○ノ○者○ノ○間○ニ○於○テ○確○證○ナ○リ○ト○シ○又○其○者○ト○保○險○者○ト○ノ  
間○ニ○於○テ○確○證○ナ○リ○ト○ス

本條ニ於テ最モ注意ス可キハ積荷目録ハ之ニ手署ヲナサ、ル者ニ對  
シテ證據トナル是レナリ船長ニ依リテ代理サレタル積荷主及ヒ送運



者ニ依リテ代理サレタル荷物受取主ニ對シテ證トナルノミナラズ何人ニ依リテモ代理セラレサル所ノ保險者ニ對シテモ證據トナルナリ其他如何ナル他人ニ對シテモ前ト同様ニ證據トナルモノナリト云ハサルヲ得ズ何トナレバ保險者ニ付テ前ニ云フ所ノ規則ハ他人ニ關スル規則ニシテ習慣トシテ久シク行ハレタル所ノ一般規則ノ適施ニ過キサレバナリ但シ保險者及ヒ其他ノ者(チエール)ハ反對ノ證ヲ立ツルヲ得然レバ積荷目錄ノ保險者及ヒ其他ノ者ニ對シテ證トナルコハソノ積荷目錄全ク規則ニ適フテ認メラレタルヲ要ス殊ニ雙方ノ者ヨリ手署セラレタルヲ要ス可シ(第二百八十四條)是レ本條(第二百八十三條)ニ定ムル處ナリ

前ニ反シテ積荷目錄ニ手署ヲナシタル者又ハ其手署者ノ代理スル所ノ者ノ間ニ於テハ假令ヒ不完全ナル積荷目錄ト雖モソノ證トナル可

キ事件ニ就テハ證據トナルナリ第二百八十四條ハ此意ニ基キ定メタルナリ即チ

第二百八十四條 同一ノ積荷ノ數通ノ積荷目錄互ニ相違スル場合ニ於テハ船長ノ手ニ存スルモノ積荷主又ハ其仲買人(コンシヨントール)ノ手署セラレタルモノハ確證ナリトス又積荷主若クハ販賣被依托者(コンシギマテール)ヨリ差出サレタルモノ船長ノ手署セラレタルモノハ之ニ從フ可シ

是レ證據又ハ自白ノコトニ付テノ一般ナル規則ノ適施ナリトス若シ積荷目錄ノ二通第二百八十四條ニ定ムル條件ヲ具備シテ互ニ相違スルキハ其効力相消滅スルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ他ノ證據ヲ以テ證明ヲ爲スヲ要ス

(第千二百四十八號) 積荷目錄ハ第二ニハ荷物ヲ受取ルノ權利ヲ証ス



ルノ書付トナルナリ此荷物ハ積荷目録ニ於テ指定ノ受取人又ハ其積荷目録ヲ正當ニ引受ケタル其代權人又ハ差圖附ノ積荷目録若クハ無記名ノ積荷目録ヲ正當ニ所持スル者ニ引渡ス可キモノトス船長前ニ記ス所ノ人々ヨリ他人ニ右荷物ヲ引渡シタルキハ其責ニ任セサル可カラズ然レモ船長ソノ荷物ヲ積荷目録ノ一通ヲ正當ニ所持セテ其受取方ヲ求ムル者ニ引渡シタルキハ其引渡シノ義務ヲ適法ニ免カル、  
 一ヲ得若シ積荷目録ヲ四通以上ニ認メタルキ之ヲ有スル者詐偽ヲ以テ各種ノ人ニ讓渡シタルコトアリテ船長其讓受人ニ荷物ヲ引渡シ又ハ積荷主一通ヲ荷物ヲ受取ラシム可キ者ニ送付セテ後自己ノ有スルモノヲ他人ニ讓渡シタルキ船長荷物ヲ先キノ受取人ニ引渡シタルキニ於テハ船長ハ一モ罪ナキヲ以テ害ヲ受ケタル者ハ其害ヲ受ケシメタル者ニ對シ要償ノ權ヲ有スル耳何トナレハソノ者ノ不注意ヨリ出テ

タルコトナレハ己レヲ責ムルヨリ他ニ道ナケレハナリソノ者ハ前ノ如キ積荷目録ヲ數通ニ記シタル場合ニ在テハ其一通毎ニ認メタル總數通ノ員數ヲ記シ且荷物ハ何某ノ受取ル可キモノナルコト明記シ以テ其受取ル可キ者ニ非サレハ他ニ之ヲ讓受ケタルモノアルモ荷物ヲ受取ルノ權ナキ様ニナシ初メヨリ注意ヲ爲ス可キナリ  
 積荷目録持主即チ無記名ナルキハ手ヨリ手ニ引渡スヲ以テ其所有權他ニ移ル可シ○若シ差圖附ナルキハ裏書ニ依リテ他ニ讓渡スナリ但シ其裏書ヲ爲スニハ余輩ノ爲替手形ノコトニ付既ニ論明シタル所ノ法式ヲ行ハサルヲ得サルナリ積荷目録ノ荷物ヲ受取ルノ權ヲ證認スルノ事ニ至ツテハ裏書ノ不規則ナルト否トヲ問ハス同一ノ効アリ假令ヒ其裏書ノ不規則ナルニ依リテ荷物ヲ受取ラシムルノ委任狀ノ効ノミアルキト雖モ船長其裏書ニテ讓受人トナリタル者ニ荷物ヲ引渡シ







フニ買主ハ自己ニ向テ振出サレタル手形ノ支拂ヲナスニアラサレハ其買入レタル荷物ヲ引取ルヲ能ハサルヲ以テ其手形ノ所持人ニ保證ヲ與フレバナリ此手形ヲ「トレイト、ドキユマンテール」ト云フ(第七百七十六號參看ス可シ)

第三章 積入レタル荷物ニ關シ船長ノ義務并ニ權力ノ事

(第一千二百四十九號) 船長ハ荷物ヲ積入ル、ニ依リテ運送者(ボクナエリエー)ノ負フ所ノ義務ト同一ノ義務ヲ自ラ約定スルナリ(海船賃借主メ海船賃借契約ニ依リテ責任ヲ負フナリ但シ反對ノ契約アルハ此限ニテ)且船長及ヒ乗組人ノ總テノ諸所爲ニ付テモ同シトスルロース(控訴院第八百七十六年六月十四日判決)其負フ所ノ義務ヲ約言セハ荷物ノ監守ニ注意ヲナシ之ヲ約定ノ場所ニ約定ノ時日マデニ運送スルノ義務是レナリ即チ左ノ如シ

第二百二十二條 船長ハ自己ニ託セラレタル荷物ニ付責任アルモノ

トス

船長ハ其荷物ノ受取ノ面書ヲ差出ス可シ  
此書面ヲ積荷目録ト云フ

船長ハ運送者ノ如ク荷物ノ受ケタル「アウワリ」即チ海上損失又ハ損害又ハ運送遅延ノ「ニ」付責ヲ負フナリ(第五百五十八號參看船長ハ運送者ノ如ク「ニ」推測ヲ受ケザルヲ得ズ即チ損失ヲ來スノ事柄ハ荷物ノ船長ノ手ニ入りタル上ニテ生シタル「何」トナレバ船長ハ荷物ヲ受取ルキニ損失ノ箇所ナキヤ否ヤ等ヲ取調ブルノ義務アレバナリ)且此事柄ハ船長ノ過失ニ依リテ生シタル「ノ」推測是レナリ(第五百六十號參看)此推測ヲ受クル「ナ」カラントスルニハ船長ハ其事柄ハ全ク自己ノ罪ニアラザル「ヲ」證セザルヲ得ズ例ヘバ以下示ス所ノ事ニ依リテ生シタル「ヲ」證スルヲ要ス(第五百六十一號第五百六十號ニ比較ス可シ)



第一抗拒ス可カラサル力(以上參看第千九十二號且第百三十條)此事タルヤ最モ屢々アルヲナリ何トナレハ海上ニ於テハ千種萬端ノ災變ノヲアレハナリ是故ニ運送方ノ遲延シタルヲモ是等ノ災變ノ爲メトルヲ容易ニ推測スルヲ得殊ニ又航海ノ時間ハ大概ヲ以テ定ムレモノニシテ決シテ何時何日到着スルト云フ如キ儘ニ定ムルヲナキモノトス

此規則ハ第三百十條(以下參看)ニ於テ取テ以テ法律トナシ不慮ノ災變ニ依リテ荷物ノ卑惡トナリタル場合ニ適施シ難船衝突奪掠ノ爲メ荷物ノ消失シタル場合ニハ適施セザルナリ(第三百二條)何トナレハ船長ハ少ナクモ海船賃貸料ノ高ニ充ツルマテ責ヲ負ヘハナリ其消失ノ場合ニ於テハ即チ其賃貸料ヲ失フナリ斯ノ如ク前二ノ場合ニ法律上區別ヲナスハ當ラザルニ似タリ此區別ハ一ノ論旨ニ基キテナシタルナ

リ余輩ハ其論ノ當適ナルヤ如何ヲ後ニ討論ス可シ(以下第三百二號參看ス可シ)

抗拒ス可カラザル力アリシヲ證シテ以テ船長ハ義務ヲ免カルヲ得可シト雖モ其力アリシ前ニ自己ノ過失ナキヲ要ス若シ是レアルニハ其力アリシヲ證スルモ義務ヲ免カルノ口實トハナラサルナリ例ヘバ荷物ノ積入方ノ拙惡ナルニ依リ互ニ衝突シタル場合又ハ甲板上リ口ヲ閉ツルヲ怠リ又ハ積荷ヲ監督スルヲ怠リタル場合ノ如キ是レナリ

其他ニ一例アリ左ノ如シ

第百二十九條 船長ハ積荷主ノ承諾書ヲシテ甲板上ニ積入レタル荷物ニ生スル所ノ總テノ損害ニ付責ヲ擔當ス可シ此定規ハ沿岸小航海ニハ適施セザルベシ



其他第二百二十五條第二百二十七條第二百二十八條第二百九十五條  
第二百九十七條ヲ見ル可シ

第二荷物送主ノ過失

即チ荷物ノ包方ノ拙悪ナルヲ又ハ海水ノ爲メ卑悪トナリ易キ物ナル  
ヲ告ケズ又ハ海ノ蒸氣ヲ受ケ卑悪トナリ易キモノナルヲ告ケザ  
ルヲ是レナリ

第三品物ノ性質不良ナルハ

第三百十條 積荷主ハ價ノ減シタル荷物或ハ性質不良ナルニ因リ或  
ハ不慮ノ事變ニ因リ卑悪トナリタル荷物ヲ海船賃借料ノ爲メ拋棄  
ス可カラス

然レハ酒油密及ヒ其他ノ流動物ノ入りタル樽(ヒユタイ)ヨリ其流  
動物流出シテ空虚トナリ又ハ殆ト空虚トナリタルハ此樽ハ海船

賃借料ノ爲メ拋棄セラレハ得ベシ

第一項別ニ説明ヲ要セスシテ理解スルヲ易シ船長ハ物品ノ性質不良  
ナル事又ハ不慮ノ事變ニ因リ物品ニ故障ヲ生スルモ其責ヲ負ハス且  
又積荷主ノ目的トナス財利ノ點相違シテ損害ヲ受クルモ船長ハ其爲  
メ價ヲ拂フヲナシ然ルニ若シ積荷主ヲシテ價値ノナキ物品ヲ拋棄セ  
シメテ海船賃借料ノ拂チ免カラシムルハ船長ヲシテ前段ノ諸件ニ  
付責ヲ負ハシムルニ至ルナリ是レ第一項ノ禁アルノ所以ナリ  
第二項ハ甚ダ法外ノ條ナリトス何トナレハ物品ノ性質不良ナルニ因  
リ又ハ荷作ノ拙ナルニ因リテ生シタルコ似タル所ノ諸件ニ付船長ヲ  
シテ責ヲ負ハシムレハナリ通常或ハ此條文ヲ解シテ曰ク流動物ノ流  
出シテ其樽空虚トナリタル場合ニ於テハ船長ハ荷物ノ運送ヲ爲サ、  
ルナリ何トナレハ其荷物到着セサレハナリト斯ク解チ與フルハ此定



規ハ積荷主ニ已ニ既ニ最利タル所ノ一規則ヲ推擴シタルモノトス積荷主ヲ保護スルハ過キタルニ似タリ而シテ其一規則ハ難船ノ場合ニ於テ海船ノ賃借料ヲ拂フノ義務ヲ積荷主ニ免スル所ノモノ是レナリ本項ハ苛酷ナリト雖モ如何トモスルヲ能ハス然レモ若シ流出シタルトハ荷作ノ拙悪ナルニ因ルヲ證明スルハ其樽ヲ抛棄スルヲ得スシテ積荷主ハ海船賃借料ヲ全ク拂ハザルヲ得ザルナリ

(第一千二百五十號) 荷物ノ受取主荷物ノ故障ヲ述ベスシテ受取リタルハ船長ハ其荷物ニ付テノ責任ヲ免カル、ナリ(第四百三十五條參看) ○第五百條ヲ比較ス可シ是故ニ船長ハ其受取主ヨリ荷物ノ受取書ヲ請求スルヲ得受取主ハ荷物ニ付故障ヲ述ブ可キト雖モ之レ(受取書)ヲ渡スヲ拒ムヲ得ス故障ヲ述ブ可キハ受取書ニ故障書ヲ添ヘテ渡ス可シ何トナレハ船長受取書ヲ得タルハ其義務ノ一部分即

テ故障ノナキ義務ノ一部分ニ付テハ責任ヲ免カルレハナリ即チ

第二百八十五條 總テ仲買人又ハ販賣受托者積荷目錄又ハ海船賃借

借書ニ記載スル荷物ヲ受取リタルハ船長ノ求メニ應シテ其受取書ヲ渡ス可シ之ヲ渡サルハ總テノ費用總テノ損失ノ償且又遲延ノ損失ノ償ヲ船長ニ拂フ可シ

船長ハ其他船舶到着後一ケ年ノ期滿得免ニ依リ責任ヲ免カル可シ(第四百三十三條參看ス可シ)但シ其期滿得免ノ期限除棄ノ原因ニ依リテ除棄セラレ、トアルナリ(第四百三十四條參看第百六條比較)

船舶ノ到着スルトキハ船長ハ其旨ヲ荷物受取主ニ通告シテ荷物ヲ引取ラシム可シ但シ是レハ積荷目錄ノ記名式ニテ認メラレタルトキニ限ルナリ若シ積荷目錄名指附又ハ持主ノ式ニテ認メラレタルハ其受取主ヲ知ルニ由ナキヲ以テ到着ノ旨ヲ通告スルヲ得ザルナリ此



場合ニ於テハ船長ハ其地方ノ新聞紙等ヲ以テ其地方ノ慣習ニ從フテ  
到着ノ旨ト積荷ノ總目錄トヲ公告スルヲ要ス

積荷ニ關シ船長ノ權力

(第千二百五十一號) 船長ハ荷物ヲ監守シ且之ヲ指定ノ場所ニ運送ス  
ルノ任ヲ受クルヲ以テ此二ノ目的ヲ達スル爲メ要スル總テノ處置ヲ  
行フヲ得ルノ權利アリトス此權利ハ船舶ヲ修覆スルヲ要シ又ハ  
食料ヲ積入ル、ヲ要スルキハ第二百三十四條第一項ニ示定シタル  
法式ト許可ヲ得ルノ規則トヲ履行シテ荷物ヲ賣入トナシ又ハ之ヲ賣  
拂フテ金ノ調達ヲナスコトマデニ及ブモノトス但シ此ノ如クセサルキ  
ハ航海ヲ續イテナスコト能ハサル時ニ限ル可シ(以上第千二百一號參看  
ス可シ)○又前段ト同一ノ理由アルキハ船長ハ金ノ調達ヲナス爲メ積  
荷ヲ以テ運賃借契約ヲナスコトヲ得ル者トナサザル可ラズ何トナレバ

此ノ如クシテ金ヲ借入ル、ハ積荷ヲ賣入レトスルヨリ重大ナラス且  
又積荷ヲ賣拂フヨリモ事最モ重大ナラス其荷物上ニ其金ノ貸主ノ爲  
メ契約ヲナシタルニ因テ生スル特權ハ第二百三十四條第一項ニ於テ  
示ス所ノ諸法式ヲ行フタルト否トニ係ハラズ存立スルモノトス其理  
由ヲ說カン夫レ本文ヲ立法者ノ商法典中ニ置ク所ノ場所ヲ以テ觀ル  
キハ本條ノ目的ハ艦裝者ニ對シテ船長ノ責任ヲ解免スルコト付テ要ス  
ル諸條件ヲ示定スルニアリテ船長ノ爲シタル契約ノ他人ニ對シテ有  
効トナルニ付テノ諸條件ヲ示定シタルニアラザルナリ○反テ積荷主  
ヲ保護スル爲メ設ケタル豫防ノ規則ナリ(第千二百五十三號比較)之ヲ  
積荷主ノ不利トナル様ニ適施スルヲ得サルナリ○且積荷物ノヲニ  
就テハ船舶ノヲニ關シテ設ケタル第九十二條第五項ニ均シキ條文ハ  
一モ法典中ニ存セサルナリ



此等ノ費用(即チ修覆ノ費用食料買入ノ費用)ハ第一ニ海船ノ所有者ノ爲メニ費サル、ナリ何トナレバ修覆シタル船舶ハ海船ノ所有者ニ所屬シ且食料ノ代金ハ海船貸貸者契約ニ依ルキハ其所有者ノ出ス可キモノナルヲ以テ其費用ハ全ク其所有者ノ利益トナレバナリ然レモ或説者ノ論ノ如ク其費用ハ荷物ヲ約定ノ期日ニ約定ノ場所へ送致スルニ必要ナルヲ以テ一時ハ荷物ノ所有者ノ利益トナルナリ且其約定ノ場所ニ定期限ニ荷物ノ到來スルキハ積荷主ハ目的トナス射利ノ道ヲ行フヲ得ルナリ夫レ是ノ如ク其費用ハ荷物ノ所有者ノ利益トナルヲ以テノ故ニ船長ニ其荷物ヲ賣拂ヒ又質入ト爲スヲ許シタルナリ

○尤モ第二百三十四條ノ精神ニ依ルキハ船長ハ航海ヲ終ルニ付キ止ムヲ得ザルノアルニアラザレハ荷物ヲ賣拂ヒ又ハ質入レトナスヲ能ハサルハ勿論ナリトス之ヲ詳言スレバ船長海船ノミヲ引當トナス

モ要スル丈ケノ金高ヲ借入ル、一能ハサルキ假令ヒ船舶ニ借金ヲ以テ修繕ヲナスモ其船舶猶ホ荷物ノ所有者ニ償ヲ拂フニ足ル價值ヲ有スルキ他船ニ積荷ヲ積替へテ最廉價ニテ運送ヲ仕遂ケントスルモ他船ヲ見出ス一能ハサルキニアラザレバ船長荷物ヲ賣拂ヒ又ハ質入レトナシテ金調ヲナスヲ得ザルナリ而シテ此等ノ事ヲ能ク慮カラシムル爲メ第二百三十四條ハ乗組中ノ重立ヲタル者ノ手署シタル評議書ト修繕ヲナサントスル土地ノ佛蘭西ノ官吏ノ許可ヲ要ストセリ

荷物賣拂ハレタルキハ艤裝者ハ其荷物ノ所有者ニ償ヲ爲サザルヲ得ズ何トナレバ金ノ調達ヲナシテ之ヲ費用シタルハ艤裝者ノ元ト負擔ス可キ費用ナレバナリ即チ

第二百三十四條第二項 海船ノ所有者又ハ之ヲ代理スル船長ハ賣拂ハレタル荷物ノ勘定ヲ海船ノ到着ヲナシタル時其積卸ノ土地ニ於



テ同種類同品等ノ荷物ノ時相場ニ從テ爲ス可シ

船長本條第一項ノ諸法式ヲ履行シ且余輩ノ前ニ示シタル諸規則ヲ守  
リタルキハ自ラ責ニ任セス艤裝者ノ代理者トシテ事ヲナシタルヲ以  
テ賣拂ハレタル荷物ノ所有者ニ支拂ヲナシ又其他仕拂ヲナスモ艤裝  
者ノ代理者トシテ之ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ

(第一千二百五十一號) 法律ハ其他第二百三十四條第二項ニ於テ如何ナ  
ル方法ヲ以テ荷物ノ價值ヲ定ムルカナ示定ス然レモ此項ハ第二百九  
十八條第一項及ヒ第二項ニ於テ變更スル所トナレリ其第二百九十八  
條ニ於テ海船ノ安着シタルト否トノ場合ヲ區別シ第二百三十四條ノ  
定規ヲ第一ノ場合即チ海船ノ安着シタル場合ノミニ適用ス即チ

第二百九十八條第一項及ヒ第二項 海船賃借料ハ船長海船ノ食料ヲ  
得ル爲メ又ハ其修覆ノ爲メ又ハ其他急速ナル止ムヲ得サル事ノ爲

メ餘義ナク賣拂フタル荷物ニ付テモ拂フ可キモノトス但シ船長ハ  
其残り物件安着シタルキハ其残り物件又ハ之ト同品等ノ他ノ荷物  
ヲ荷卸ノ地ニ於テ賣拂フ可キ價ヲ以テ其賣拂ハレタル荷物ノ價ヲ  
勘定ス可シ  
若シ海船消失シタルキハ船長ハ其荷物ヲ賣拂フタル代價ヲ以テ其  
荷物ノ勘定ヲナス可シ但シ積荷目錄ニ記ス海船賃借料ヲ引去ル可  
シ

第一項ノ場合ニ於テハ賣拂ハレタル荷物ノ所有者ヲシテ其荷物賣拂  
ハレズシテ元ノ儘ニテ船中ニアリシト同様ニ取扱フハ至當ナリ定メ  
テ其所有者ハ荷卸ノ地ノ相場ヲ以テ其荷物安着ノ時ハ賣拂フナラン  
ト雖モ尙ホ其實價ヲ得ルノ權アリトナシ若シ其實價ノ最低ノ場合ニ  
三編第三卷第十四條ニ於テ積荷主ハ何レノ場合ヲ問ハズ賣拂ノ實價



於テハ其損失ノ償ヲ得セシメタリ是レ其賣拂ヒハ其積荷主ノ爲メト  
 サレタルモノト思量シタルヲ以テ然ルナリ其賣拂ヒハ此論意ヲ捨テ取  
 ラサリシナリ至當ト云フ可シ何トナレハ其賣拂ヒハ法律ニ於テ許シ  
 ダル公同ノ利益ノ爲メ物件ヲ取上ルノ義ニ從ヒ共同ノ利益ノ爲メナ  
 ルヲ以テ其賣拂ニ於テ德分ヲ受ク可キノ理ナシ唯其權利ハ損害ノ償  
 チ受クルニ止マルナリ而シテ商法典ニ於テハ其償額ヲ最至當ニ量定  
 ス「フ」レムレ氏ハ自己ノ著書第百二十四條○第二項ノ場合ニ於テハ難  
 丁及ヒ以下ニ於テ其事ヲ最明ニ辨シタリ○第二項ノ場合ニ於テハ難  
 船アリト雖モ荷物或ハ助カル「フ」アリトス故ニ積荷主ヲ待遇スルニハ必  
 ス荷物ヲ失フモノトシテ待遇ス可カラズ且又海船ノ修覆等ノ費用ハ  
 艤裝者ノ固ヨリ負擔ス可キモノアルヲ以テ船舶ノ消失シタルニ依リ  
 テ其費用ヲ拂フノ義務ヲ免カレシムルハ至當ナラス是故ニ艤裝者ハ  
 賣拂ハレタル荷物ノ所有者ニ對シテ損失ノ償ヲ拂ハザルヲ得ズ而シ  
 テ其額ハ其荷物ヲ賣拂フタル價額ナリトス是レ至當ナリ夫レ艤裝者  
 ノ單ニ利益トナリタルモノハ其賣價ノ額ナリ假令ヒ其荷物ノ助カル  
 モノトスルモ(是レカイモ期ス可カラザル事ナリ)何クニ於テ其荷物ヲ

賣拂フカハ豫知ス可カラザル「フ」ナルヲ以テ其損失ノ償額ヲ定ムルニ  
 ハ只其賣價ノ額ヲ以テスルヨリ好策ナキナリ  
 (第一千二百五十三號第一千九十八條第三項 但シ此等ノ二箇ノ場合ニ  
 於テハ第一千二百十六條第二項ニ於テ海船ノ所有者ニ與ヘタル權利ハ  
 尙ホ之ヲ行「フ」ヲ得)

千八百四十一年六月十四日ノ法令ハ船長ノ爲シタル負債ニ對シ艤裝  
 者ノ陸上ノ財産ヲ總テノ場合ニ於テ保護スル爲メ第一千二百十六條ニ修  
 正ヲ加ヘタリ本項ハ其修正ノ結果ニテ同法令ヲ以テ之ヲ加設セタリ  
 第一千二百十六條第二項ニ與フル權利トハ海船ノ所有者船長ノ爲シタル負  
 債ヲ自ラ負擔スル「フ」ヲ免カレントスルニハ海船ト其賃貸料トヲ拋棄ス  
 ル「フ」ヲ許ス是レナリ第一千九十八條第三項ニ於テ其權利ヲ尙ホ行フ  
 「フ」ヲ得ルトナシタルハ若シ海船修覆ヲ加ヘラレタル後ト雖モ拋棄ス



ル海船賃貸料ヲ加ヘテ其負債ヲ仕拂フニ足ルノ價額ヲ猶ホ有スルナ  
レ○理解スルヲ易シ此場合ニ在テハ假令ヒ其後不慮ノ變異ノ爲メ其  
價額ヲ減スルヲアルモ其修覆等ヲナシタルハ航海ヲナシ終ルニ付積  
荷主ノ一同ノ爲メ必要ナリトス故ニ積荷主其損失ヲ負擔スルハ至當  
ナリ又修覆ヲナシタル海船ノ價額其費用ヲ償フニ足ラサルト雖モ  
積荷ヲ賣拂フテ修覆ヲナシテ運送ヲナスニアラザレバ他ニ運送ヲナ  
スノ道ナキトハ前同様ナリトス假令ヒ其積荷ヲ賣拂フトハ其所有者  
ニ非常ノ損失ヲ生セシムルト雖モ之ニ關係セザルナリ何トナレバ  
其費用ハ積荷主ノ爲メ殊ニ費ヤサレタレハナリ然レモ船長其任ヲ免  
セラル、トナ恐怖シ(是レハ船舶違則ノ廉ヲ以テ罰セラレタル時ニア  
ルヲナリ)世人ヨリ觀ルトハ修覆ヲナサズルヲ最可トスル時ニ修覆ヲ  
ナサズメタルト雖モ猶ホ本項ヲ適用シ得ルニ至ツテハ本項ハ實ニ

苛酷ナルニ似タリ勿論積荷主ハ船長ニ對シテ自ラ要償ノ權ヲ有スル  
ト雖モ(第二百三十六條)然レモ船長ハ多クハ辨償ノ資力ナキヲアルヲ  
以テ其要償ノ權ヲ行フトモ効ナキトアリ果シテ然レバ其船長ノ過失  
ノ責ヲシテ船長ヲ撰定シタル艤裝者ニ負ハシメ船長ヲ撰定セザル積  
荷主ニ負ハシメザルヲ以テ至當ナリト云フ可カ千八百四十一年ノ法  
令ノ立法者ハ之ヲ可ナリト思惟セザルナリ○其立法者ノ前論ノ如ク  
ナサズリシハ先ツ第一ニ艤裝者ヲ保護シタルナリ○其保護ヲ本項ヲ  
以テ爲シタルハ不當ノトニアラストセリ何トナレバ第二三十四條  
第一項ニ於テ荷物ヲ賣ル可キトハ官吏ノ許可ト乗組人ノ評議書トヲ  
要シタルハ其賣拂ノ處分積荷主ノ全ク利益トナラザレバ少クモ一部  
分利益トナリタルノ保證ニシテ貸主又ハ買主ノ如ク艤裝者モ責ヲ免  
カル、ニ足ルモノト思惟シタレハナリ且其船長ノ氏名ハ海船賃貸借



書中ト(第二百七十三條)積荷目錄中ニ記シアルヲ以テ(第二百八十一條)積荷主ハ荷物ノ一ニ關シテ其船長ヲ信認シタレハナリ。且船長ノ自己ノ權力ヲ濫用シテ積荷主ヲ害スルコトナキ爲メ積荷主ヲ保護スルニ付其濫用ノ害ヲ防避スルノ方法ヲ定メタリ假令ヒ本項アルモ積荷主ノ不正ニ害ヲ受クルコト少クナリ

(第千二百五十四號) 其防避スルノ方法トハ先ツ積荷主費用ノ非常ニ嵩ムト思惟スルキハ之ヲ避クル爲メ自己ノ荷物ヲ海船ヨリ積卸スル權アル是レナリ即チ

第二百三十四條第三項(千八百四十一年六月十四日ノ法令ニ依リ設ケラレタルモノ)

海船賃借主只一人ナルキハ積荷主數人ニシテ一同々意ナルキハ荷物ヲ積卸シ且航海ノ進行ニタル割合ヲ以テ海船賃借料ヲ拂フテ

其○荷○物○ノ○賣○拂○又○ハ○質○入○ヲ○拒○ム○コト○得○積○荷○主○中○ノ○一○人○ノ○同○意○ナ○キ○積○荷○主○卸○ス○ノ○權○ヲ○使○用○セ○ン○ト○ス○ル○者○ハ○其○荷○物○ニ○付○海○船○賃○借○料○ノ○全○額○ヲ○拂○フ○可○キ○モ○ノ○ト○ス

是レ其積荷主等現場ノ事情ヲ知ルモノトナシ斯ク定メタルナリ此ノ如ク賣拂又ハ質入ヲ拒ムコトハ此法律ノ討議ノ時節ニハ稀ニ行ハレタリト雖モ今日ハ電信ノ効ニ依リテ行ハルコト多キニ居ルナリ今日コアリテハ船長ハ電信ヲ以テ積荷主ニ一應問合ヲナシ得可キキハ何レノ地ニアルヲ問ハス問合ヲナス可キモノトナシ違フキハ第二百三十六條ニ從ヒ自ラ責ニ任セサルヲ得ズトナサマルヲ得ザルナリ又第二百十六條ノ適用ヲ寬ニスルノ第二ノ方法アリ是レ千八百四十年ノ法律ニ於テ定ムル所ナリ即チ損失ハ賣拂ハレタル荷物ノ所有者ノ獨リ負擔スルニアラズシテ積荷ニ關係ヲ有スル各人ト之ヲ分擔



スルナリ即チ

第二百九十八條第四項 若シ此權利ヲ行フニ由テ荷物ヲ賣拂ハレ又ハ質入レトセラレタル者ノ爲メ損失生シタルハ其損失ハ其荷物及ヒ指定ノ所ニ到着シタル荷物又ハ賣拂若クハ質入ヲ要シタル海上ノ事變ノ後難船シテ助ケラレタル荷物ノ價ニ準シテ平等ニ割付ケラル可シ

是レ第二百三十四條第一項ヨリ生シタル推測ノ結果ナリトス其推測トハ第一項ニ云フ所ノ處置ハ全ク積荷主ノ利益ニ爲シタルモノトスル是レナリ船長ノ賣拂ヲナシ又ハ質入レトナシ得ルモノハ荷物ノ如何チ間ハサルナリ船長勝手ニ其荷物ヲ撰擇シテ以テ損失ヲ其一部ニ負シメ他ノ一部ヲシテ之ヲ免カラシムルハ至當ナラズトス

第八卷 「フレ」又ハ「リ」ノ事即チ海船賃借料ノ事

本卷ニ於テハ余輩ノ既ニ説明シタル數條ヲ除キテ第一積荷主ノ海船賃借料ヲ拂フノ義務○第二此義務ノ爲メ艤裝者ニ付與シタル擔保ノ事ヲ説カン且此ノ擔保ヲ説クハ艤裝者ニ對シテ積荷主ニ付與シタル擔保ノ事ヲ論ス可シ

第一章 海船賃借料ヲ拂フノ義務

(第千二百五十五號) 第三百九條 如何ナル場合ニ於テモ積荷主ハ海船賃借料ノ價額ノ減少ヲ求ムルヲ得ズ

本條ハ民法典第千三百三十四條ノ定規アルニ於テハ不要タルニ似タリ第千三百三十四條ニ依ルキハ凡ソ契約ハ之ヲ取結ヒタル者ノ法律タリトス又本條ハ當チ得ザルカ如シ何トナレバ余輩ノ後ニ説ク如ク海船賃借契約ヲナシタル以後ニ到來スル事件ニ由テ海船ノ賃借料ノ減少スルコトアレハナリ(第二百九十六條第三百三條第一項第二百三十四



條第三項)且若シ積荷主船長ニ對シテ損害ノ償ヲ得ルノ權アルハ自  
 己ノ拂フ可キ海船賃借料ヲ以テ差引スルヲ得ルヤ明ナレハナリ本  
 條ノ文面ニ付テ前ノ如ク論シ來レハ本條ハ不要ニシテ且不當ノ條タ  
 リ然レモ本條ニ於テ法律ノ示サントスル所ハ積荷主ハ海船賃借料ヲ  
 計算スル爲メ其契約ニ定メタル土臺トナル可キ件即チ基礎ヲ變更ス  
 ルヲ得スト云フコアリ決シテ文面ヲ以テ論ス可キモノハアラス或  
 ル情狀アリテ其時ニ航海チナシ海船賃借料ヲ例ヘハ百ト定メ而シテ  
 其情狀海船賃借契約チナスキニ存成シ又ハ知レタルニ於テハ百ヨ  
 リ以下ノ額ニ定メタル可キコアリ其情狀ハ即チ海船賃借料ノ基礎ト  
 ナルナリ斯ル場合ト雖モ其基礎ハ變更スルヲ得サルナリ例ヘハ海  
 船賃借契約チ戰時ニナシ其賃借料ヲ最高ノ額ニ定メタリ然ルニ航  
 海ハ全ク平和ノ時ニナシ又ハ一部分丈ケ平和ノ時ニ爲シタリトセン

ニハ之ヲ口實トシテ其賃借料ノ減額ヲ求ムルヲ得ザルナリ

海船賃借契約ヲ取結ヒタルヨリ以後ニ到來スル事件ノ爲メニ海船  
 賃借料ヲ全ク拂フノ義務ヲ變更スルコアリ商法典ハ本卷ニ於テ此變  
 更ノコトヲ殊更ニ定ムルナリ法律ノ制定スル所ノ前ニ云フ事件トハ之  
 チ約言スレハ左ノ五箇ノ事項トナルナリ

第一 積荷ノ減少又ハ増加ノコト

第二百八十七條 海船全部ニテ賃借シセラレテ其海船賃借主其全部  
 ノ荷物ヲ積入レサルキハ船長ハ其海船賃借主ノ承諾ヲ得スシテ他  
 ノ荷物ヲ積入ル、コトヲ得ス

海船賃借主ハ其全部賃借リシタル海船ノ積荷ヲ補充スル所ノ荷物  
 ノ海船賃借料ヲ所得トナス可シ

第二百八十八條 海船賃借主海船賃借書ニ記ス所ノ荷物ノ高ヲ積



入レサルキハ其約定シタル全部ノ積荷ニ付テノ海船賃借料ノ全部  
ヲ拂フ可キモノトス

若シ約束ノ高ヨリ餘計ニ荷物ヲ積入レタルキハ海船賃借書ニ於  
テ算定シタル價額ニ準シテ其餘分ノ海船賃借料ヲ拂フ可キモノト  
ス若シ海船其積荷ノ一部分ヲ受取リテ其全部ノ積荷ナク出帆スル  
キハ海船賃借料ノ全部ヲ船長ニ拂フ可キモノトス

(第千二百五十六號) 海船賃借主ハ前已ニ論シタル如ク海船賃借契  
約ニ依リテ約定ノ荷物ヲ積入レテ其海船賃借料ノ全部ヲ拂ハサルチ  
得サル者トス海船賃借主ハ積荷ヲ少シモノナササルキハ償金ヲ拂フテ  
以テ海船賃借契約ヲ解除スルコトヲ得而シテ法律ハ其拂フ可キ償金ハ  
約定シタル海船賃借料ノ半額ナリト定ムナリ(第千二百八十八條第三項  
○以上第千二百四十一號參看)然レモ海船賃借主荷物ノ一部分ヲ積入

レタル以上ハ船長海船全部ノ荷物積入レテ補充スル爲メ他ノ荷物ヲ  
求メ得サルキ海船賃借料ノ全部ヲ拂フ可キモノトス何トナレハ若シ  
然ラストスルキハ其艤裝者ハ損害ヲ受クレハナリ船長海船全部ノ荷  
物積入ヲ補充スル爲メ他ノ荷物ヲ求メ得サルキノ條件ヲ第千二百八十  
八條第四項ニ依リテ其第一項ニモ加ヘテ論ゼザルチ得ス○但シキ  
エイトニテ即チ幾許ノ荷物ヲ積入ル、コアラハ出帆スベキ約束ニテ  
海船ニ荷物ヲ積入レタルキハ前段ノ例外トナササルチ得ス此場合ニ  
於テハ船長ノ義務ハ未必ノ條件ニ關スルチ以テ(第千二百三十八號參  
看)積荷ハタトヒ之レヲ積入ル、ト雖モ海船賃借料ノ半額ヲ償金トシ  
テ拂フテ以テ其荷物ヲ取戻スコトヲ得即チ

第千二百九十一條 若シ海船ニ幾許ノ荷物ヲ積入ル、コアラハ出帆ス  
ベキ約束又ハキヤンタール(五十)キログラムニ當ル)又ハ噸數又ハ



請負ヲ以テ荷物ヲ積入レタルキハ積荷主ハ海船ノ出帆前ニ其賃借料ノ半額ヲ拂フテ以テ自己ノ荷物ヲ引取ルヲ得

其積荷主ハ荷物積入ノ費用積卸ノ費用他ノ荷物ヲ動カシ之ヲ積直スノ費用並ニ遅延ノ費用ヲ擔當ス可シ

積荷主ハ亦タ積入チナス可キ荷物ヲ海船賃借料ノ半高ヲ拂フテ以テ積入レサルヲ得前ノ如ク積荷ヲ引取ルヲ又ハ積荷チナサ、ルヲハ荷物中ノ一部分ニ止マルヲ得即チ積荷ノ一部分ヲ引取り又ハ其一部分ヲ積入レザルヲ得ベシ何トナレハ法文ノ之ヲ禁スルヲナケレハナリ○此權利即チ前段ノ事ハ海船ノ出帆チナサントスルキト雖モ之ヲ行フヲ得何トナレハ本條ハ明カニ其出帆ノ遅延シタルニ付拂フ可キ償金ノヲ定ムレバナリ

〔第一千二百五十七號〕 船長ハ海船ノ全部賃借セラレサルキハ積荷主チ

シテ其積入ル、ヲ約シテ積入レサル荷物ニ付海船賃借料ヲ拂ハシムルノ義務ヲ減免スル爲メ積荷ノ補足チナスニ付他ノ荷物ヲ積入ル、者ナキヤチ求ムルノ權アリ是レ第一千二百八十七條ノ反對觀ニ依リテ生ズルナリ第一千二百八十七條ニ於テハ海船全部ノ賃貸チナケル場合ニハ其賃借主ノ承諾ヲ得ズシテ他ニ荷物ヲ積入ル、ヲ船長ニ禁ス此場合ニ於テハ其賃借主ハ海船ノ賃借料ノ全高ヲ拂フテ企テタル航行チナスニ付海船ヲ自由ニ使用スルノ權アリ或ハ急速ヲ要スル爲メ或ハ荷物ノ多キキハ到着ノ港ノ物價ヲ下落スルヲアルヲ以テ之ヲ防ク爲メ海船ノ積入ル、丈ケノ荷物ヲ積入レザルヲ其賃借主ニ於テ都合ノ好キヲアリ○但シ船長ハ其賃借主ニ對シテ船舶ノ賃借料ノ拂チ保證スルニ足ル丈ケノ荷物ヲ積入ル可キヲ請求スルヲ得ヘキナリ〔商法典第二百八十條民法典第一千七百五十二條第一千七百六十六條チ



参照ス可シ若シ海船ノ賃借主其約定外ニ荷物ヲ積入レタルハ海船  
 賃貸借契約ノ補足契約更ニ成立スル者ト云フ可キナリ斯ル場合ニ於  
 テハ法律ハ其補足ノ契約ヲ主タル海船賃貸借契約ト同一ノ條件ヲ以  
 テ其雙方ノ者取結ヒタルモノト看做シタリ實ニ至當ノ掩測ナリトス  
 (第千二百五十八號) 第二百九十二條 船長ハ荷積ノ場所ニ於テ己レ  
 ニ届ケズシテ積入レタル荷物ヲ見出シタルハ之ヲ陸揚セシムル  
 カ又ハ同一ノ性質ノ荷物ニ付同一ノ場所ニ於テ拂フ所ノ最高ノ價  
 額ヲ以テ其海船賃貸料ヲ受ルヲ得可シ

船長ハ已レ積入ル、ヲ承諾セサル荷物ヲ運送スルノ義務ナキモノ  
 トス○然レモ船長ハ己レノ承諾ナク積入レタル荷物ト雖モ必ス積入  
 ノ場所ニ於テ陸揚ス可キモノトス何トナレハ他ノ場所ニテ陸揚ケサ  
 レタルハ其荷物ノ所有者ノ大迷惑トナレバナリ斯ルハ其所有者

ハ最高ノ船賃ヲ拂フヲ要ス但シ此等ノ荷物船内ニアルハ海船ノ進  
 行又ハ平寧ヲ害ス可キノ場合ハ前段ノ例外トナサズ得ズ此場合  
 ニ於テハ船長ハ其荷物ヲ海中ニ投入スルヲ得可シ

第二 航海ノ妨害ノコト

(第千二百五十九號) 第二百七十六條 海船ノ出帆前ニ其到ラントス  
 ル國ト通商ノ禁止アルハ其海船賃貸借契約ハ双方共ニ償ヲ求ム  
 ルヲナク解除ス可シ

積荷主ハ自己ノ荷物ノ積入ト積卸トノ費用ヲ負擔ス可シ

本條ノ場合ニ於テ抗拒ス可カラサル力ノ爲メ航海ニ妨害ヲ生シタル  
 ナリ故ニ海船賃借主ハ假令ヒ荷物ヲ積入タルニモセヨ海船賃借料モ  
 又一切ノ償金ヲモ拂フヲ要セサルヘシ之ト同シク海船賃借主モ海  
 船ヲ出帆セシムルヲ要セス又決シテ償金ノ一錢ダモ拂フニ及ハサル



ナリ是故ニ法律ハ其各人ニ各々其航海ヲサントスルニ付キ費シタル入費ヲ負擔セシム即チ積荷主ハ荷物ノ積入ト積卸トノ入費ヲ擔當シ艤裝者ハ船舶ノ艤裝ト食料備付トノ入費ヲ擔當スルナリ○前段ノ事ハ指定地ノ港封鎖セラレタルキニモ適用スルナリ○夫レ本條ハ到底航海ヲ爲スル能ハサル場合ヲ定メルナリ故ニ戰ハ本條ノ場合ヨリ最大ノ危険ヲ來タスアルニモセヨ之ニ第二百七十六條ヲ適用スルヲ能ハサルナリ此場合ニ於テ航海ヲ止ムルヲアルモ隨意ニ之ヲ止ムルヲニシテ雙方ノ一方ヨリ償金ヲ拂フコアラサレバ之ヲナスル能ハサルナリ

第三 航海ノ遅延スルヲ

〔第一千二百六十號〕 第一航拒ス可カラサルカニ依リテ航海ハ遅延ノハ○此場合ニ於テハ積荷主モ又海船賃貸主モ共ニ其遅延ノ害ヲ受ケザ

ルヲ得ス故ニ互ニ償金ヲ求ムルヲ得ス又拂フヲ要セサルナリ不慮ノ災變ハ之ヲ受ケタル者之ヲ負擔セサルヲ得ス即チ

第二百七十七條 海船ノ出帆ヲ一時妨クル抗拒ス可カラサルカアル

キハ其海船賃貸借契約ハ尙ホ成立ツ可シ且其遅延ノ爲メ損害ノ償ヲ求ム可カラス

航海中其抗拒ス可カラサル力到來スルキハ其海船賃貸借契約ハ尙ホ成立ツ可シ且海船賃貸料ノ増加ヲ求ム可カラス

本條ニハ遅延ノ爲メ海船ノ賃貸料ノ増額ヲ求ム可カラスト云フヲ以テ若シ船舶月極メニテ賃貸セラレタルキハ其船舶ノ航海ヲ止ムル間ハ其賃借料ヲ拂フニ及ハサルナリ是レ法律ノ暗ニ定ムル所ナリ(ウワレン)氏王令第一編第三卷第八條

第二百七十八條 積荷主ハ海船ノ停駐スル間ニ自己ノ入費ヲ以テ荷



物ヲ積卸サシムルヲ得但シ之ヲ再ヒ積入ル、カ又ハ船長ニ償ヲ拂ハサルヲ得ズトス

積荷主海船賃借ノ契約ヲ解除セントスル時ニ於テ法律ハ其艤裝者ニ拂フ可キ償金ノ額ヲ定メス然レモ余輩ヲ以テスルキハ艤裝者ハ他ノ荷物ヲ動カシ之ヲ積直ス入費ノ外ニ船舶ノ賃貸料ノ金額ヲ受クルノ權アルモノトス例トナレバ是レ第二百八十八條及ヒ第二百九十三條ノ定ムル場合ナレバナリ立法者ハ第二百七十八條ニ於テ此二條ニ背キ例外ヲ設ケタルヲ示ス可キモノ一モナキナリ

第二百九十六條ハ二百七十七條ト同一ノ元則ヲ適用ス即チ

第二百九十六條第一項及ヒ第二項 船長航海中海船ノ修覆ヲ止ムヲ得スナサシム可キキハ海船賃借主ハ待タサル可カラズ又ハ海船ノ賃借料ノ金額ヲ拂ハサル可カラサルモノトス

海船ヲ修覆スルヲ得サリシキハ船長ハ他ノ海船ヲ賃借リセサルヲ得ストス

他ノ海船ヲ賃借リスルノ義務ハ艤裝者ハ之ヲ負ハサルナリ艤裝者ハ賃貸シタル物件ノ消失シタルニ由テ義務ヲ免カル、ナリ但シ海船初メ出帆サナスキ堅固ニシテ一モ修覆ヲ施ス可キヲナキ形狀タリシヲ要スルナリ(第二百九十七條然レモ前段ニ述ブル義務ハ船長之レヲ負ハサルヲ得ス其之ヲ負フハ積荷主ノ代理者トシテ之ヲ負フナリ其代理者タリ故ニ積荷主ノアラサルキハ之ニ代リテ其利益ヲ保護セサルヲ得サルナリ故ニ船長若シ最高ノ海船賃借料ヲ其場合ニ於テ拂ハタルキハ必竟其賃借料ハ積荷主ノ負擔ニ屬スルナリ(第二百九十三條參看ス可シ)

若シ航海ノ遅延シタルヲ或國ノ命令ニ依リテ生シタルキハ第二百七